

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価 全体評価

①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- 中期目標を達成するため、全体として高水準の活動が展開された。
- 業務運営については、様々な制約がある中で、各館は最大限の成果をあげており、これ以上の「サービス拡大」、「事業の拡大」を行うためには、人員の増加が不可欠である。
- 高齢者や障害のある方々へのハード面での対応、収蔵スペースの確保、保存・管理のための専門職員の配置、職員研修の在り方などが課題である。

②法人経営に関する意見

- 国立美術館としてのビジョンや目的をより明確にすることが必要である。
- 学芸部門と他の部門との意思の疎通が活発になったこと、また作品購入費の弾力的運用、企画展等の情報交換など法人全体を考慮しての経営が始まったことを評価する。
- 今後は、4館それぞれの独自性を重視しつつ、トップマネジメントをさらに強化し、渉外活動については法人全体の計画を策定し調整の上、成果を各館に分配することが必要である。また、本部機能の視点からは、人事運用を含めた経営全般について、一層の連携を図ること必要である。現状が厳しいことは理解しているが、自助努力による収入をもっと増やすなど、今後とも一層の努力が望まれる。また、共催展の在り方について今後検討することが必要である。
- 経営効率的マネジメント以上に、芸術文化振興の中心的担い手(ナショナルセンター)としてのマネジメントを本部に要請したい。現代における新しい文化の創造と発展の担い手として、日本社会に多様なメッセージを発信するよう、より積極的な取組を期待する。

③特記事項(中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等)

- 法人が経営上のインセンティブを失うことのないよう、経営努力による剰余金が適正に認められるシステムやルール作りを制度官庁である総務省を中心に行うことが必要である。

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【東京国立近代美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A
(中項目名)常設展(本館)	(中項目名)常設展(本館)	(中項目名)常設展(本館・工芸館含む)	B	A	A	A
(中項目名)常設展(工芸館)	(中項目名)常設展(工芸館)		B	A	A	A
		全体で評価	-	A	B A A A	
(中項目名)特別展等(工芸館)展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等(工芸館)展覧会ごとの評価		B A A A	A A A	A B A A A	
(小項目名)特別展等入場者数(本館)展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数(本館)展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数(本館・工芸館含む)展覧会ごとの評価	A A A	A A A	B A C A A A	B A A A B
(小項目名)特別展等入場者数(工芸館)展覧会ごとの評価	(小項目名)特別展等入場者数(工芸館)展覧会ごとの評価		B A A A	A A A	A B A A	A A A

(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A		
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A		
(小項目名)客員研究員招聘人数			-					
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A		
(中項目名)広報活動の状況			A					
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A					
(小項目名)出版件数「現代の眼」			A	A	A	A		
(小項目名)出版件数 展覧会案内			B	B	A	A		
(小項目名)ホームページのアクセスの件数			A	A	A	A		
(中項目名)講演会等の実施状況			(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況	A							
(小項目名)講演会の回数	(小項目名)講演会等回数	(小項目名)講演会(本館)回数			A	A	A	B
(小項目名)講演会等の参加者数	(小項目名)講演会等人数				A	A	A	
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)講演会等に対するアンケート結果				A	A	B	
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の開催件数	(小項目)児童生徒に対するギャラリートーク				A	A		
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の参加者数					A			
(小項目名)ギャラリートークの回数	(小項目名)ギャラリートークの回数	(小項目名)ギャラリートークの回数(本館)	B	A	A	A		
		(小項目名)ギャラリートークの回数(工芸館)			(小項目名)ギャラリートークの回数(工芸館)	A	A	
(小項目名)ギャラリートークの参加者数	(小項目名)ギャラリートークの参加者数	(小項目名)ギャラリートークの人数(本館)	A	A	A	A		
		(小項目名)ギャラリートークの人数(工芸館)			A			
	(小項目名)ギャラリートークアンケート	(小項目名)ギャラリートークアンケート(本館)	A	A	B			
		(小項目名)ギャラリートークアンケート(工芸館)			A			
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A		
(中項目名)ボランティアの活用状況			B					
(中項目名)渉外活動の状況			B	B	A	B		
(中項目名)その他の入館者サービス	(中項目名)その他の入館者サービス	(中項目名)その他の入館者サービス	A	A	A	A		
(中項目名)新たな美術館施設の円滑な運営について			A					

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

**独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価
項目別評価総表【東京国立近代美術館フィルムセンター】**

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	A
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	B	A
(中項目名)修理の状況			A	A	B	A
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A
(中項目名)展覧会及び企画上映 展覧会及び企画上映ごとの評価	(中項目名)展覧会及び企画上映 展覧会及び企画上映ごとの評価	(中項目名)展覧会及び企画上映 全体で評価	A A A A A A	A A A A A A	A A A A A A	A
(小項目名)展覧会等入場者数 展覧会及び企画上映ごとの評価			A A A A A A	A B B C C C A A	A B A A B A A A	A A B B A B A A
(中項目名)優秀映画鑑賞推進事業			A	A	A	A
(小項目名)実施会場数			A	A	A	A
(小項目名)入場者数			A	A	A	A

(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A
(小項目名)客員研究員招聘人数			A	A	A	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)「ニューズレター」発行回数	(小項目名)ニューズレター	(小項目名)ニューズレター	A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A			
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			B			
(小項目名)講演会の回数	(小項目名)講演会等回数	(小項目名)講演会の回数	A	A	A	A
(小項目名)講演会等の参加者数	(小項目名)講演会等人数		B	C	A	
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果			B			
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の開催件数	(小項目名)相模原分館における上映会	(小項目名)相模原分館における上映会	A	C	C	C
(小項目名)児童生徒を対象とした事業の参加者数	(小項目名)こども映画館	(小項目名)こども映画館	B		B	A
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A
(小項目名)映画製作専門養成講座の回数			A			
(小項目名)映画製作専門養成講座の参加者数			A			
(中項目名)ボランティアの活用状況			B			
(中項目名)渉外活動の状況			-	A	A	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価
項目別評価総表【京都国立近代美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	A	B	A
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況			A	B	A	A
(中項目名)常設展			A	B	B	A
(小項目名)常設展入場者数			A	C	B	A
(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A A A B B B B A	A A A B A B	B B A A A B A A	A
(小項目名)特別展等入場者数 展覧会ごとの評価			A B A C B C C B	A A B B A B	C B A A A C A A	B C A A C A A B A A
(中項目名)国立博物館・美術館巡回展	(中項目名)地方巡回展等		A	A	A	B
(小項目名)入館者数	(小項目名)入館者数		B	B	A	C
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A

(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲)	(中項目名)美術館に関する情報の収集		B	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)出版件数 美術館ニュース「視る」			A	A	A	A
(小項目名)出版件数 収蔵品目録			A	A	A	A
(小項目名)出版件数 展覧会カレンダー			A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセスの件数			A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講習会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			B			
(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	A	A	A	A
(小項目名)子どものためのワークショップの参加者数	(小項目名)子どものためのワークショップの参加者数		A	A	A	
(小項目名)講演会等の開催件数	(小項目名)企画展における講演会回数	(小項目名)企画展における講演会回数	A	A	A	A
(小項目名)講演会等の参加者数	(小項目名)企画展における講演会人数		A	A	A	
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)企画展における講演会アンケート		A	B	B	
(小項目名)シンポジウム	(小項目名)大学との協力によるシンポジウム 回数	(小項目名)大学との協力によるシンポジウム 回数	A	A	A	A
(小項目名)シンポジウムの参加者数	(小項目名)大学との協力によるシンポジウム 人数		A	A	A	
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況		B	A	A	B
(中項目名)ボランティアの活用状況			B			
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	B

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立西洋美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	B	A	B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A
(中項目名)展覧会の状況			A	A	A	A
(中項目名)常設展			A	A	A	A
(小項目名)常設展入場者数			A	A	A	A
(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A A -	A A A	B A A	A
(小項目名)特別展入場者数 展覧会ごとの評価			A A A	A A A	B A A	B A A A
(中項目名)貸与の状況			B	B	B	B
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A
(小項目名)客員研究員招聘人数			A	A	A	A
(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)「国立西洋美術館 ニュース」出版件数	(小項目名)「国立西洋美術館 ニュース」出版件数	(小項目名)「国立西洋美術館 ニュース」出版件数	B	A	A	A
(小項目名)展示予定表出版件数	(小項目名)展示 予定		B	A		
(小項目名)ホームページのアクセス 件数			A	A	A	A

(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講習会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A			
(小項目名)企画展における講演会回数	(小項目名)企画展における講演会回数	(小項目名)企画展における講演会回数	A	A	A	A
(小項目名)スライドトーク等の実施回数	(小項目名)スライドトーク等の実施回数	(小項目名)スライドトーク等の実施回数	A	A	A	B
(小項目名)企画展における講演会人数	(小項目名)企画展における講演会人数		A	A	A	
(小項目名)スライドトーク等の参加者数	(小項目名)スライドトーク等の参加者数		A	B	A	
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)企画展における講演会アンケート		A	A	A	
	(小項目名)スライドトーク等の実施アンケート			A	A	
	(小項目名)音楽プログラム	(小項目名)音楽プログラム			A	A
	(小項目名)シンポジウム				A	
(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)件数	(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)件数	(小項目名)創作体験プログラム 回数	A	A	A	A
(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)参加者数	(小項目名)こどものための美術(創作体験プログラム)参加者数		A	A	A	
(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数	(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数	(小項目名)ギャラリートーク回数	A	A	A	A
(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数参加者数	(小項目名)先生(小・中学校教員)のためのプログラムの開催件数参加者数		A	A	A	
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			B			
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立国際美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)効率化の状況			B	A	A	A
(小項目名)効率化の達成率			B	A	A	A
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A
(中項目名)保管の状況			A	A	B	A
(中項目名)修理の状況			B	B	A	A
(中項目名)展覧会の状況			B	A	A	A
(中項目名)常設展			A	A	A	A
(小項目名)入場者数			A	A	A	A
(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等 全体で評価	A A B A A A A A A B	A A A B A A	A B A A A	A
(小項目名)特別展等入場者数 展覧会ごとの評価			A B B A A A A A A	A A A C A A	A B A A A	A A A
(中項目名)国立博物館・美術館巡回展 (小項目名)入場者数		(中項目名)国立博物館・美術館巡回展 (小項目名)入場者数	B C			A -
(中項目名)国際交流展 (小項目名)国際交流展入場者数			- -	A		
(中項目名)貸与の状況			A	A	A	A
(中項目名)調査研究の実施状況			A	A	A	A

(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)美術館に関する情報の収集及び公開の状況	B	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A			
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A			
(小項目名)ジュニアガイドブック			A	A	A	A
(小項目名)月報			A	A	A	B
(小項目名)「展覧会案内」出版件数			A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座・講習会等の実施状況	(中項目名)講座・講演会等の実施状況	A	A	B	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A			
(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	(小項目名)子どものためのワークショップの開催件数	A	A	A	A
(小項目名)子どものためのワークショップの参加者数	(小項目名)子どものためのワークショップの参加者数		C	C	B	
(小項目名)子どものためのビデオ上映の開催件数	(小項目名)ビデオ上映(子ども)	(小項目名)ビデオ上映(子ども)	A	A	C	C
(小項目名)子どものためのビデオ上映の参加者数	(小項目名)ビデオ上映の参加者数(子ども)		A	A	A	
(小項目名)講演会 回数	(小項目名)講演会 回数	(小項目名)講演会 回数	A	A	A	A
(小項目名)講演会 人数	(小項目名)講演会 人数		C	C	C	
(小項目名)ギャラリー・トーク	(小項目名)ギャラリー・トーク	(小項目名)ギャラリー・トーク	A	B	A	A
(小項目名)ギャラリー・トークの参加者数	(小項目名)ギャラリー・トークの参加者数		A	B	A	
(小項目名)パフォーマンス			A			
(小項目名)パフォーマンスの参加者数			A			
(小項目名)ビデオ上映	(小項目名)ビデオ上映	(小項目名)ビデオ上映	A	A	A	A
(小項目名)ビデオ上映の参加者数	(小項目名)ビデオ上映の参加者数		C	A	C	
	(小項目名)フィルム上映会 回数			A	C	
	(小項目名)フィルム上映会 人数			C	C	
(小項目名)講演会 アンケート	(小項目名)講演会 アンケート		A	A	B	
	(小項目名)ギャラリートーク アンケート			A	A	
	(小項目名)ビデオ上映 アンケート			A	B	
	(小項目名)フィルム上映会 アンケート			B	C	
(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	(中項目名)研修等の取組み状況	B	B	A	B
(中項目名)ボランティアの活用状況			B			
(中項目名)渉外活動の状況			-	B	B	B
(中項目名)開館への準備状況			B	A	A	A
(中項目名)その他の入館者サービス			B	B	A	A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表【国立新美術館】

項目名【13年度】	項目名【14～15年度】	項目名【16年度】	中期目標期間中の評価の経年変化			
			13年度	14年度	15年度	16年度
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置						
(中項目名)新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設に向けた準備について			-	-	-	B

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金	4,426	4,275	4,622	5,158		人件費	1,070	1,065	1,103	1,187	
施設整備費補助金	0	0	0	0		業務経費	2,564	2,579	2,905	3,183	
受託収入	0	0	4	6		展覧事業費	2,167	1,941	2,235	2,577	
諸収入	1,554	519	555	543		調査研究事業費	170	316	284	208	
						教育普及事業費	227	322	386	398	
						受託経費	0	0	4	6	
						一般管理費	954	941	994	1,200	
						国立新美術館設立等準備事業費	0	6	54	93	
計	5,980	4,794	5,181	5,707		計	4,588	4,591	5,060	5,669	

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常費用	3,476	3,501	3,652	3,960		運営費交付金収益	3,118	3,068	3,347	3,537	
収集保管業務費	235	238	310	345		資産見返運営費交付金戻入	3	14	24	51	
展覧業務費	1,139	1,098	1,054	1,129		資産見返物品受贈額戻入	118	118	68	50	
調査研究業務費	276	340	249	236		入場料収入	334	426	297	461	
教育普及業務費	339	424	450	496		その他事業収入	30	30	58	65	
新館設置等対応費	131	0	117	60		寄附金収益	9	10	6	15	
受託事業費	0	0	4	6		受託収入	0	0	4	6	
一般管理費	1,235	1,268	1,380	1,590		財務収益	0	0	0	0	
減価償却費	121	133	88	98		雑益	0	0	0	1	
財務費用	0	0	0			臨時利益	1,894	85	0	0	
臨時損失	714	33	43	10							
計	4,190	3,534	3,695	3,970		計	5,506	3,751	3,804	4,186	
						純利益	1,316	217	109	216	
						目的積立金取崩額	0	0	0	0	
						総利益	1,316	217	109	216	

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	3,803	4,532	4,544	5,300		業務活動による収入	4,793	5,978	5,180	5,692	
投資活動による支出	58	86	242	332		運営費交付金による収入	4,426	4,275	4,622	5,158	
財務活動による支出	0	0	0	0		受託収入	0	0	4	6	
翌年度への繰越金	932	2,292	2,686	2,746		その他の収入	367	1,703	554	528	
						投資活動による収入	0	0	0	0	
						施設費による収入	0	0	0	0	
						その他の収入	0	0	0	0	
						財務活動による収入	0	0	0	0	
						前年度よりの繰越金	0	932	2,292	2,686	
計	4,793	6,910	7,472	8,378		計	4,793	6,910	7,472	8,378	

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	2,122	2,298	2,693	2,770		流動負債	805	769	1,056	1,025	
固定資産	71,553	71,700	72,504	85,449		固定負債	533	542	635	890	
						負債合計	1,338	1,311	1,691	1,915	
						資本					
						資本金	33,649	33,649	33,649	45,949	
						資本剰余金	37,371	37,504	38,213	38,608	
						利益剰余金	1,317	1,534	1,644	1,747	
						(うち当期末処分利益)	1,317	217	110	216	
						資本合計	72,337	72,687	73,506	86,304	
資産合計	73,675	73,998	75,197	88,219		負債資本合計	73,675	73,998	75,197	88,219	

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
I 当期末処分利益					
当期総利益	1,316	217	109	216	
前期繰越欠損金					
II 利益処分類					
積立金	0	1,213	1,276	1,315	
独立行政法人通則法第44条第3項により					
主務大臣の承認を受けた額					
美術作品購入・修理積立金	0	63	155	110	
調査研究等積立金	0	0	0	0	
企画展等積立金	0	0	0	0	
設備積立金	0	41	103	105	

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:人)

職種※	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
定年制研究職員	52	53	58	60	60
任期制研究系職員	57	57	58	63	65
定年制事務職員	6	6	6	5	5
任期制事務職員					
...					

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人国立美術館の平成16年度に係る業務の実績に関する評価

◎項目別評価
中期計画の各項目ごとに段階的評定を行う。

- 段階的評定
「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
「C」 中期計画を十分に履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。
「-」 評定しない。
○定性的評定
評定を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

【東京国立近代美術館本館・工芸館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	評 定	
		A	B	C		段階的評定	定性的評定
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充當して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進 (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4)外部委託の推進 (5)事務のOA化の推進 (6)連絡システムの構築等による事務の効率化 (7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 業務の一元化 本部において、これまで行っている人事、共済、給与事務及び情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等（リサイクル） (1) 光熱水量 ①本館 ア. 電気 使用量 2,611,197kw（前年度比103.1%） 料金 37,472,403円（前年度比96.5%） イ. 水道 使用量 14,655m³（前年度比111.8%） 料金 8,089,575円（前年度比107.7%） ウ. ガス 使用量 381,232m³（前年度比96.3%） 料金 16,600,564円（前年度比92.8%） ②工芸館 ア. 電気 使用量 354,289kw（前年度比96.8%） 料金 6,551,445円（前年度比93.6%） イ. 水道 使用量 1,025m³（前年度比105.7%） 料金 451,481円（前年度比105.0%） (2) 廃棄物処理量 館内LANの活用による職員周知文書や会議開催案内によりペーパーレス化を実施した。 ①本館 観客の増加等により増加。 ア. 一般廃棄物 14,700Kg（前年度比109.7%） 料金 308,700円（前年度比109.7%） イ. 産業廃棄物 5,930Kg（前年度比128.6%） 料金 205,474円（前年度比128.6%） ②工芸館 観客の増加等により増加。 ア. 一般廃棄物 5,090Kg（前年度比105.4%） 料金 106,890円（前年度比105.4%） イ. 産業廃棄物 1,190Kg（前年度比121.4%） 料金 41,233円（前年度比121.4%） (3) その他 古紙の再利用、OA機器等のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用</p> <p>3. 施設の有効利用 講堂等の利用率18%（66日/365日）※平成15年度 9%</p> <p>4. 外部委託 平成15年度に引き続いて下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。今後も各業務の見直しを行い、外部委託の可能なものの検討を進めていく。 1 会場管理業務 6 収入金等集配業務 2 設備管理業務 7 レストラン運営業務 3 清掃業務 8 アートライブラリ運営業務 4 保安警備業務 9 ミュージアムショップ運営業務 5 機械警備業務</p> <p>5. OA化 館内LANは全館内に整備されており、各職員が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。館内LANは文書ファイルの共有、Eメールによる事務連絡に活用しており、事務の効率化を図った。</p> <p>6. 一般競争入札 (1) 本館、工芸館 一般競争入札件数 4件（総契約件数 65件） (2) フィルムセンター 一般競争入札件数 6件（総契約件数 92件）</p> <p>7. 評議員会 開催回数 2回</p>	A	<p>人事、共済、給与事務などの本部における業務の一元化、省エネ、OA化などの効率化が着実に進んでいる。講堂の有効利用については、改善の努力が認められるものの、一層の利用拡充が不可欠である。また、職員研修が充実されたことを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 本部機能の充実化が進展していると思われるが、他館と共同して効率化を高めるためにも、諸業務における一元化など、より一層の努力が望まれる。 なお、「廃棄物処理量」は事業の拡大とともに増加するものなので、評価の在り方の検討が必要である。</p>		
	<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1.721% 効率化係数計算式 (A-B) ÷ A (1,445,409,292 - 1,420,538,926) ÷ 1,445,409,292 = 0.01721 A : (16年度予算額 - 16年度特殊要因額 - 一次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (1,789,446,000 - 396,261,000 - 0 + 37,770,199) ÷ 0.99 = 1,445,409,292 B : 16年度決算額 - 16年度特殊要因決算額 1,832,986,352 - 412,447,426 = 1,420,538,926</p>	A	

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評定	
		A	B	C		段階的評定	定性的評定
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立近代美術館) 近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。 また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 購入 49件 2. 寄贈 59件 3. 寄託 351件 4. 特記事項 平成16年度においては、村上華岳の《松山雲煙》（1925）、柳瀬正夢の《門司港》（1919）、高村光太郎の丸彫り《兎》（1899頃）等を、いずれも研究員の長年にわたる地道な調査、所蔵家等との交渉の末、購入するに至った。多様化する同時代美術の新しい表現形式を的確に把握した美術作品の収蔵としては、ビデオを用いた美術表現の先駆者であるビル・ヴィオラの《追憶の五重奏》（2003）の購入がある。受贈の成果としては、加山又造の代表作のひとつ《千羽鶴》（1970）の受け入れが特筆される。工芸作品では、北大路魯山人の織部作品《織部蓋物》（1950-59）をはじめ、ハンス・コパーの《キクラデス・フォーム》（1972）やルーシー・リーの《白釉青象嵌鉢》（1979）等、多様な作品を収蔵した。企画展の関連として、四谷シモンの《解剖学の少年》（1983）等の人形作品、織の築城則子の作品《小倉縮木綿帯 分水嶺》（2004）、鍛金の橋本真之の大型作品《運動服・切片群》（2004）を購入して、収蔵作品の一層の充実を図った。受贈については、ガラス作家藤田喬平の遺族から、《飾篭取物語》（1994）他全13点のまとまった寄贈があり、日本の現代ガラス界を代表する藤田の系統だった展示が可能となった。</p>	<p>A</p>	<p>研究員の継続的な調査と展示会活動などによって購入、寄贈、寄託が順調に進められている。購入では特に柳瀬正夢《門司港》に注目する。また、展示会に結びついた作品（国吉康雄22点、藤田嗣治13点）の受け入れは遺族からの当館及び担当者に対する信頼、評価の現れである。さらに、ヴィオラの重要なビデオアート作品が収集され、従来の不足を大きく補う状態になったことは評価できる。一方、工芸館については、バランスに配慮した方針が適切な進展をみせている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国立美術館4館における役割分担と機能強化がより一層必要である。 芸術の近現代性の展示を明確にするために科学博物館系のメディア・アート志向に対し、いかにして理念と手続きを確立するののかについての検討が必要である。また、映像と映画、デザインと工芸とをどのように分離し、あるいは接続するののかについての検討も必要である。 高価なヴィオラの作品にしても、安価な市販作品とどのような差異を認定したのか、また展示をどのように実践するのか、といった疑問は本質問題であり、早急に学芸課長レベルでの緻密な議論と方向性の提示が求められる。</p>		
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度 (1) 本館 ① 展示会場（空調実施時間 24時間） 温度 25.0℃ 湿度 55%（夏期） 温度 21.5℃ 湿度 55%（冬期） * 上記の数値は、入館者が入ったときの設定（目標）値である。 ② 収蔵庫（空調実施時間 24時間） 温度 20.0℃ 湿度 55%（日本画等） 温度 20.0℃ 湿度 55%（油絵画等） (2) 工芸館 ① 展示会場（空調実施時間 9:00~17:00） 温度 22.0℃ 湿度 50~55% ② 収蔵庫（空調実施時間 9:00~17:00） 温度 22.0℃ 湿度 50~55% 2. 照明 本館、工芸館共すべての蛍光灯は紫外線防止3,000K（博物館美術館用）無段階調光可能高演色タイプ 3. 空気汚染 2か月に1回、建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づき空気環境測定を実施。本館展示室では炭酸ガス排出のための排気ファンを24時間運転している。 4. 防災 機械警備による監視及び中央監視室（工芸館は事務室）での監視。本館において消防訓練を実施。 5. 防犯 本館 有人警備（8:00~19:00、金曜日は21:00まで） 工芸館 有人警備（8:30~18:15） * 本館、工芸館共に建物が無人的なときは機械警備を実施（24時間対応可能） 6. 特記事項 本館では、平成16年度の新収蔵作品を含めて、すべての所蔵作品の記録カードを作成している。また、24時間空調の実施によって、展示会場、収蔵庫ともに適切な保存環境が整備されている。工芸館では、平成16年度は特に、作品荷解き室の空調設備の点検・改修を行った。また、所蔵作品の記録作成も順次進めているところである。</p>	<p>A</p>	<p>収集品の保存、管理環境の維持充実について成果と努力が認められる。定期的な空気環境測定は評価できる。工芸館はより一層の環境整備、記録作成などが必要である。なお、今後の展開を長期的に考えるべき時期である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 本館、工芸館とも収蔵スペースの確保を講ずる必要がある。また、保存科学または修復の専門職員の配置が必要である。保存修復について、修理業者の選定など、4館における統一的な対処の指針策定などを求める。</p>		
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ① 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ② 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実へ寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 修理件数 73件 日本画 9件 洋画 14件 水彩・素描 19件 版画 21件 彫刻 1件 陶磁 0件 漆工・木工・竹工 9件 染織 0件 金工 0件 2. 特記事項 新たに構築された4館共通の国立美術館所蔵作品総合目録検索システムの中に、内部データとして、作品修復記録の概要を提供・掲載したことにより、他館の所蔵作品の修復データを容易に参照できるようになった。</p>	<p>A</p>	<p>前年を大きく上回る修理実績をあげるとともに、緊急性の高い作品から修理計画を立て、作業を適切に実施している。修復データを作品検索システムに取り入れたことは評価できるが、今後の展開を長期的に考えるべきである。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存環境や作品の状態に絶えず目配りできる専門職員の配置、染織作品の保存のための特別な予算措置が必要である。また、保存カルテ、修理データなどの4館共通の規格化についての協議・実現が必要である。作品貸出などに際しての</p>		

<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6～7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5～6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展 (1) 本館 展示替 5回(屏風及び軸装の日本画等については、原則的に各会期間に展示替えを行った。) 展示替 4回 (2) 工芸館 展示替 4回</p> <p>2. 特別展・共催展 10回 (1) 本館(中期計画記載回数:年3～5回) ① 「国吉康雄」展 ② 「ブラジル:ボディ・ノスタルジア」展 ③ 「琳派 RIMP A」展 ④ 「木村伊兵衛」展 ⑤ 「草間彌生-永遠の現在」展 ⑥ 「痕跡-戦後美術における身体と思考」展 ⑦ 「ゴッホ展」 * 「国吉康雄」展の会期は平成16年3月23日から * 「ゴッホ展」の会期は平成17年5月18日まで (2) 工芸館(中期計画記載回数:年2～3回) ① 「非常のオブジェ-現代工芸の11人」展 ② 「人間国宝の日常のうつわ-もう一つの富本憲吉」展 ③ 「河野鷹思のグラフィック・デザイン」展</p> <p>3. 入館者数 621,266人(平成15年度 415,091人)</p> <p>4. 海外交流展 0回</p> <p>5. 地方巡回展 0回</p> <p>6. 国立美術館巡回展 0回 ※平成16年度は京都国立近代美術館で実施</p>	<p>A</p>	<p>状態チェックの機能化が今後の課題であり、4館における統一的な対応の指針策定などが必要である。</p> <p>近・現代美術の領域を固定的にとらえず、横断的な発想の展覧会が実施されており、常設展では展示の魅力を高めようとする努力がみられた。企画展では多彩で刺激的な企画が実施され、全体として高水準にあり、中期計画を達成している。ただし、工芸館との関係、あるいは他3館との企画の調整、将来的展望など、本部機能とのより一層の連携・調整が要請される。各館の独自性や機能分担を再構築し、展覧会活動に反映すべき局面にある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 もし展覧会活動そのものを教育活動と認識するならば、その面の評価が必要になる。少なくとも現段階で、専門に特化した研究結果を国民に示すような展覧会ではないようにする姿勢が望ましい。カタログには、わかりやすい解説とは別に、専門家の共感するような研究文献・書誌などを掲載する努力が不可欠である。また、世界的にも最も注目されている美術作品である日本の現代建築、またアニメ画像作品、デザイン作品を重視することが望まれる。</p>
<p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>常設展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 294日間 2. 会場 本館 2階～4階 3. 出品作品数 延1,525件(うち重要文化財21件) 4. 入場料金 一般420円 大学生130円 高校生70円 一般(団体)210円 大学生(団体)70円 高校生(団体)40円 5. 入場料収入(常設展のみ)の入場料収入 9,782,590円(目標入場料収入 6,717,000円) 6. アンケート調査 第1回 アンケート回収数 300件(母集団21,197人)有効回答数297件 アンケート結果 ・良い88.3%(262件)・普通10.1%(30件)・悪い1.6%(5件) 第2回 アンケート回収数 299件(母集団21,051人)有効回答数292件 アンケート結果 ・良い80.1%(234件)・普通18.2%(53件)・悪い1.7%(5件)</p>	<p>A</p>	<p>比較的大きな展示替えや特集展示など会場構成は全般的に優れており、展示会場の清潔感、落ち着いた雰囲気は海外の美術館と比しても第一級の水準にある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも工芸館のPR及び共催展を含めた各種メディアの協力推進が必要である。また、展示の上では3フロアにわたる観客の動線を明確にすることが必要である。常設展という名称を京都国立近代美術館が「コレクション・ギャラリー」と改めたが、これを参考にししてで実情にふさわしい名称を検討すべきである。</p>
<p>入館者数</p>	<p>本館 168,000人以上 117,600人以上 117,600人未満</p>	<p>195,831人</p>	<p>58,075人</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>特別展等</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>「国吉康雄」展 1. 開会期間 平成16年3月23日～平成16年5月16日(50日間/うち平成16年度中41日間) 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 出品点数 131件(うち国宝0件、重要文化財0件) 4. 主催 東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション 後援 外務省、文化庁、アメリカ大使館 協力 日本航空 5. 入場料金 個人:一般1,300円 大学生900円 高校生500円 6. 入場料収入 8,752,030円(目標入場料収入 5,450,000円) 7. 展覧会の内容 国吉の作品はどれも社会のスポットライトをあびるものではなく、小さいもの、寄る辺ないもの、弱いものを描いている。それは国吉が、これらのなかにこそ、国や文化の違いをこえて、すべての人間の中に等しくある、無垢で力強い姿を見出していたからである。展覧会の全体は国吉が絵画を通じて託したメッセージを理解しやすいよう、1920年代の初期の作品をとりあげる「I. いのちの海」、1930-40年代を扱う「II. 社会の荒波」、そして晩年1940-50年代の作品を紹介する「III. いのちの島の建設」の3章とし、油彩、写真あわせて131点で構成したほか、会場に国吉の言葉を掲げ、作品解説も丁寧に付すなど、展示にも工夫した。 8. 講演会等 2回 参加人数 174人 9. アンケート調査 アンケート回収数 300件(母集団33,450人※平成16年度)有効回答数294人 アンケート結果 ・良い94.2%(277件)・普通5.8%(17件)・悪い0.0%(0件)(講演会) アンケート回収数 106件(母集団33,450人※平成16年度)有効回答数97人 アンケート結果 ・良い82.5%(80件)・普通16.5%(16件)・悪い1.0%(1件)</p>	<p>A</p>	<p>全体として優れた水準の企画展で、近代日本美術の独自性と近現代美術の国際的様相、平面作品からパフォーマンス/インスタレーション作品まで、様式的視点と社会的機能の視点など、いずれの次元でも不足のない実績をあげ、国民の文化的感性の涵養に貢献する活動として、評価できる。結果として、入館者目標を一部に下回った企画展もあったが、全体では約5万人上回り、レストラン・ミュージアムショップの売上などを含めて収入増に結びついた。一方、芸術に理解のある市民を増やすためには、一層の工夫が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 特別展会場が分散されているので、動線を明確にするサインの充実が望まれる。また、「非情のオブジェ展」の「非情」は意味が分からなかったことから、タイトルは誤解を招かぬよう展覧会に即した分かりやすいものとするべきである。 工芸館で「八木一夫展」又は「走泥社展」、「河井寛次郎展」など京都国立近代美術館と提携した展覧会の実施について検討すべきである。</p>	

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」

1. 開会期間 平成16年6月8日～平成16年7月25日（42日間）
2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー
3. 出品点数 41 件（うち国宝 0件、重要文化財 0件）
4. 主催 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、BRAZIL CONNECTS
共催 国際交流基金
後援 ブラジル大使館
特別協賛 HAWAIIANAS
協賛 トヨタ、松下電器産業株式会社
協力 VARI G BRAZIL
5. 入場料金 個人：一般 650円 大学生 350円 高校生 200円
6. 入場料収入 4,154,800円（目標入場料収入 2,225,000円）

7. 展覧会の内容

この展覧会では、とりわけブラジル美術に顕著な「身体」というテーマへの様々な取り組みを、3人の物故作家と6人の現代作家を織り交ぜて考察した。展覧会は前半と後半の2部に分けられ、前半ではブラジルの現実や歴史が直截的に刻み込まれたエネルギッシュな身体表現を、後半では、一転して鑑賞者の身体と美術作品との関係を探求するような観客参加型の作品を展示した。その結果、「身体」を媒介にすることで成立する、社会に対する批評精神と世界に対する開放性に、ブラジル美術の特質が存在することを明らかにするとともに、すでに多方面で開拓された「身体」という問題に、いまなお新鮮な表現を生み出す可能性が秘められていることを提示した。

8. 講演会等 実施回数計 12回 参加人数計 1,354人

9. アンケート調査

アンケート回収数 300件（母集団11,922人）有効回答数297人
アンケート結果 ・良い80.2%（238件）・普通18.5%（55件）・悪い1.3%（4件）

「琳派 RIMPA」展

1. 開会期間 平成16年8月21日～平成16年10月3日（43日間）
2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー
3. 出品点数 81 件（うち国宝 1件、重要文化財 9件）
4. 主催 東京国立近代美術館、東京新聞
後援 文化庁、千代田区
協力 日本航空、JR東日本
5. 入場料金 個人：一般1300円 大学生800円 高校生500円
6. 入場料収入 44,018,180円（目標入場料収入 16,603,000円）

7. 展覧会の内容

第一章「光琳—近代が再発見した日本美」：尾形光琳の代表作を展示。近代が再発見した日本美としてその軽妙で煌びやかな装飾美を再確認する。

第二章「宗達・光悦—芸術における個性と統合」：俵屋宗達と本阿弥光悦の名作を集めた。大正時代の近代的な芸術観の浸透によって、彼らの芸術の特徴である自由な発想とのびやかさが注目された。

第三章「江戸から明治へ—抱一・其一を中心に」：光琳以降の琳派の諸相を酒井抱一からはじまる「江戸琳派」の系譜を中心に明治中期までたどる。

第四章「琳派の近代—菱田春草から加山又造まで」：下村観山にはじまる近代作家たちが生み出した装飾的表現の総体を近代琳派と位置付けた。自己様式の確立の過程で「装飾」と向かい合うとき「琳派様式」が現れる。

第五章「RIMPAの世界—きらめき・型・反復」：これまでの固定概念としての琳派をいったん忘れ、海外の作例を含めて近現代のさまざまな芸術をひろく見渡ししながら、改めてRIMPAの諸例をリストアップし、伝統的琳派と重ね合わせて展示した。40作家、81件で構成された。

8. 講演会等 実施回数計 2回 参加人数計 291人

9. アンケート調査

アンケート回収数 297件（母集団166,524人）有効回答数296人
アンケート結果 ・良い89.9%（266件）・普通10.1%（30件）・悪い0.0%（0件）

「木村伊兵衛」展

1. 開会期間 平成16年10月9日（土）～平成16年12月19日（日）（62日間）
2. 会場 東京国立近代美術館本館 ギャラリー4、所蔵品ギャラリー（4、3階）
3. 出品点数 131件（うち国宝 0件、重要文化財 0件）
4. 主催 東京国立近代美術館、朝日新聞社
協力 特種製紙株式会社
5. 入場料金 個人：一般 420円 大学生 130円 高校生 70円
6. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。

7. 展覧会の内容

本展は、木村伊兵衛の初期から終戦直後までの、主に印刷物を通じて社会へと流通した仕事を紹介する第一部と、戦後の円熟期の作品からそのカメラワークのエッセンスを抽出することを主眼とした第二部の二部構成とした。第一部では雑誌やポスターなど、木村の写真を用いた印刷物を多数展示、また会場を当館の所蔵品展示「近代日本の美術」のなかに時代順に数箇所に分けて組み込むことで、同時代との関連を呈示した。第二部では木村自身によってプリントされた貴重な印画を中心に代表作である「秋田」や「街角」などのシリーズを展示した。

8. 講演会等 実施回数 4回

9. アンケート調査

アンケート回収数 300件（母集団27,238人）有効回答数297人
アンケート結果 ・良い84.5%（251件）・普通13.1%（39件）・悪い2.4%（7件）

「草間彌生—永遠の現在」展

1. 開会期間 平成16年10月26日～平成16年12月19日（48日間）
2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー
3. 出品点数 110 件（うち国宝 0件、重要文化財 0件）
4. 主催 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
5. 入場料金 個人：一般850円 大学生450円 高校生250円

6. 入場料収入 17,195,500円(目標入場料収入 6,606,000円)
7. 展覧会の内容
 絵画、彫刻、パフォーマンス、ビデオ・インスタレーションなどきわめて多方面にわたる草間の活動を、現在の視点から総合的に見直すために作品を厳選し、全体を、空間的に完結したギャラリーの集合体となるように構成した。出品作品110点の内訳は、絵画33点、水彩・素描24点、コラージュ15点、彫刻29点、DVD映像作品3点、インスタレーション6点である。
8. 講演会等 実施回数計 5回 参加人数 288人(講演会のみ的人数)
9. アンケート調査
 アンケート回収数 299件(母集団31,961人)有効回答数295人
 アンケート結果 ・良い94.2%(278件)・普通4.7%(14件)・悪い1.1%(3件)
 (講演会)
 アンケート回収数 57件(母集団31,961人)有効回答数53人
 アンケート結果 ・良い88.7%(47件)・普通11.3%(6件)・悪い0.0%(0件)

- 「痕跡―戦後美術における身体と思考」展
1. 開会期間 平成17年1月12日～平成17年2月27日(41日間)
2. 会 場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー
3. 出品点数 約120件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)
4. 主 催 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
 協 力 資生堂、日本航空
5. 入場料金 個人：一般850円 大学生450円 高校生250円
6. 入場料収入 4,661,050円(目標入場料収入 2,907,000円)
7. 展覧会の内容
 この展覧会は、肖像画や風景画のように「なにかに似ている」ことを原理として成立するのではなく、作家の身体や思考と物質との接触もたらす、「なにごとかの結果として」生まれたイメージを「痕跡」と名づけ、戦後の現代美術の流れをこうした「痕跡」の系譜として捉えなおすものである。同展には、日本においては具体美術協会からもの派にいたる一連の動向、アメリカにおいては抽象表現主義からネオ・ダダ、コンセプチュアル・アートにいたる現代美術の主要な動向のほとんどがおさめられ、さらにウィーン・アクションニズムやアナ・メンディエタをはじめとする一連の女性作家など、これまで日本でほとんど紹介されていない作品も集められた。全体は「表面」「行為」「身体」「物質」「破壊」「転写」「時間」「思考」の8章で構成され、およそ60人の作家、120点におよぶ国も時代も表現のスタイルも異なった動向を「痕跡」という視点から検証することで、戦後美術の大きな流れを支えた、表現を表現として成立させる原点を浮かび上がらせた。
8. 講演会等 実施回数計 1回 参加人数計 95人
9. アンケート調査
 アンケート回収数 300件(母集団9,332人)有効回答数292件
 アンケート結果 ・良い75.3%(220件)・普通21.6%(63件)・悪い3.1%(9件)
 (講演会)
 アンケート回収数 35件(母集団9,332人)有効回答数33件
 アンケート結果 ・良い81.8%(27件)・普通9.1%(3件)・悪い9.1%(3件)

- 「ゴッホ展」
1. 開会期間 平成17年3月23日～平成17年5月22日
 (60日間/うち平成16年度開催9日間)
2. 会 場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー
3. 出品点数 約120件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)
4. 主 催 東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞
5. 入場料金 個人：一般1,500円 大学生1,000円 高校生600円
6. 入場料収入 ※平成17年度に算定
7. 展覧会の内容
 フィンセント・ファン・ゴッホの作品を、彼が所有していた、あるいは見知っていた作品・資料と同時に展示した。具体的には、画家となる以前に職業として目指していた宗教への関心、版画の収集などを通じて関心を深めていた労働者への関心(以上、オランダ時代)、印象派、フランス自然主義文学、浮世絵といった同時代の芸術一般の受容(以上、パリ時代)、ユートピアという19世紀的な思想の実践(アルル時代)、巨匠の作品の模写、そして自然の描写(以上、サン＝レミ、オーヴェール＝シュール＝オワーズ時代)に着目した。ファン・ゴッホ作品約40点、関連作家の作品約26点、資料関係約60点が展示された。
8. 講演会等 実施回数計 2回、参加者数 82人(平成16年度中開催の1回分)
9. アンケート調査 ※平成17年度に集計

「国吉康雄」展	43,000人以上	30,100人以上 43,000人未満	30,100人 未満	33,450人	B
「ブラジル：ポデ イ・ノスタルジア」	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人 未満	11,922人	A
「琳派 RIMPA」	131,000人以上	91,700人以上 131,000人未満	91,700人 未満	166,524人	A
「草間彌生―永遠 の現在」	25,000人以上	17,500人以上 25,000人未満	17,500人 未満	31,961人	A

	「木村伊兵衛」展	26,000人以上	18,200人以上 26,000人未満	18,200人未満	27,238人	A	
	「痕跡」展	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	9,332人	B	
	「ゴッホ展」	43,000人以上	30,100人以上 43,000人未満	30,100人未満	44,044人	A	
	「非常のオブジェ」展	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	11,643人	A	
	「人間国宝の日常のうっわーもう一つの富本憲吉」展	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	19,099人	A	
	「河野鷹思のグラフィック・デザイン」	9,000人以上	6,300人以上 9,000人未満	6,300人未満	12,147人	A	
	地方巡回展				※京都国立近代美術館で実施		
(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	貸与・特別観覧の件数 (1) 本館 貸与 79件、特別観覧 189件 (2) 工芸館 貸与 40件、特別観覧 44件			A	本館・工芸館とともに特別観覧を積極的に展開しようとする姿勢は、新しい美術館のサービスとして評価できる。なお、今後は、貸し出せる作品の情報を開示するなどの取組も必要である。また、作品を貸し出しすることにより作品が痛むことについて、わかりやすく一般に広報する必要がある。 【より良い事業とするための意見等】 保存・管理の担当職員の増員が望まれる。また、特別観覧が専門家や学生に可能なことを周知する必要がある。
3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 ①収蔵品に関する調査研究 ②美術作品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究 ④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 本館 ① 『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』(尾崎正明他) ② 「北脇昇《紫野の景観》を読み解く」(大谷春吾) ③ 「竹内栖鳳《雨霽》についての試論」(中村麗子) ④ 「『作品研究』麦穂の庭—土田麦穂《舞妓林泉》について」(中村麗子) 工芸館 ① 「森口華弘『友禪訪問着・早春』と慶長・寛文小袖」(金子賢治) ② 「古典が息づく現代の工芸」(唐澤昌宏) ③ 「工芸史研究」(今井陽子) ④ 「黒田辰秋『赤漆流稜文飾箱』(作品解説)」(木田拓也) ⑤ 「中村錦平『日本趣味解題—叛逆の憂鬱』(富田康子) (2) 展覧会のための調査研究 本館 ① ブラジルの近・現代美術に関する調査(「ブラジル:ポディ・ノスタルジア」展:鈴木勝雄、三輪健仁) ② 琳派に関する研究(「琳派 RIMP A」展:古田亮、尾崎正明、北村仁美、中村麗子) ③ 木村伊兵衛に関する研究(「木村伊兵衛」展:増田玲、竹内万里子) ④ 草間彌生に関する研究(「草間彌生—永遠の現在」展:松本透、保坂健二郎) ⑤ ファン・ゴッホに関する調査研究(「ゴッホ展」:保坂健二郎) ⑥ ファン・ゴッホおよび美術館教育に関する調査研究(「ゴッホ展」:一條彰子、白濱恵里子) 工芸館 ① 鹿兒島寿蔵《紙塑人形 さめのちがみのおとめ》(「所蔵作品展 近代工芸の百年」:諸山正則) ② 陶芸家・富本憲吉における「日常のうっわ」に関する調査研究(「人間国宝の日常のうっわーもう一つの富本憲吉」展:唐澤昌宏) ③ 戦後工芸運動の研究(「非情のオブジェ—現代工芸の11人」展:今井陽子) ④ 河野鷹思に関する調査研究(「河野鷹思のグラフィック・デザイン」展:金子賢治、富田康子、北村仁美) (3) 収集・保管・展示・教育普及に関する調査研究 本館 ① 『シンポジウム概要集—これからの鑑賞教育』、『学校と美術館—持続可能な連携のために』(一條彰子、科学研究費補助金研究分担者) ② 『図書館雑誌』98巻7号、「ミュージアム・ライブラリの可能性—人と情報のネットワークキングのもとに」(水谷長志)		A	客員研究員の招聘や在外研究員の派遣のみならず、企画展の共催館との共同調査研究、国際シンポジウムの開催など一定の成果をあげたことが認められる。また、調査研究は、展覧会活動のほか、紀要などに発表された成果、また科研費補助金研究などによく反映されており、十分な水準に達しているが、今後とも一層の努力が期待される。なお、国立美術館4館の共通した課題だが、学術的成果は、積極的に学会誌等における論文発表として公表することが望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 地方公立美術館等の指定管理者制度移行に伴い、共催館の調査、研究能力及び人員不足などが予想されることから、ナショナルセンターとして主導的パワーを発揮することが望まれる。客員研究員を増員することや研究員招聘の手法の多様化を図るべきである。 研究紀要の論文・論考については、紀要誌内部でよいから編集委員会もしくは査読委員会の閲読を経ることとし、そうした委員会の内規や委員名などを公開することが望ましい。研究紀要を刊行していない館もあるが、「国立美術館紀要」のような形式で4館共同の刊行について検討すべきである。	

			<p>③国際シンポジウム「東アジアにおける美術・文化財情報のネットワークを考える」報告書、「ARLIS/Asiaの可能性-日本のアート・ドキュメンテーション、その達成と課題を踏まえて」(水谷長志)</p> <p>④美術館教育に関する調査・研究、「子どもセルフガイド『たんけん!子ども工芸館』」他(今井陽子)</p> <p>(4) 科学研究費補助金による調査研究 「日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年-1980年」(本館) 「戦後の日本における芸術とテクノロジー」(本館)</p>																					
<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1 資料の収集及び公開</p> <p>本館 ①収集件数 4,809件 ②公開場所 本館アートライブラリ(本館2階) ③利用者数 2,781人 ④貸出件数 8,933件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。)</p> <p>工芸館 ①収集件数 1,144件 ②公開場所 工芸館図書閲覧室(工芸館1階) ③利用者数 438人 ④貸出件数 1,775件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。)</p> <p>2 広報活動の状況</p> <p>①刊行物による広報活動 9種 平成16年度は『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』(本館)、『近代工芸案内—東京国立近代美術館工芸館コレクションを中心として』をそれぞれ一般書籍として出版。当館のコレクションの魅力を広くアピールした。</p> <p>②ホームページによる広報活動 本館・工芸館のホームページにおいては、画面上の展覧会情報に会場風景、作品図版、各種トピック及び用語解説(工芸作品)を掲載するほか、最新情報(「トピックス」欄)、講演会・ギャラリートーク等イベント情報(「イベント」欄)、「こどものページ」等の充実を引き続き図り、本館・工芸館の所蔵品・展覧会の普及や、春休み等の児童生徒向けプログラムの告知等に努めた。さらに、更新頻度を増やして閲覧者の興味を高めるとともに、インターネットにおける情報検索時の露出を向上させるよう努めた。メールマガジンの発行(毎月発行)に関しても、展示作品や展示予告、各種イベントの案内を始めとして、来館者のニーズに迅速に対応し、美術館の側から積極的に配信するよう努めた。</p> <p>③マスメディアの利用による広報活動 本館では、各展覧会開催に際して、雑誌(美術専門誌や情報誌)・新聞・テレビ向けの資料(プレス・リリース)にカラー印刷による図版を掲載し、見所を簡潔に要約するなど、その充実を図った。また、代表的な情報誌「ひあ」の展覧会紹介欄を年間枠で買い取り、定期的な広報媒体とするなど、広報力の強化を図った。</p> <p>工芸館では、広報誌に所蔵品を取り上げた連載を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図った。さらには、中央区の区民講座と提携し、「非情のオブジェ」展開催中に「伝統文化を楽しむ」と題して5回の伝統工芸関連の連続講座を受け持ち、広報活動につなげた。</p> <p>3 デジタル化の状況</p> <p>本館 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 480件 工芸館 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 440件</p>	<p>A</p> <p>4館共通の所蔵作品総合目録検索システムがインターネットで公開されたことやALC(美術図書館横断検索)の実現など様々な取組を評価できる。ただし、いまだNACSIS(総合目録検索システム)では検索不可であり、国立美術館である以上、NII(国立情報学研究所)と協議し、国民へのサービスをはやく実現することが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 デジタル化は進展しているものの、画像公開については、近代美術という点で制約があり、一般の方は不満を感じていると思われる。著作権ほか対応が困難かもしれないが、よりよい打開策の検討が望まれる。ホームページについても、そろそろポスト・ホームページを考えるべき段階である。また、普及活動担当の専門職員を新設又は採用すべきである。</p>																					
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<table border="1"> <tr> <td>出版件数</td> <td>「現代の眼」</td> <td>6回以上</td> <td>4回以上 6回未満</td> <td>4回未満</td> <td>6回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>展覧会案内</td> <td>1回</td> <td>1回以上 1回未満</td> <td>1回未満</td> <td>1回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ホームページのアクセス件数</td> <td></td> <td>129,602件以上</td> <td>90,721件以上 129,602件未満</td> <td>90,721件未満</td> <td>6,972,764件</td> <td>A</td> </tr> </table>	出版件数	「現代の眼」	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回	A		展覧会案内	1回	1回以上 1回未満	1回未満	1回	A	ホームページのアクセス件数		129,602件以上	90,721件以上 129,602件未満	90,721件未満	6,972,764件	A	<p>A</p> <p>本館の教職員研修会の開始、工芸館の児童生徒向け事業の充実を評価する。研究員を含む職員への負担増にならないよう工夫をしつつ、今後もより一層の取組を期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 メールマガジン、HPの活用など、IT機器利用によるデジタル関係プロジェクトの展開が望まれる。 児童生徒向け事業はよく成果をあげているが、敗米と比較するとレベルが低く、専門職員を配置する等、国立美術館としてどのように進めることが適切なのか、本部として検討することが望まれる。</p>
出版件数	「現代の眼」	6回以上	4回以上 6回未満	4回未満	6回	A																		
	展覧会案内	1回	1回以上 1回未満	1回未満	1回	A																		
ホームページのアクセス件数		129,602件以上	90,721件以上 129,602件未満	90,721件未満	6,972,764件	A																		
			<p>1 児童生徒を対象とした事業 児童生徒を対象とした事業としては、申し込みに基づく随時の講演会、ギャラリートーク、職場見学の受入れ等を行っている。</p> <p>本館 ① 小学校：4件(143人) 中学校：11件(281人) 高校：5件(36人) (参考) 小中高校教員の研究会等への協力：7件(147名)</p> <p>② 展覧会に関係した教職員研修会：1回(ゴッホ展)、(128名)</p> <p>③ ホームページ内に「こどものページ」を設けている。</p> <p>④ ボランティアのガイドスタッフによる子ども向けギャラリートーク(所蔵作品解説)12回</p> <p>工芸館 ① 中学校：3件(17人) 高校：3件(95人)</p> <p>② ホームページ内に「子ども工芸館」を設けている。</p> <p>③ 所蔵作品展「動物のモチーフ」に関連して、児童生徒を対象とした外部講師の指導によるワークショップ(お面を作る)を開催した。(15人)</p> <p>2 講演会等の事業</p> <p>本館 ①講演会 19回 1,931人 ②ギャラリートーク 34回 1,228人 ③所蔵品ガイド(ボランティアによる) 247回 3,005人 ④パフォーマンス 1回 146人 ⑤展覧会に関連した無料コンサート 1回 200人 ⑥東京国立近代美術館コンサート 3回 490人</p>																					

<p>容について検討し、さらに充実を図る。</p>		<p>工芸館 ①講演会 0回 0人 ②対談・座談会ほか 1回 83人 ③ギャラリー・トーク 33回 1,176人</p>	
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>1 研修の取組 本館 平成16年度は、国立美術館キュレーター実務研修生の受け入れなし。 工芸館 なし 2 大学等との連携 〔本館〕博物館実習生の受け入れ 平成16年8月23日～平成16年8月27日（5日間）（9人） 大学授業、学界等への協力 6件（196人） 生涯学習施設等への協力 11件（312人） 〔工芸館〕 博物館実習生の受入れ 平成16年8月23日～平成15年8月27日（5日間）（4人） 校外授業として熟覧を実施 7件（東京藝術大学陶芸教室 他） 制作者の研究のため熟覧を実施 1件（石川県立輪島漆芸技術研究所） 3 ボランティアの活用状況 本館 登録人数 20名 常設展開催期間中の毎日、解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」による所蔵品ガイドを実施。そのほか、小・中学生向け事業「こども美術館」、学校等からの申し込みに対するギャラリーガイド等を行った。 工芸館 登録人数 19名（平成16年5月16日の研修終了後、正式に登録。） 平成16年6月9日より毎水曜日と土曜日、解説ボランティア「工芸館ガイドスタッフ」による展覧会場での解説および触知による作品解説「タッチ&トーク」を導入。そのほか、こどもタッチ&トーク、英語タッチ&トーク等を実施。</p>	<p>B A A</p> <p>A</p> <p>ボランティアの本館の登録人数が20名であり、少ないと思われる。工芸館のタッチ&トークは非常に興味深い試みとして評価できる。より一層の取組を期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 自己点検評価にも問題点が指摘されているように、学芸担当職員の研修は再検討が必要である。 本部の課題として、美術館のもつ教育・学習の機能をどのように展開するのか、という理念や方法論について4館での協議が必要である。その際は統一の試行や役割分担について検討が必要である。工芸館は、生活に即した展示が必要な点で、ボランティアの活用が重要である。 また、博物館実習生の受入については、再検討が必要である。特に大学との連携によるインターンの受入は、将来へ向けた人材育成という視点で重要であり、予算の増強が望まれる。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>下記のとおり、展覧会において各企業から協賛、協力等を得た。 ①「国吉康雄」展 協力：日本航空 ②「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展 特別協賛：hawaiianas 協賛：TOYOTA、松下電器産業株式会社 協力：ヴァリグブラジル航空 ③「琳派 RIMPA」展 協力：日本航空、JR東日本 ④琳派展国際シンポジウム 助成：ポーラ美術振興財団 ⑤「木村伊兵衛」展 協力：特殊製紙株式会社 ⑥「痕跡 戦後美術における身体と思考」展 協力：資生堂、日本航空 ⑦「伊砂利彦」展（平成17年度開催予定） 協賛：清流会</p>	<p>B</p> <p>様々な取組を行っているが、独法化しては5年であり、これからはもっと具体的な成果が求められるようになるため、今後とも一層の拡充の取組が望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 今後は現金による協賛は少なく、現物出資又は労役提供的な協力がより多くなると思われることから、各種の協力受入の対応策と積極的提案が必要である。また、企業からの高額な寄付や支援を受けることも大切だが、やはり基本は個人なので、個人メンバーシップの重要性をより一層訴えていく必要がある。専門の担当者を配置することも検討すべきである。</p>
<p>7. その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。 (2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサー</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1) 本館 ①障害者トイレ 3箇所（1階 1箇所、2階 1箇所、地下1階 1箇所） ②障害者エレベーター 2基 ③段差解消（スロープ） 2箇所（正面玄関） ④貸出用車椅子 6台（1階） ⑤貸出用ベビーカー 3台 (2) 工芸館 ①障害者トイレ 1箇所（1階） ②障害者エレベーター 1基（1階）（障害者対応ではない） ③スロープ 1箇所（正面玄関） ④リフト 1基（正面玄関） ⑤貸出用車椅子 3台（1階） ⑥貸出用ベビーカー 1台 2. 観覧環境の充実 「国吉康雄」展、「琳派 RIMPA」展、「ゴッホ展」で実施。 （貸出件数 25、363件（利用率 57.6%） 3. 夜間開館 47日間 4. 引き続き、常設展及び共催展における小中学生の入場料無料化を実施。 5. 入館料への取り組み ア. 当館主催の企画展における入館料割引 イ. ぐるっとバスGRUIT2004</p>	<p>A</p> <p>開館日の拡大や音声ガイドの整備等きめ細かい対応などを高く評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 入館者が多数の特別展における入館者対策について検討することが必要である。また、今後は年々増加する高齢の入館者への対策として、レストランの充実だけでなく、ギャラリー内でのソファの設置、トイレの身障者対応、サイン表示の文字の大きさなどが一層重要である。 より細やかな「顧客満足度調査」を業務全般にわたり、実施することが望まれる。特にシニア入館者に対し、シニア動向調査を兼ねたアンケートを実施することが望まれる。</p>

ピスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。

(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって

快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

「ぐるっとパス（常設展共通入場券）」に企画展割引を加えて参加し、入場料金の低廉化を図った。

本館 4,712人、工芸館 1,897人、※参考 フィルムセンター 2,349人

ウ. 企業との連携企画

① 鉄道会社との連携により、一日乗車券利用者の入館料を割り引き。

② 草間彌生展開催中に、カード会社と連携し、草間彌生デザインのカード提示者の入館料を割り引き。

③ 新聞社と提携し、東京国立近代美術館特集の雑誌に割引クーポン券を掲載。

6. 外国人観光客への対応（クーポン券）

「ウエルカムカード」外国人来館者に対し常設展を割引料金とした。

本館 割引利用者 228人（外国人総入場者数 9,620人）、工芸館 割引利用者 86人（外国人総入場者数 4,459人）

常設展フロアプラン（会場ガイド）について、これまでの日・英の二カ国語版に加え、（財）東芝国際交流財団の助成を得て、独・仏・中・韓の4カ国語版を作成。

7. 毎月第1日曜日の常設展及び文化の日（特別展も含む）に加え、5月18日「国際博物館の日」も常設展観覧料金を無料化（平成16年度は工芸館のみ。本館は休館中）。

8. 一般入館者等の要望の反映

・北の丸公園入口の案内板を大きく明瞭化したものにリニューアルし、本館から工芸館への誘導案内を工夫した。

・四月上旬及びゴールデンウィーク中の月曜日を閉館。また、年末年始について、従来休館日であった12月28日、1月2日、3日（月曜祝日）を閉館。

（年末年始閉館日の入場者数：本館 206人（28日）、986人（2日）、268人（3日）

工芸館 172人（28日）、2,239人（2日）、222人（3日））

9. レストラン・ミュージアムショップの充実

・本館券売所横及び工芸館前に飲物の自動販売機（販売価格を安価に設定）を設置。

・本館では所蔵作品をモチーフにしたグッズの開発販売に努めた。工芸館では、特に「非情のオブジェ」展開催時に出品作家制作のガラス作品、染織作品等の販売するなど、展覧会の特色を活かした販売物の充実を図った。

【フィルムセンター】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評定	評定 定性的評定
		A	B	C			
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のO A化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1. 業務の一元化</p> <p>本部において、これまで行っている一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等（リサイクル）</p> <p>(1) 光熱水量</p> <p>国立新美術館設立準備室増員、季節の寒暖による増加</p> <p>①フィルムセンター</p> <p>ア. 電気 使用量1,027,371kwh(前年度比109.62%) 料金20,683,808円(前年度比101.63%)</p> <p>イ. 水道 使用量3,634m³(前年度比103.71%) 料金2,070,604円(前年度比100.84%)</p> <p>②相模原分館</p> <p>ア. 電気 使用量1,168,169kwh(平成15年度比108.94%) 料金15,392,367円(平成15年度比103.42%)</p> <p>イ. 水道 使用量158m³(平成15年度比164.58%) 料金29,500円(平成15年度比170.09%)</p> <p>(2) 廃棄物処理量</p> <p>国立新美術館開館準備のためのダンボール等の増加及び寄贈本数増加によるフィルム缶廃棄量の増加</p> <p>①フィルムセンター</p> <p>ア. 一般廃棄物 12,640Kg(前年度比 107.85%) 料金295,890円(前年度比 138.26%)</p> <p>イ. 産業廃棄物 20,470Kg(前年度比 159.30%) 料金519,326円(前年度比 150.77%)</p> <p>②相模原分館</p> <p>ア. 一般廃棄物 - Kg(平成15年度比 - %) 料金 - 円(平成15年度比 - %)</p> <p>イ. 産業廃棄物5,870Kg(平成15年度比 162.42%) 料金282,633円(平成15年度比 91.05%)</p> <p>(3) その他 古紙の再利用、O A機器用のトナーカートリッジのリサイクルによる再生使用。</p> <p>3. 施設の有効利用</p> <p>(1) 小ホール 利用率 22.74% (83日/365日)</p> <p>(2) 会議室 利用率 44.11% (161日/365日)</p> <p>(3) 相模原分館 映画ホールの利用率 1.37% (5日/365日)</p> <p>4. 外部委託 平成16年度も下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。</p> <p>(1) 清掃業務 (2) 機械設備等維持及び運転管理業務</p> <p>(3) 受付、出札、警備等の会場管理業務 (4) 上映ホールの映写業務</p> <p>(5) 夜間及び休館日の機械警備業務 (6) その他、設備関係のメンテナンス業務</p> <p>5. O A化</p> <p>館内LANによる事務効率化が図られているが、平成16年度は、フィルムセンターと本館との間のデジタル専用回線の接続速度を速めたことにより一層の効率化を図った。</p> <p>6. 一般競争入札</p> <p>映画フィルムの購入契約は、著作権者との契約による購入となるため、競争入札では入手できない。そのほかは東京国立近代美術館に含まれる。</p> <p>7. 評議員会 開催回数2回(平成16年6月15日(火)、平成17年3月18日(金))</p> <p>8. その他</p> <p>7階「映画の広場」を、1階に移転したことにより利用者の便に供した。</p>	A	<p>省エネ、O A化など、効率化がよく実現されている。フィルムセンターについては、既に限界近くまで、効率化を達成しているため、これ以上の効率化は本来の業務に支障を来す恐れがある。</p>
					<p>効率化の達成率</p>	<p>1.721%</p> <p>効率化係数計算式 (A-B) ÷ A</p> <p>(1,445,409,292 - 1,420,538,926) ÷ 1,445,409,292 = 0.01721</p> <p>A : (16年度予算額 - 16年度特殊要因額 - 一次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99</p> <p>(1,789,446,000 - 396,261,000 - 0 + 37,770,199) ÷ 0.99 = 1,445,409,292</p> <p>B : 16年度決算額 - 16年度特殊要因決算額</p> <p>1,832,986,352 - 412,447,426 = 1,420,538,926</p>	

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評定	評定 定性的評定
		A	B	C			
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立近代美術館)</p> <p>近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。</p> <p>美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。</p> <p>また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランス</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>				<p>1. 購入 958本</p> <p>2. 寄贈 6,984本</p> <p>3. 寄託 4,673本</p> <p>4. 特記事項</p> <p>平成16年度は、企画上映及び収蔵作品充実のためのプリント及びデューブネガを多数購入したほか、共催上映のための英語字幕付きプリントの購入、次年度開催の企画上映のための先行調査および購入を行った。海外同種機関との協力関係の中では、前年度に引き続きロシアから日本映画を購入するとともに、中国の電影資料館が所蔵する中国映画を購入した。</p> <p>映画フィルムの寄贈については、株式会社読売映像、株式会社クリックス、独立行政法人国際交流基金、精光映画社等の企業や団体について寄贈手続きを完了した。原版フィルムという最終素材を永久保存する場としてのフィルムセンターの役割は、文化・記録映画のみならず劇映画の分野においても広がりをみせ、前年度の角川大映株式会社（現角川映画株式会社）に続き、松竹株式会社より大量の原版寄託を受けた。また、日活株式会社、劇団前進座株式会社、月桂冠株式会社等から、日本劇映画および文化・記録映画の可燃性原版の寄贈を受けるとともに、横山隆一氏の遺族より氏の製作した日本アニメーション映画の原版をはじめとする大量の寄贈を受けた。</p>	A	<p>大量の寄贈は、フィルムセンターの活動と役割が、広く知れ渡り信頼されてきたことを示しており、評価に値する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>いわゆるビデオ・アートやアニメ、メディア・アートの領域について、東京国立近代美術館本館や国立国際美術館、国立新美術館と協議の上、収集方針を策定する必要がある。</p> <p>また、今後とも積極的に収集することが望ましいが、担当研究員が1名ということであり、予算の関係もあるが、増員して管理すべきである。</p>

<p>の観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>					
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度 (1) フィルムセンター ① 展示会場（空調実施時間 9:30～21:30（ただし、土・日・月曜日は9:30～18:30）） 温度 22℃±2℃（ただし、夏季は24℃±2℃） 湿度 50%±5% ※原則として設定された温・湿度で管理を行ったが、外気温との差により入館者のために最高25℃までを許容温度とした。 ※24時間空調が望ましいが、経費等を考慮して入館時間のみを運転時間とした。 ② 収蔵庫（空調実施時間 10:00～20:00（ただし、土・日・月曜日は10:00～18:30）） 温度 23℃±2℃ 湿度 55%±5% ※収蔵庫は地下3階に位置し、庫内の出入りがない場合は殆ど温・湿度に変化が生じないため、設備管理要員がいる間みの運転とした。 (2) 相模原分館 ① 収蔵庫（空調実施時間 24時間） （地下1階保存庫） 温度 10℃±2℃ 湿度 40%±5% （地下2階保存庫） 温度 5℃±2℃ 湿度 40%±5% （特別保存庫） 温度 2℃±2℃ 湿度 35%±5% 2. 照明 フィルムセンター7階展示室内のポスター、ステル写真等は100ルクスを上限とするともに入館者の有無を自動的に感知して照明の起動が行われるように設定し、作品への影響の低減化及び省エネルギー化を行った。 3. 空気汚染 空調熱源に関しては、全て電気で賄っているため、施設設備からの空気汚染は発生しなかった。施設内については、「建築物の衛生的環境の確保に関する法律」に基づき空気環境測定を実施した。 4. 防災 (1) フィルムセンター収蔵庫の消火設備は二酸化炭素消火設備を設置。 (2) 相模原分館保存庫の消火設備はハロゲンガス消火設備を設置。 5. 防犯 (1) フィルムセンターは、各階毎の機械警備（昼夜）の導入により、防犯を実施。 (2) 相模原分館は、各棟毎に機械警備（昼夜）の導入により、防犯を実施。 6. 収蔵スペースの確保について 相模原分館に隣接する旧洲野辺キャンプの跡地の利用について、相模原市に対し要望を提出した。</p>	<p>A</p>	<p>基本的には、温湿度等に配慮した適切な保管がされている。 【より良い事業とするための意見等】 寄贈による収集件数の大量増加に対応し、貴重な国民の財産である映画フィルムを適切に保管するために、必要な体制整備を図り、中長期的な整備計画を策定することが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ②伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実へ寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 映画フィルム洗浄 22作品 映画フィルムデジタル復元 3作品 2. 修理の記録 洗浄を実施した映画フィルムに関しては、所蔵作品データベース上へ記録を行った。</p>	<p>A</p>	<p>十分な努力が払われており、現状の体制では、これ以上の実績を望むことができない。 【より良い事業とするための意見等】 著作権者との交渉を担当する職員を早急に配置すべきである。</p>
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 (東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度 (京都国立近代美術館) 年6～7回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5～6回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 企画上映等 8番組（中期計画記載回数：年5～6番組） (企画上映) ①「キューバ映画への旅」 ②「日本アニメーション映画史」 ③「映画女優 高峰秀子」 ④「特集・逝ける映画人を偲んで2002-2003」 ⑤「シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選」 ⑥「フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち」 (共催上映) ①「アジア映画―「豊穡と多様」」 ②「第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負」 2. 展覧会 2回 ①「造形作品でみる 岡本忠成 アニメーションの世界」展 (併設：「展覧会 映画遺産―東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより」展) ②「映画女優 高峰秀子展」 (併設：「展覧会 映画遺産―東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより」展) 3. 入館者数 ①企画上映等 90,865人（平成15年度100,010人） ②展覧会 12,889人（平成15年度 10,799人） 4. 優秀映画鑑賞推進事業 168会場 (展覧会) 「造形作品でみる 岡本忠成 アニメーションの世界」展（併設：「展覧会 映画遺産―東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより」展） 1. 開催期間 平成16年4月6日～6月27日/同年7月6日～8月29日（120日間） 2. 会場 7階展示室 3. 共催等 特別協力：株式会社エコー/協力：保坂純子、株式会社櫻映画社 4. 出品点数 企画展「造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界」 25件 （「展覧会 映画遺産」展 198件） 5. 入場料金 個人/一般200円、大学生70円、高校生40円、小・中学生無料</p>	<p>A</p>	<p>異なる映画の視点から、バランスよく様々な企画上映を行った。特に「アメリカ無声映画傑作選」などを上映した点は、既に日本で上映されなくなった映画を鑑賞する機会を提供するというフィルムセンターの業務として評価する。今後も、この傾向を続けるべきである。 【より良い事業とするための意見等】 地道なフィルムセンターとしての企画上映を続けていくことが望ましい。中長期的には、東京国立近代美術館本館と協力して、映画上映と組み合わせた絵画展を試みてどうか。また、広報活動予算の確保が望まれる。 着実な成果をあげている。特にアジア文化圏への関心を評価する。 「特集・逝ける映画人を偲んで2002-2003」はラインナップを見ると、たったの2年間で、こんなにたくさんの方が亡くなったのかと思うが、同時にこの企画は、日本映画史回顧の側面をもち、監督だけではなく、脚本家・俳優など、多方面にわたっていることを評価する。</p>

催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回

展等の実施について検討し推進する。
(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。

なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。

(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

団体／一般100円、大学生40円、高校生20円、小・中学生無料

6. 入場料収入 476,500円(目標入場料収入481,000円)

7. 展覧会の内容

本展は、「花ともぐら」(1970年)や「おこんじょうり」(1982年)など手作りのアニメーション作品で知られる岡本忠成のユニークな世界を、実際の映画製作で用いられた造形作品の数々を通して紹介する試みであり、開催に当たりエコー社と人形作家・保坂純子氏の協力を得て、300点あまりの人形やセル画を展示することにより、一作ごとに全く異なる表現様式に挑むという世界的にも類例を見ないアニメーション作家の魅力に迫ろうとしたものである。なお、本展にあわせて7月から8月にかけては、上映企画「日本アニメーション映画史」「こども映画館」で岡本忠成作品の連続上映を行うとともに、子ども向けにガイドツアーの開催やセルフガイドの配布を試み、子どもたちの鑑賞機会や理解の促進にも配慮した。

8. 講演会等 なし

9. アンケート回収数 123件(母集団5,897件)

アンケート結果 ・良い81.3%(100件)・普通13.0%(16件)・悪い2.4%(3件)・未記入3.3%(4件)

「映画女優 高峰秀子展」(併設:「展覧会 映画遺産-東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクション」展)

1. 開催期間 平成16年9月3日～11月28日/同年12月7日～26日/
平成17年1月5日～3月27日(164日間)

2. 会場 7階展示室

3. 共催等 協力:株式会社秋山庄太郎事務所、財団法人川喜多記念映画文化財団、財団法人土門拳記念館、日本ドリームコンテンツ株式会社、株式会社マーランド、松下電器産業株式会社、明治製菓株式会社、森永製菓株式会社、株式会社リュウスタジオ、池田真魚、木村尚子、田沼武能

4. 出品点数 企画展「映画女優 高峰秀子展」150件(「展覧会 映画遺産」展198件)

5. 入場料金 一般200円、シニア・大学生70円、高校生40円、小・中学生無料

6. 入場料収入 594,320円(目標入場料収入661,000円)

7. 展覧会の内容

本展は、高峰秀子氏の1929年の子役デビューから1979年の引退までの半世紀におよぶ国民的映画女優の業績を核としながら、一流の文化人たちとの交流やエッセイストとしての活躍など、しばしば映画という枠をも超えて展開されたその多彩な足跡を、150以上に及ぶ展示品によってたどり、上映企画「映画女優 高峰秀子」にあわせて開催することで、上映作品と展示の両面からの立体的な理解や集客効果を狙ったものである。開催にあたっては、未公開資料を含む貴重なコレクションをひろく一般に公開するとともに、商業広告から油彩画及び写真作品までを集め、多種多様な《メディア》そして《時代》の中の《高峰秀子像》を浮き彫りにしようとした。なお、会期中にはギャラリートークを開催して、さらなる来館者の理解促進も目指した。

8. 講演会等 ギャラリートーク3回、参加人数計69人、講師:田中真澄(映画史家)

1回目:平成16年12月18日(土)午後1時～午後1時30分、聴講者数:16名

2回目:平成17年1月22日(土)午後1時～午後1時30分、聴講者数:29名

3回目:平成17年2月19日(土)午後1時～午後1時30分、聴講者数:24名

9. アンケート回収数 79件(母集団6,992件)

アンケート結果 ・良い77.2%(61件)・普通18.9%(15件)・悪い0%(0件)・未記入3.7%(3件)

(ギャラリートーク)

アンケート回収数 15件(母集団69件)

アンケート結果 ・良い60%(9件)・普通%33.3(5件)・悪い0%(0件)・未記入0%(0件)

(企画上映)

「キューバ映画への旅」

1. 開催期間 平成16年4月6日～平成16年4月25日(18日間/36回)

2. 会場 2階大ホール

3. 共催等 協力:駐日キューバ大使館、キューバ国立映画芸術産業庁(ICAIC)、国際シネマ・ライブラリー

4. 上映作品数 20作品/15プログラム(1プログラム2～3回上映):延36回上映

5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円

6. 入場料収入 1,837,700円(目標入場料収入1,128,000円)

7. 企画上映の内容

日本とキューバの外交関係樹立75周年を記念し、駐日キューバ大使館などの協力を得て、ラテンアメリカを代表する映画大国の一つであるキューバの長篇映画12本、短篇記録映画6本およびショート・ショート・アニメーション集(2プログラム)を上映し、キューバの映画文化を総合的に紹介した。

8. 講演会等 なし

9. アンケート回収数 18件(母集団4,590件)

アンケート結果 ・良い61.1%(11件)・普通16.7%(3件)・悪い5.5%(1件)・無記入16.7%(3件)

「日本アニメーション映画史」

1. 開催期間 平成16年7月6日～平成16年8月29日(48日間/96回)

2. 会場 2階大ホール

3. 共催等 なし

4. 上映作品数 239作品/30プログラム(1プログラム2～3回上映):延96回上映

5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円

6. 入場料収入 4,082,200円(目標入場料収入1,611,000円)

7. 企画上映の内容

“漫画映画”の草創期である大正時代から、日本初の本格的な商業プロダクションである東映動画が軌道に乗る1960年前後までに製作された多様なアニメーション作品、そして1960年代後半から活躍を始め独自の地位を築いたアニメ作家・岡本忠成と川本喜八郎の作品、あわせて239本の国産アニメーション映画を作家別に上映し、日本アニメ史の類まれな豊かさを示した。

8. 講演会等 なし

9. アンケート回収数 192件(母集団10,191件)

アンケート結果 ・良い88.0%(169件)・普通6.3%(12件)・悪い0.0%(0件)・未記入5.7%(11件)

【より良い事業とするための意見等】
今後も、フィルムセンターとしての企画上映を続けていくことが望ましいが、若年層をひきつける施策を検討すべきである。

<p>「映画女優 高峰秀子」</p> <p>1. 開催期間 平成16年9月3日～平成16年11月19日(67日間/158回)</p> <p>2. 会場 2階大ホール</p> <p>3. 共催等 なし</p> <p>4. 上映作品数 83作品/81プログラム(1プログラム2回上映):延158回上映</p> <p>5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円</p> <p>6. 入場料収入 13,327,000円(目標入場料収入6,443,000円)</p> <p>7. 企画上映の内容 天才子役を皮切りに少女スター、そして日本映画の黄金時代を代表する大女優へと飛躍し、日本映画史と昭和史を共に体現した女優・高峰秀子の50年にわたる業績を振り返り、その出演作品82本とメイキング作品1作品の計83作品を2部に分けて上映することで、国民的女優の全体像に迫る企画とした。</p> <p>8. 講演会等 なし</p> <p>9. アンケート回収数 115件(母集団34,187件) アンケート結果 ・良い67.0%(77件)・普通1.7%(2件)・悪い0.9%(1件)・未記入30.4%(35件)</p>
<p>「特集・逝ける映画人を偲んで2002-2003」</p> <p>1. 開催期間 平成16年12月7日～平成16年12月26日 平成17年1月18日～平成17年2月20日(48日間/114回)</p> <p>2. 会場 2階大ホール</p> <p>3. 共催等 なし</p> <p>4. 上映作品数 63作品/57プログラム(1作品2回上映):延114回上映</p> <p>5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円</p> <p>6. 入場料収入 7,002,400円(目標入場料収入4,510,000円)</p> <p>7. 企画上映の内容 日本映画界に足跡を残し逝去した映画関係者の業績をその代表作で偲び、回顧するフィルムセンターの恒例企画。今回は2002～2003年の期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどを対象とし、深作欣二、蔵原惟繕、松田定次、清川虹子、団令子、水木洋子、笠原和夫の各氏をはじめ約70名の映画人の携わった63作品・57番組を上映することで、その逝去を惜しむとともに日本映画史の厚みを示した企画である。</p> <p>8. 講演会等 なし</p> <p>9. アンケート回収数 289件(母集団17,735件) アンケート結果 ・良い77.8%(225件)・普通13.4%(39件)・悪い2.4%(7件)・未記入6.2%(18件)</p>
<p>「シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選」</p> <p>1. 開催期間 平成17年1月5日～平成17年1月16日(11日間/22回)</p> <p>2. 会場 2階大ホール</p> <p>3. 共催等 なし</p> <p>4. 上映作品数 15作品/11プログラム(1作品2回上映):延22回上映</p> <p>5. 入場料金 一般1,000円、高校・大学生800円、小・中学生600円</p> <p>6. 入場料収入 2,483,000円(目標入場料収入483,000円)</p> <p>7. 企画上映の内容 「シネマの冒険 闇と音楽」は、国内外の無声映画の秀作に音楽のライブ演奏を付して上映する恒例の企画であり、今回はアメリカ無声映画の秀作15本を選び、アメリカを代表する無声映画の伴奏ピアニスト、フィリップ・カーリ氏を招聘してすべての上映に生演奏を付し、クラシックな名作に新たな魅力を加えた。</p> <p>8. 講演会等 なし</p> <p>9. アンケート回収数 174件(母集団2,850件) アンケート結果 ・良い87.9%(153件)・普通4.0%(7件)・悪い1.2%(2件)・未記入6.9%(12件)</p>
<p>「フィルムは記録する2005:日本の文化・記録映画作家たち」</p> <p>1. 開催期間 平成17年2月22日～平成17年3月27日(30日間/60回)</p> <p>2. 会場 2階大ホール</p> <p>3. 共催等 なし</p> <p>4. 上映作品数 55作品/30プログラム(1プログラム2回上映):延60回上映</p> <p>5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円</p> <p>6. 入場料収入 2,378,600円(目標入場料収入1,772,000円)</p> <p>7. 企画上映の内容 これまで1997年、1998年、2001年の3回の企画で日本のノンフィクション映画の系譜を追ってきた「フィルムは記録する」シリーズの最終回として、1970年代以降に製作されたノンフィクションの秀作55本を作家別、製作会社別に上映し、社会の激しい変化、科学技術の発展、人々の生活等を、機敏に捉えた近過去の記録映画のインパクトを示した企画である。</p> <p>8. 講演会等 なし</p> <p>9. アンケート回収数 157件(母集団6,050件) アンケート結果 ・良い77.0%(121件)・普通10.1%(16件)・悪い2.5%(4件)・未記入10.0%(16件)</p>
<p>(共催上映)</p> <p>「アジア映画ー“豊穡と多様”」</p> <p>1. 開催期間 平成16年4月27日～平成16年6月27日(54日間/108回)</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館フィルムセンター2階大ホール</p> <p>3. 共催等 共催:福岡市総合図書館</p> <p>4. 上映作品数 54作品/54プログラム(1作品2回上映):延108回上映</p> <p>5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円</p> <p>6. 入場料収入 4,403,500円(目標入場料収入3,544,000円)</p> <p>7. 共催上映の内容 アジア諸国の映画の収集・保存を大きな特色とし、2004年には国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)に加盟した福岡市総合図書館との共催により、東南アジア・南アジア諸国の名作54本を上映し、各国の豊かな映画文化の紹介を狙いとした企画である。うち41本は同館所蔵のフィルムである。</p>

				8. 講演会等 なし 9. アンケート回収数 185件 (母集団10, 812件) アンケート結果 ・良い82.7%(153件)・普通14.6%(27件)・悪い0.5%(1件)・未記入2.2%(4件)	
				「第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負」 1. 開催期間 平成16年11月20日～平成16年11月28日(8日間/24回) 2. 会場 東京国立近代美術館フィルムセンター2階大ホール 3. 共催等 共催: 特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会 4. 上映作品数 13作品/13プログラム(1プログラム1～2回上映): 延24回上映 5. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円 6. 入場料収入 1,742,300円(目標入場料収入805,000円) 7. 共催上映の内容 第5回東京フィルメックスとの共催企画として、巨匠内田吐夢監督の代表作13本を上映する企画(うち1本は有楽町朝日ホールでも音楽伴奏つきで上映)。すべての作品に英語字幕を付し、初日には若手映画作家によるトークイベントも行うことで、新たな観客層の掘り起こしも狙った。 8. 講演会等 なし 9. アンケート回収数 269件(母集団4,450件) アンケート結果 ・良い77.7%(209件)・普通5.2%(14件)・悪い0.7%(2件)・未記入16.4%(44件)	
入館者数 「造形作品でみる 岡本忠成 アニメー ションの世界」展	4,000 人以上	2,800人以 上 4,000人未 満	2,800人未 満	5,897人	A
「映画女優 高峰秀 子展」	5,500人 以上	3,850人以 上 5,500人未 満	3,850人未 満	6,992人	A
(企画上映) 「キューバ映画への 旅」	3,500 人以上	2,450人以 上 3,500人未 満	2,450人未 満	4,590人	A
「日本アニメーショ ン映画史」	5,000 人以上	3,500人以 上 5,000人未 満	3,500人未 満	10,191人	A
「映画女優 高峰秀 子」	23,500 人以上	16,450人以 上 23,500人未 満	16,450人未 満	34,187人	A
「特集・逝ける映画 人を偲んで2002 -2003」	19,000 人以上	13,300人以 上 19,000人未 満	13,300人未 満	17,735人	B
「シネマの冒険 間 と音楽 アメリカ無 声映画傑作選」	3,000 人以上	2,100人以 上 3,000人未 満	2,100人未 満	2,850人	B
「フィルムは記録す る2005:日本の 文化・記録映画作家 たち」	5,000 人以上	3,500人以 上 5,000人未 満	3,500人未 満	6,050人	A
(共催上映) 「アジア映画ー“豊 穡と多様”」	11,000 人以上	7,700人以 上 11,000人未 満	7,700人未 満	10,812人	B
「第5回東京フィル メックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負」	2,500 人以上	1,750人以 上 2,500人未 満	1,750人未 満	4,450人	A

	<p>優秀映画鑑賞推進事業</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成16年7月2日から平成17年3月14日までの間 2. 会場 福井県、徳島県、鹿児島県を除く全国44都道府県の168会場 3. 主催 文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター 協力 (社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会 その他 各開催会場において協力等の団体あり 4. 出品点数 20プログラム(各4作品、計80作品) 5. 入場料金 500円以内 6. 入場料収入 ー 円 7. 内容 「優秀映画鑑賞推進事業」は、文化庁とフィルムセンターが日本映画製作者連盟、全国興行環境衛生同業組合連合会などの協力のもと、全国各地の公立文化施設などと共同して、優れた日本映画の良質な35mmプリントを提供する巡回上映事業のプログラムである。平成16年度の上映作品は4作品1プログラム、全20プログラムで、親子が揃って楽しめる番組も4番組編成し、広く国民に優れた映画を鑑賞してもらう機会の提供を目指した。 8. アンケート回収数 16,385件 アンケート結果 (有効回答13,654件 [83.3%] 中) ・良い92.0% (12,566件)・普通6.4% (877件)・悪い1.6% (211件) 内訳 一般プログラム13,943件 (有効回答11,445件 [82.1%] 中) ・良い91.4% (10,460件)・普通6.9% (790件)・悪い1.7% (195件) 親子プログラム大人2,108件 (有効回答1,884件 [89.3%] 中) ・良い96.5% (1,819件)・普通2.7% (50件)・悪い0.8% (15件) 親子プログラム子供334件 (有効回答325件 [97.3%] 中) ・良い88.3% (287件)・普通11.4% (37件)・悪い0.3% (1件)</p>	<p>A</p>	<p>フィルムセンターが16年間、積み重ねてきた実績をうかがうことが出来る。プログラムも増え、スクリーンで映画を見る楽しさを伝えた功績は大きい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 フィルムへの扱いについては、入念なチェックをお願いしたい。なお、事業名については、改善する余地がある。 また、広報活動の充実・多様化が望ましい。</p>
	<p>会場</p>	<p>130会場以上</p>	<p>168会場</p>	<p>A</p>	
	<p>入館者数</p>	<p>66,637人以上</p>	<p>83,901人</p>	<p>A</p>	
<p>(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。</p>	<p>貸与の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 貸与・特別観覧の件数 ①映画フィルム 貸与 39件(114本) 特別映写 90件(195本) 複製利用 38件(83本) ②映画資料 貸与 4件(171点) 特別観覧 45件(243点)</p>	<p>A</p>	<p>貸与の意義を尊重し、的確に業務が実行されている。特に外国の映画祭などへの貸与の意義は大きく、広く公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 協力を続けていく映画資料の貸出については、フィルムセンターの主義・主張を要求すべきである。また、著作権問題の解決には、専門の職員を配置することが必要である。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 ①収蔵品に関する調査研究 ②美術品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究 ④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 ・日本のニュース映画の調査研究 (2) 展覧会のための調査研究 ・キューバ映画に関する調査研究 ・東南アジア・南アジア各国映画史に関する調査研究 ・日本アニメーション史に関する調査研究 ・女優高峰秀子に関する調査研究 ・初期アメリカ無声映画に関する調査研究 ・1970年代以降の日本の文化・記録映画に関する調査研究 ・岡本忠成のアニメーション作品に関する調査研究 (3) 保存・修理に関する調査研究 ・アジア諸国の映画保存、アーカイブについての調査研究 ・アメリカにおける映画保存、アーカイブについての調査研究(国立公文書館、議会図書館) ・南アジア太平洋地域における映画保存、アーカイブについての調査研究 ・デジタル技術を用いた映画フィルムの修復に関する調査研究 ・ナイトレート・フィルムの保存と修復に関する調査研究 ・1920年代ドイツ映画の保存と修復に関する調査研究(ドイツ・ミュンヘン映画博物館) (4) 研究活動の活用等 当センターの調査研究の成果は、隔月で発行している「NFCニューズレター」に掲載した。NFCニューズレターは、大学等の研究機関、図書館等の団体と映画研究者や評論家等の約700件に配布し、研究者等の参考に資している。 (5) 特別映写等による外部への研究協力 大学等の映画に関する研究・教育等及び映画製作等のための調査への協力の一つとして特別映写の機会を提供している。この制度を活用して、平成16年度は前年度に引き続き、東京藝術大学の映像・舞台芸術実験授業、およびNPO法人映画美術学校が主催する映画上映専門家養成講座の上映講義への協力を続けた。また、新たに6月から明治学院大学文学部芸術学科の授業に対し、定期的な協力を行った。また、東京大学、早稲田大学、成城大学、東京造形大学、京都大学、京大造形芸術大学などの映画研究者にも、論文執筆や研究発表の一助として、特別映写の機会を提供した。その他、映像三団体連絡会、協同組合日本映画撮影監督協会、社団法人シナリオ作家協会、日本映画ペンクラブ、社団法人映像文化製作者連盟、NPO法人日本映画映像文化振興センター等映画関連団体の研修への協力や、関東大震災や横山大観等に関する映画・映像作品の製作に際し、映画・テレビ製作会社等への協力を行った。</p> <p>2. 客員研究員等の招聘実績(年度計画記載人数:3人)</p>	<p>A</p>	<p>調査研究の成果としての「NFCニューズレター」は、優れた研究成果の発表媒体として評価できる。また、日本に比較的資料の少ない映画(今回の場合などは、キューバ、東南アジア、南アジアなど)の調査研究は、フィルムセンター独自のものとして評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より積極的に研究成果を発表すべきである。研究専門誌を発行する等により、フィルムセンターの独自性を主張すべきである。また、フィルム保存のための研究・デジタル化のための研究を充実することが望まれる。</p>

				<p>(1) 所蔵映画フィルムの総合的なデータ分析とカタログ及び目録作成 客員研究員氏名：北小路隆志（千葉大学非常勤講師、他） 研究内容：戦前期の所蔵日本ニュース映画の目録作成のために、各プリント内容の調査研究、データの集積及び必要に応じて不足分データの補充と、データベースとして全体の統一を図るための調査研究。</p> <p>(2) 展示企画に関する資料の調査 客員研究員氏名：田中真澄（映画史家） 研究内容：展示企画「映画女優 高峰秀子展」および次年度実施予定の展示企画の開催のため、映画史・近代文化史に関する資料の調査・分析および企画立案に関連する研究。</p> <p>(3) 外国映画に関する事業等の企画の共同研究 客員研究員氏名：溝口影子（フリー翻訳者） 研究内容：平成16年度以降に実施を検討している上映事業にかかわる調査、及び国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）加盟の同種機関との映画史的、アーカイブ的な事例に関する調査等。</p>		
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアkses件数以上となるよう努力する。 (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び・公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>3人以上 2人以上 3人未満 2人未満</p>	<p>3人</p>	<p>A</p>	<p>着実に進展しており、特に閲覧業務の土日開室及び開室時間の変更は、迅速な対応でとても良い。また、新時代にうまく対応した「NFCメールマガジン」の読者増加も評価でき、データベース関係も、望ましい進み方である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 フィルムセンター関連の刊行物・蔵書も国立美術館のALC（美術図書館横断検索）に収録されているが、利用者にとって使いにくいと思われることから、文献検索データベースの工夫が望まれる。 また、中期的には、蔵書やアーカイブ資料を整備し、公衆の利用サービスに供することを検討すべきである。</p>
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>6回以上 4回以上 4回未満</p>	<p>6回</p>	<p>A</p>	<p>充実した講演会が実施された。特に「デジタル復元の現在」は、映画関係者でもデジタルをよく理解できていない面があり、良い企画であった。</p>
	<p>こども映画館</p>	<p>12日以上 8日以上 8日未満</p>	<p>12日</p>	<p>12日</p>	<p>A</p>	
	<p>相模原分館上映</p>	<p>5回以上 4回以上 4回未満</p>	<p>2回</p>	<p>2回</p>	<p>C</p>	
	<p>講演会等</p>	<p>1回 1回以上 1回未満</p>	<p>1回</p>	<p>1回</p>	<p>A</p>	
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施す</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、</p>	<p>1. 人材養成 (1) 映画製作専門家養成講座</p>	<p>1. 人材養成 (1) 映画製作専門家養成講座</p>	<p>A</p>	<p>映画製作専門家養成講座については着実に実施され、映画人の底辺拡大に寄与</p>

<p>る。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>		<p>評定を決定する。</p>	<p>①研修期間 4日間 ②開催場所 地下1階小ホール ③参加者数 86人（内修了者数48人） ④事業内容 日本映画の優れた伝統を継承するとともに将来の映画人を育成することを目的として平成9年より開講し今回で第8回目。今回は前回に続き、日本大学芸術学部の教授で、現役の映画編集者として活躍中の宮澤誠一氏をコーディネーターとして迎え、各日のゲスト講師として招かれた撮影監督とともに「撮影技術—伝承のかたち2」というテーマで講義を実施した。今回の講座で招かれた講師は、現在最前線で活躍している中でもベテランに属するカメラマンばかりであり、それぞれの担当作品を通じて、技術の伝承が具体的に語られた。</p> <p>2. 大学等との連携 (1) 博物館実習生の受け入れ ①受入期間 平成16年7月27日～7月31日（5日間） ②参加者数 16人</p>	<p>しているため、高く評価できる。講師として、現場関係者を登用していることが良い結果となっている。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 企業等との連携 (1) 共催上映の実施 ・「内田吐夢監督選集」（NPO法人東京フィルムメックス実行委員会） (2) 「こども映画館」を実施するに当たり、昨年に引き続き企業（株式会社IMAGICA）の協力により記念品の提供を行った。 (3) 講演会等の実施 ・「デジタル復元の現在」（社団法人日本映画テレビ技術協会）</p>	<p>B</p> <p>本年度の特質は、外部との連携を進めたことである。アジア・フォーカスで知られる福岡との連携「アジア映画—豊穡と多様」及び東京フィルムメックスとの共催「内田吐夢監督選集」は、フィルムセンターの守備範囲を広げたとともに、外部への広報もなった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 個人や企業等から寄附や協賛金等を得るための渉外活動をより積極的に行う必要がある。</p>
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者等のための施設整備等 ① 障害者トイレ 1個所（1階1個所） ② 障害者エレベータ 2基 ③ 段差解消（スロープ） 1個所（正面玄関） ④ 貸出用車椅子 2台（1階） ⑤ 自動ドア 1箇所（正面玄関） ⑥ 大ホールの男子・女子トイレへの階段壁面に手摺りを設置した。 ⑦ 展示室内の映像モニター鑑賞用に椅子を配置 ⑧ 「映画の広場」の椅子を増やし、上映ホールの開場前に並ぶ入館者の至便を図った。</p> <p>2. 観覧環境の充実 7階展示室での映像モニターの導入により、わかりやすい展示環境を整備した。</p> <p>3. 夜間開館等の実施状況 (1) 上映開始時間の変更等 引き続き、平日夜の回の上映開始時間を30分繰り下げ、午後7時からとした。 (2) 入場者料金の取り組み ア. 小・中学生の入場料の低廉化の一環として、展示室の小・中学生料金を無料とした。 イ. 展示室の学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金を下げることにより、料金を低廉化。 ウ. 65歳以上の入館者に対する観覧料金は学生料金を適用。 エ. 上映会観覧当日に限り、展示室観覧料は団体料金を適用。</p> <p>(3) その他の入館者サービス ア. 館内での案内情報の充実 ・ 1階受付カウンターで館内の案内情報を提供。 ・ 1階、2階、4階及び7階の来館者が利用できるフロアにパンフレット台を設置し、上映プログラムや展覧会等のチラシを配布。 イ. 休憩スペースの充実 1階エントランスロビーへ移動した「映画の広場」を来館者の休憩場所とした。</p> <p>4. 一般入館者等の要望の反映 開場前に並んでいる入場者の便宜を図るため、2階エレベータホールへ18席の椅子及び上映会場入口へ通じる階段部の踊り場へ椅子を設置した。</p> <p>5. レストラン・ミュージアムショップの充実 1階にあったレストランから撤退の意向があり、前年度末に閉店した。フィルムセンターの観覧者は、一つの企画上映をほぼ全作品にわたって鑑賞するリピーターが多く、金額面からほとんどレストランを使用していない状況でもあり、また近隣にコンビニエンスストアやレストランが多く、入館者に対してサービス低下を招かないとの結論により、新たな出店業者の募集を行わないこととした。 フィルムセンターでは、施設規模の面からミュージアムショップ等のスペース確保が難しいが、会場口の受付において出版物等の委託販売を行い、来館者へのサービスに努めた。 展示企画「造形作品でみる岡本忠成アニメーションの世界」に合わせて、フィルムセンター初めてのグッズ「岡本忠成フィルムしおり」を作成し、販売した。</p>	<p>A</p> <p>1階ロビーをレストランから休憩所に変更したのは、評価できる。また1階壁の展示も、映画の殿堂らしくしたことも良い。一方で1階の休憩所には、自動販売機を置くことが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 専門家にはフィルムセンターの業務が充分認知されているが、一般には知られていないので、所在地やアクセスについて積極的に広報すべきである。 なお、1階をより洗練された空間とすべきである。</p>

【京都国立近代美術館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	評定	
		A	B	C		段階的評定	定性的評定
1	職員の意識改革を図るとともに、収蔵効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を			1. 業務の一元化	A	省エネルギー、施設の有効利用、O A化、

<p>品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>平成13年度から実施したものに、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等（リサイクル）</p> <p>(1) 光熱水量</p> <p>引き続き通知文書の発信、節水・節電の励行等、職員に対し省エネルギーの啓蒙を行った。平成15年度と比較すると、電気・ガス使用量は節約し得たが、水道使用量は増加した。これは、夏夏において気温が平年を上回る猛暑のため、庭樹に散水を行ったことが主な要因である。しかし水道料金は、今年度より空調設備（クーリングタワー）からの蒸発水量について汚水排出量の減量認定の摘要を受けたため、下水道料金が認定水量1,838 m³、金額416,208円削減できた。結果、水道料使用量は増加したが、使用料は減少した。</p> <p>なお、光熱水料全体の金額比は3.9%減少している。</p> <p>ア. 電気 使用量 1,206,567kwh（前年度比 97.13%） 料 金 21,914,447円（前年度比 97.75%）</p> <p>イ. 水道 使用量 7,538 m³（前年度比 107.17%） 料 金 2,939,283円（前年度比 94.79%）</p> <p>ウ. ガス 使用量 112,262 m³（前年度比 89.66%） 料 金 5,470,341円（前年度比 90.69%）</p> <p>(2) 棄物処理量</p> <p>一般廃棄物量の減少について、展示会のディスプレイ製作の際、使用する資材の使用量を抑制し、これに伴い発生する廃棄物量も抑制した。館内LANによる通知文書の発信及びサーバー保存文書の共通利用、会議資料他の両面コピー等により更なるペーパーレス化を推進した。産業廃棄物量の減少について、14年度及び15年度の館内清掃・整理作業の際、大量に大型ごみ等を処分したため、今年度は廃棄物がわずかし発生しなかったため、処分しなかったためである。</p> <p>ア. 一般廃棄物 18,290Kg（前年度 0%） 料 金 0円（前年度比 0%）</p> <p>イ. 産業廃棄物 0Kg（前年度比 0%） 料 金 0円（前年度比 0%）</p> <p>3. 施設の有効利用</p> <p>展示会のイベントとして講演会やシンポジウムを行い、他に団体鑑賞申込時に展示会解説の申し出があれば、可能な限り、解説を行った。また、博物館実習、中学生のチャレンジ体験にも使用した。これらの内、施設使用許可書の発行と使用料の徴収を行って、各種団体に対し講堂・会議室等の使用を許可した。</p> <p>講堂等の利用率 23%（84日/366日）</p> <p>4. 外部委託</p> <p>従来の業務のほか新たに、看視業務につき一般競争入札を導入し、外部委託を実施した。</p> <p>1. 電気・機械設備運轉管理業務 3. 機械警備業務 5. レストラン運営業務 2. 清掃業務 4. 収入金等集配金業務 6. ミュージアムショップ運営業務 7. 看視業務</p> <p>5. OA化</p> <p>館内LANの整備状況</p> <p>全館内に整備されており、各職員（含非常勤職員）が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。館内LANにより、サーバー内に設けられている各係毎の共有文書ファイルが利用でき、また、電子メールにより事務連絡を行っている。</p> <p>6. 一般競争入札 一般競争入札件数 10件（総契約件数 42件）</p> <p>本来、美術館は所蔵作品を多数保有しているという点、また、観覧者サービスという点から、一般競争入札は相応しくないが、経費節減に鑑み、平成15年度に引き続き清掃業務、電気・機械設備運轉管理業務他について一般競争入札を行っている。</p>	<p>一般競争入札など業務運営の効率化が着実に進捗した。また、監視業務の外部委託、官用車の売却など、効率化及び経費節減の両面から適切であった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>諸設備の経年劣化に対する対応が必要である。</p>
<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上 1.0%以上 1.5%未満 1.0%未満</p>	<p>1.813%</p> <p>効率化係数計算式 (A-B) ÷ A (640,159,596-628,551,601) ÷ 640,159,596=0.01813</p> <p>A: (16年度予算額-16年度特殊要因額-一次年度債務繰越額+前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (633,758,000-0-0+0) ÷ 0.99=640,159,596</p> <p>B: 16年度決算額-16年度特殊要因決算額 629,401,601-850,000=628,551,601</p>	<p>A</p>

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	段的階 評定	評 定	
		A	B	C			定性的評定	
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(京都国立近代美術館)</p> <p>近代美術史における重要な作品など近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実にも配慮する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 購入 47件 2. 寄贈 289件 3. 寄託 161件 4. 特記事項</p> <p>本年度は当初の計画の他に緊急を要する作品の購入があったため、国立国際美術館と平成16、17年の購入計画について話し合いを行い、今年度については国立国際美術館の作品購入費のうち1億円を当館で使用することとし、事前に理事会の承認を得て増額配分を受け藤田嗣治の最も油ののりきった時代の代表作《タピストリーの裸婦》を購入した。</p> <p>当初の計画に従って購入した作品は、工芸では石黒宗廣、タカエズ・トシコらの陶芸、富田幸七の漆芸などを購入し欠をうめることができた。本年度の展示会に出品を予定していた八木一夫の《思案の中》など6点を購入し、所蔵品として展示会に出品することができた。日本画では竹内栖鳳の最晩年の代表作《春雪》を購入したほか、国画創作協会の榊原紫峰や徳力富・郎、村上華岳の作品を購入し、華岳については17年度当初に予定している村上華岳展への出品を予定している。また、戦後作品としてはパンリアルの大野徹高の作品を計画的に購入をすすめた。洋画については藤田嗣治のほか明治期京都を代表する水彩画家田中善之助の作品、また戦後の洋画界を代表する松谷武利、浅野弥衛の作品を購入した。</p>	<p>A</p> <p>研究員の継続的な調査と展示会活動などによって購入、寄贈、寄託が進められていること、また、藤田嗣治《タピストリーの裸婦》を取得するに際しての法人内部の柔軟な購入費の使い方を評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>他館と協議のうえ、彫刻や立体作品の収集にも配慮することが望まれる。計画に沿った購入が可能となるための予算措置が必要である。</p>				

に、その積極的活用を図る。			<p>このほか、写真家東松照明の作品13点をまとめて購入するとともに77点の寄贈を受け、あわせて90点のまとまったコレクションとすることができた。また、ユージン・スミスの写真作品も計画的に購入をすすめた。</p> <p>長谷川潔の初期の木版画の版木及び銅版画原版37点及び銅版画用道具等を遺族からまとめて寄贈を受け、長谷川芸術の研究にとって重要な資料を収蔵することができた。清水卯一の陶芸10点、並河靖之の七宝2点、杉本健吉の油彩、素描等17点、三尾公三の油彩画2点、堀内正和の版画5点、横尾忠則のポスター30点のほか、明治から大正期に京都で活動した日本画家千種掃雲苑の書簡等94点、戦後関西で美術記者として作家と交流があった塚本樹宛の書簡等72点の寄贈を受け、作品資料にわたる所蔵品の欠を補うことができた。</p> <p>寄託作品として、新たに18件161点が加わり、カッサンドルのポスター、ウィリアム・ウェッグマンの写真、橋本関雪、横山大観、徳岡神泉らの日本画、長谷川三郎、梅原龍三郎の洋画のほか、神坂雪佳展を契機として雪佳の日本画及び雪佳図案の工芸等約70点をまとめて受託し、所蔵品の欠を補うことができた。</p> <p>東松照明、長谷川潔のこのような寄贈があったのは美術館と作家あるいはその遺族との連絡を密にしていることに起因している。</p>	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 温湿度 (1) 展示会場 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季22±1℃ 夏季25±1℃ 湿度 冬季57±2% 夏季53±2% * 展示会により設定は異なる。 * 入館者が入ったときの温湿度管理について * 1日4回温度と湿度を測定している。 * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。</p> <p>(2) 収蔵庫(24時間空調は行っていない) 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季21±1℃ 夏季23±1℃ 湿度 50%(ただし、日本画・染織・漆芸は57±2%) * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。</p> <p>2. 照明作品を劣化させる紫外線を含まない蛍光灯などの照明を使用している。</p> <p>3. 空気汚染 年2回ばい煙測定を行うことにより大気汚染物質を排出しないよう監視している。 また、燻蒸は実施していない。</p> <p>4. 防災 管理室・機械室において自動火災報知器により管理している。時間外は機械警備により管理。</p> <p>5. 防犯 時間中は監視による巡回警備を行い、時間外は機械警備により管理している。</p> <p>6. 特記事項 保存カルテ作成件数は258件である。 収蔵品の保存及び管理環境の維持充実を図るため美術品の種類、保管場所等の違いにより、温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限にとどめるよう努力しており、損傷もなく現在に至っている。 展示会場や収蔵庫は24時間空調を行っていないが、これは建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を止めても作品保存の上で影響はない。むしろ現実的に即した省エネ型の保存対応と 考えている。なお、平成15年度からは当館所蔵品による全国的巡回展を開始し、当年度は日本画作品を 巡回したため、日本画作品を点検する好機となった。また、国立美術館巡回展の担当館として当館所蔵品を中心に洋画の巡回展を行い、洋画作品を点検する機会ともなった。</p>	A 制約のある状況ながら、的確な努力を重ねている。なお、今後の展開を長期的に考えるべき時期である。 【より良い事業とするための意見等】 収蔵スペースの確保を講ずる必要がある。また、保存科学または修復の専門職員の配置が望まれる。
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ②伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実へ寄与する。</p>	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 日本画 16件 洋画 1件 版画 10件 緊急に修復を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野毎に計画的に修復を行った。</p> <p>2. その他 修理報告書は各作品について作成しているが、データベース化については引き続き検討中である。</p> <p>3. 特記事項 収蔵時に修理を必要とするものであっても、そのために格安で購入したり、あるいは寄贈を受けることで、タイミングを逃さず収蔵することに積極的に取り組んでいる。そのため収蔵後数年を経て修理する場合もあるが、各年度当初において、中・長期的にみて緊急を要するもの(傷み具合、早期展示の必要性等)から順に修理を行うべく計画性をもって対応している。今回は平成16年度に寄贈を受けた伊藤仁三郎及び上坂雅人の作品を集中的に修理し、近く常設展のテーマ展示としてその成果を公開する予定である。 なお、修理業者に対しては、修理の方法について美術史的な観点から指導するとともに、鑑賞的な観点から表具や額装についても指導を行っている。</p>	A 少ない要員のもとで適切に対処している。 【より良い事業とするための意見等】 保存科学または修復の専門職員の配置が望まれる。 また、修理報告書のデータベース化が望まれる。
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内</p>	展示会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 常設展 (展示替 18回) 2. 特別展・共催展 10回 ①「東松照明の写真1972-2002」 ②「彫刻家 堀内正和の世界展」 ③「COLORS ファッションと色彩-VIKTOR&ROLF&KCI」 ④「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」 ⑤「ブラジル:ポディ・ノスタルジア」 ⑥「没後25年 八木一夫展」 ⑦「ジャパニーズ・モダン-剣持勇とその世界-」 ⑧「痕跡-戦後美術における身体と思考」 ⑨「草間彌生展-永遠の現在」 ⑩「京都国立近代美術館所蔵-川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」</p> <p>3. 入館者数 394,963人(目標入場者数307,000人) 4. 国立美術館巡回展 2回 6,267人 京都国立近代美術館巡回展 4回 52,408人</p>	A 京都という地域性に即し、常設展ではコレクションの魅力の紹介に努め、企画展では多様なジャンルを取り上げている点を評価する。館独自の全国巡回展も評価する。今後より一層の努力を期待する。 【より良い事業とするための意見等】 企画展では財政的制約もあるが、より一層魅力的な展示方法を期待する。また、入館者数にとられない独自の方針をより積極的に打ち出すことが望まれる。

外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(東京国立近代美術館)
本館 年3～5回程度
工芸館 年2～3回程度
フィルムセンター 年5～6番組程度

(京都国立近代美術館)
年6～7回程度

(国立西洋美術館)
年3回程度

(国立国際美術館)
年5～6回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。

(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。

(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。

なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となる

よう努める。

また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。

(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

常設展				
入館者数	132,000人 以上	92,400人以上 132,000人未 満	92,400人 未 満	150,463人

特別展

法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。

「東松照明の写真1972-2002」展（※平成15年度事業として評価済）

1. 開会期間 ①平成15年4月8日（火）～平成15年5月5日（月）（25日間）
②平成15年6月24日（火）～平成15年7月27日（日）（30日間）
③平成15年7月29日（火）～平成15年8月31日（日）（30日間）
④平成15年10月15日（水）～平成15年11月24日（月）（36日間）
⑤平成15年12月23日（火）～平成16年2月8日（日）（33日間）
⑥平成16年3月9日（火）～平成16年4月4日（日）（24日間）
（平成16年度内は平成16年4月1日（木）～平成16年4月4日（日）（4日間））

2. 会場 京都国立近代美術館4階常設展場

3. 主催 京都国立近代美術館

4. 出品点数 全305件（①36、②50、③50、④75、⑤36、⑥58）

5. 入場料金 一般420円（210円）／大学生130円（70円）・高校生70円（40円）
／中学生以下無料※（ ）内団体

6. 入場料収入 0円（目標入場料収入 0円）

7. 展覧会の内容 1950年代から現代まで、日本写真界の最前線で活躍を続けている東松照明の業績を全6回のシリーズで紹介する。

8. 講演会等 1回 参加人数 62人（15年度中に開催）

9. アンケート調査
①調査期間 平成15年10月15日（土）～4月4日（日）（93日間）
②調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置
③アンケート回収数 369件
④アンケート結果 ・良い 28.5% (105件) ・普通 36.0% (133件)
・悪い 4.6% (17件) ・無記入 30.9% (114件)

「彫刻家 堀内正和の世界展」

1. 開会期間 平成16年3月13日（土）～4月18日（日）（32日間；平成16年度は16日間）

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館
協力 京阪電鉄

4. 出品点数 80件

5. 入場料金 一般830円（700円・560円）／大学生450円（350円・250円）・高校生250円（200円・130円）／中学生以下無料 ※（ ）内前売り・団体

6. 入場料収入 1,575,000円（目標入場料収入 2,920,000円）

7. 展覧会の内容 日本の抽象彫刻を代表する作家堀内正和の没後初めての回顧展。初期の具象彫刻から晩年の立体作品にいたる約80点の作品、多数のペーパースケルプチュアやデッサンを展示し、創造の全貌を明らかにする。

8. 講演会等 2回 参加人数 92人（平成16年度に1回実施）

9. アンケート調査
①調査期間 平成16年4月15日（木）～4月18日（日）（4日間）
②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート
③アンケート回収数 448件
④アンケート結果 ・とても良かった 42.4% (190件) ・良かった 38.2% (171件)
・まあまあ 11.4% (51件) ・あまり良くなかった 0.2% (1件)
・良くなかった 0.7% (3件) ・無記入 7.1% (32件)

「COLORS ファッションと色彩-VIKTOR&ROLF&KCI」展

1. 開会期間 平成16年4月29日（木）～6月20日（日）（47日間）

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団
文化庁、経済産業省、オランダ大使館、オランダ総領事館、
京都府教育委員会、京都市教育委員会 成 モンドリアン財団
（株）ワコール、AIR FRANCE、（株）七彩、吉忠マネキン株式会社

4. 出品点数 90件

5. 入場料金 一般1200円（1000円・900円）／大学生800円（600円・500円）／高校生600円（400円・300円）／中学生以下無料 ※（ ）内は前売り・団体

6. 入場料収入 7,900,190円（目標入場料収入 6,885,000円）

7. 展覧会の内容

1. 開会期間 306日間（所蔵品展のみの開催期間44日間）

2. 会場 4階常設展場

3. 出品点数 延2,645件

4. 入場料金 一般420円（210円）、大学生130円（70円）、高校生70円（40円）、
中学生以下無料 ※（ ）内は団体

5. 入場料収入（常設展のみの入場料収入の合計 2,044,866円）
（目標入場料収入 8,028,000円）

6. アンケート回収数 1,919件
アンケート結果 ・良い 37.1% (712件) ・普通 31.5% (604件) ・悪い 3.1% (60件)
・無記入 28.3% (543件)

「東松照明の写真1972-2002」展（※平成15年度事業として評価済）

1. 開会期間 ①平成15年4月8日（火）～平成15年5月5日（月）（25日間）
②平成15年6月24日（火）～平成15年7月27日（日）（30日間）
③平成15年7月29日（火）～平成15年8月31日（日）（30日間）
④平成15年10月15日（水）～平成15年11月24日（月）（36日間）
⑤平成15年12月23日（火）～平成16年2月8日（日）（33日間）
⑥平成16年3月9日（火）～平成16年4月4日（日）（24日間）
（平成16年度内は平成16年4月1日（木）～平成16年4月4日（日）（4日間））

2. 会場 京都国立近代美術館4階常設展場

3. 主催 京都国立近代美術館

4. 出品点数 全305件（①36、②50、③50、④75、⑤36、⑥58）

5. 入場料金 一般420円（210円）／大学生130円（70円）・高校生70円（40円）
／中学生以下無料※（ ）内団体

6. 入場料収入 0円（目標入場料収入 0円）

7. 展覧会の内容 1950年代から現代まで、日本写真界の最前線で活躍を続けている東松照明の業績を全6回のシリーズで紹介する。

8. 講演会等 1回 参加人数 62人（15年度中に開催）

9. アンケート調査
①調査期間 平成15年10月15日（土）～4月4日（日）（93日間）
②調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置
③アンケート回収数 369件
④アンケート結果 ・良い 28.5% (105件) ・普通 36.0% (133件)
・悪い 4.6% (17件) ・無記入 30.9% (114件)

「彫刻家 堀内正和の世界展」

1. 開会期間 平成16年3月13日（土）～4月18日（日）（32日間；平成16年度は16日間）

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館
協力 京阪電鉄

4. 出品点数 80件

5. 入場料金 一般830円（700円・560円）／大学生450円（350円・250円）・高校生250円（200円・130円）／中学生以下無料 ※（ ）内前売り・団体

6. 入場料収入 1,575,000円（目標入場料収入 2,920,000円）

7. 展覧会の内容 日本の抽象彫刻を代表する作家堀内正和の没後初めての回顧展。初期の具象彫刻から晩年の立体作品にいたる約80点の作品、多数のペーパースケルプチュアやデッサンを展示し、創造の全貌を明らかにする。

8. 講演会等 2回 参加人数 92人（平成16年度に1回実施）

9. アンケート調査
①調査期間 平成16年4月15日（木）～4月18日（日）（4日間）
②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート
③アンケート回収数 448件
④アンケート結果 ・とても良かった 42.4% (190件) ・良かった 38.2% (171件)
・まあまあ 11.4% (51件) ・あまり良くなかった 0.2% (1件)
・良くなかった 0.7% (3件) ・無記入 7.1% (32件)

「COLORS ファッションと色彩-VIKTOR&ROLF&KCI」展

1. 開会期間 平成16年4月29日（木）～6月20日（日）（47日間）

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団
文化庁、経済産業省、オランダ大使館、オランダ総領事館、
京都府教育委員会、京都市教育委員会 成 モンドリアン財団
（株）ワコール、AIR FRANCE、（株）七彩、吉忠マネキン株式会社

4. 出品点数 90件

5. 入場料金 一般1200円（1000円・900円）／大学生800円（600円・500円）／高校生600円（400円・300円）／中学生以下無料 ※（ ）内は前売り・団体

6. 入場料収入 7,900,190円（目標入場料収入 6,885,000円）

7. 展覧会の内容

A

特別展と運動させる試みを評価する。展示名称を「コレクション・ギャラリー」に改め、展示替えを数多くする一方、テーマ展示も意欲的に行ってコレクションの魅力を知らしめる努力は評価する。しかしながら、全体的にみて、展示作品に魅力が乏しい。

【より良い事業とするための意見等】
常設展示室の壁面のピン跡処理、清潔感など、よりきめ細かい維持体制が望まれる。また、展示デザインを工夫すべきである。

A

写真、彫刻、ファッション、日本画、前衛的な陶芸、デザイン、現代美術など多様なジャンルの注目すべき企画を次々に実施したことを評価できる。

【より良い事業とするための意見等】
企画の内容が必ずしもそのまま展覧会の魅力になっていないところもあり、広報やアピール戦略を工夫すべきである。また、全体として、はつらつとした雰囲気を感じられない傾向があり、ディスプレイ・デザインなどに一層努力すべきである。また、芸術に理解のある市民を増やすためには、一層の工夫が必要である。その他、キャプションの作品説明を増やすべきである。

5つのテーマ色の部屋を設定し、各部屋にテーマ色にあわせた衣装と壁面にファッションショーの映像投影を組み合わせた実験的な展示を行った。またオランダの気鋭のデザイナー、ヴィクター&ロルフをゲストキュレーターに迎え、作品選定と展示構成を共同で構想した。約90点の衣装と5つの映像作品が渾然となる会場となった。

8. 講演会等 6回 参加人数 862人 (詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

9. アンケート調査

①調査期間 平成16年6月17日(木)～6月20日(日)(4日間)

②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

③アンケート回収数 448件

④アンケート結果 ・とても良かった 44.4%(199件)・良かった 38.6%(173件)
・まあまあ 11.4%(51件)・あまり良くなかった 0.9%(4件)
・良くなかった 0.7%(3件)・無記入 4.0%(18件)

「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」

1. 開会期間 平成16年7月2日(金)～8月8日(日)(33日間)

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館、朝日新聞社

後援 NHK京都放送局

協力 横山大観記念館

協賛 MK株式会社、近畿産業信用組合

4. 出品点数 70件

5. 入場料金 一般1200円(1000円・900円)／大学生800円(600円・500円)／高校生600円(400円・300円)／中学生以下無料 ※()内は前売り・団体

6. 入場料収入 24,491,960円(目標入場料収入 14,740,000円)

7. 展覧会の内容

再興院展を率い、近代日本美術史上に大きな足跡を残した横山大観の回顧展を開催する。本展では「夜桜」「紅葉」を含む大観の初期から晩年に至る代表作品約60点を選びめぐり、改めて「大観芸術」の足跡を辿るとともに、その偉大な画業を検証する。

8. 講演会等 2回 参加人数 300人 (詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

9. アンケート調査

①調査期間 平成16年8月5日(木)～8月8日(日)(4日間)

②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

③アンケート回収数 493件

④アンケート結果 ・とても良かった43.2%(213件)・良かった40.6%(200件)
・まあまあ11.2%(55件)・あまり良くなかった0.4%(2件)
・良くなかった0.2%(1件)・無記入4.4%(22件)

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」

1. 開会期間 平成16年8月17日(火)～9月20日(月・祝)(31日間)

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館、Brasil Connects

後援 ブラジル大使館

特別協賛 havainas

協賛 TOYOTA、松下電器産業株式会社、ブラジル銀行

協力 京阪電鉄

4. 出品点数 32件

5. 入場料金 一般830円(700円・560円)／大学生450円(350円・250円)／高校生250円(200円・130円)／中学生以下無料 ※()内は前売り・団体

6. 入場料収入 3,215,450円(目標入場料収入 5,410,000円)

7. 展覧会の内容

いま世界中で活躍する現代美術家5名とその原点となる3名の物故作家を、各部屋ごとの個展形式で展示。一部屋全体を使う大規模な作品により、体験的なインスタレーションやビデオ・インスタレーションなど、質の高い展示内容であった。

8. 講演会等 2回 参加人数 165人 (詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

9. アンケート調査

①調査期間 平成16年9月17日(金)～9月20日(月・祝)(4日間)

②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

③アンケート回収数 413件

④アンケート結果 ・とても良かった 20.8%(86件)・良かった 43.8%(181件)
・まあまあ 22.0%(91件)・あまり良くなかった 3.4%(14件)
・良くなかった 0.5%(2件)・無記入 9.5%(39件)

「没後25年 八木一夫展」

1. 開会期間 平成16年9月28日(火)～10月31日(日)(30日間)

2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主催 京都国立近代美術館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、京都新聞社

協力 司馬遼太郎記念館、ANA

4. 出品点数 308件

5. 入場料金 一般1,200円(1000円・900円)／大学生800円(600円・500円)／高校生600円(400円・300円)／中学生以下無料 ※()内は前売り・団体

6. 入場料収入 2,730,530円(目標入場料収入 2,334,000円)

7. 展覧会の内容

本展は、陶芸の世界に新しい造形分野を切り開き、海外からも注目された八木一夫の没後25年にあたり、初期から晩年までの陶芸作品約300点によりその業績を回顧する展覧会であった。初期から晩年までの陶芸作品を中心に、ガラス作品、ブロンズ作品、八木自身が撮った映像などを交え、日本のみならず海外への影響も紹介し検証した。

8. 講演会等 2回 参加人数 126人 (詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

9. アンケート調査

- ①調査期間 平成16年10月28日(木)～10月31日(日)(4日間)
 ②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート
 ③アンケート回収数 424件
 ④アンケート結果 ・とても良かった 46.7%(198件)・良かった 35.9%(152件)
 ・まあまあ 8.5%(36件)・あまり良くなかった 0.2%(1件)
 ・良くなかった 0.2%(1件)・無記入 8.5%(36件)

「ジャパニーズ・モダン—剣持勇とその世界—」

1. 開会期間 平成16年10月8日(火)～11月3日(水・祝)(23日間)
 2. 会場 京都国立近代美術館1階ロビー
 3. 主催 京都国立近代美術館
 企画協力 剣持デザイン研究所、松戸市教育委員会
 協賛 (株)天童木工、秋田木工株式会社、(株)ワイ・エム・ケー、(株)コトブキ、(株)ダスキン、(有)モノ・モノ
 4. 出品点数 163件
 5. 入場料金 一般420円(210円)／大学生130円(70円)・高校生70円(40円)／中学生以下
 無料※()内は団体
 6. 入場料収入 658,320円(目標入場料収入 1,384,000円)
 7. 展覧会の内容 戦前の工芸近代化運動における剣持の役割、ドイツ人建築家ブルノ・タウトとの出会いによる「日本の美意識」の再発見、日本美と近代デザインの止揚としての「ジャパニーズ・モダン」の確立を、いま収集可能な家具、工業製品、写真資料等230点で総合的に紹介した。
 8. 講演会等 1回 参加人数 20人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
 9. アンケート調査
 ①調査期間 平成16年10月8日(火)～11月3日(水・祝)(23日間)
 ②調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置
 ③アンケート回収数 213件
 ④アンケート結果 ・良い 57.3%(122件)・普通 18.8%(40件)・悪い 0%(0件)
 ・無記入 23.9%(51件)

「痕跡—戦後美術における身体と思考」

1. 開会期間 平成16年11月9日(火)～12月19日(日)(36日間)
 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場及び4階常設展示場
 3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館
 協力 資生堂、日本航空、京阪電鉄
 4. 出品点数 126件
 5. 入場料金 一般830円(700円・560円)／大学生450円(350円・250円)／高校生250円／(200円・130円)／中学生以下無料 ※()内は前売り・団体
 6. 入場料収入 3,220,070円(目標入場料収入 5,840,000円)
 7. 展覧会の内容 1950年代から70年代の日本、アメリカ、ヨーロッパの現代美術を約60人の作家、120点余の作品によって紹介する。ジャンルも平面から立体、映像、インスタレーションと多岐にわたる。
 8. 講演会等 3回 参加人数 189人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
 9. アンケート調査
 ①調査期間 平成16年12月16日(木)～12月19日(日)(4日間)
 ②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート
 ③アンケート回収数 387件
 ④アンケート結果 ・とても良かった 26.9%(104件)・良かった 41.1%(159件)
 ・まあまあ 22.5%(87件)・あまり良くなかった 4.1%(16件)
 ・良くなかった 1.8%(7件)・無記入 3.6%(14件)

「草間彌生展—永遠の現在」

1. 開会期間 平成17年1月6日(木)～2月13日(日)(34日間)
 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場及び4階常設展示場及び1階ロビー
 3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館
 協力 京阪電鉄
 4. 出品点数 106件
 5. 入場料金 一般830円(700円・560円)／大学生450円(350円・250円)／高校生200円／(200円・130円)／中学生以下無料 ※()内は前売り・団体
 6. 入場料収入 17,021,560円(目標入場料収入 5,840,000円)
 7. 展覧会の内容 初期作品から現在まで、約100点の作品を厳選し、草間の作品世界の多面性を丁寧に紹介する内容であった。草間の作品世界をより深く理解してもらうため、年代順に並べることをやめ、10のセクションに分けたテーマ展示とした。
 8. 講演会等 1回 参加人数 104人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
 9. アンケート調査
 ①調査期間 平成17年2月10日(木)～2月13日(日)(4日間)
 ②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート
 ③アンケート回収数 451件
 ④アンケート結果 ・とても良かった 47.7%(215件)・良かった 42.1%(190件)
 ・まあまあ 8.0%(36件)・あまり良くなかった 0.4%(2件)
 ・良くなかった 0.7%(3件)・無記入 1.1%(5件)

「京都国立近代美術館所蔵—川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」

1. 開会期間 平成16年2月22日(火)～4月3日(日)(36日間：平成16年度は33日間)
 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場
 3. 主催 京都国立近代美術館、京都新聞社
 協力 京阪電鉄

				4. 出品点数 250件 5. 入場料金 一般800円(700円・560円)／大学生450円(350円・250円)・高校生250円(200円・130円)／中学生以下無料 ※()内前売り・団体 6. 入場料収入 3,311,110円(目標入場料収入 2,065,500円) 7. 展覧会の内容 河井寛次郎陶芸の全貌を紹介する展覧会で、初期の中国や朝鮮の古陶磁の手法を逐った壺や茶碗などの作品や柳宗悦と出会って繰り広げられた中期の民藝作品、後期の自由な造形を追い求めて制作した作品などで寛次郎の世界を紹介する。 8. 講演会等 1回 参加人数 133人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) 9. アンケート調査 ①調査期間 平成17年3月31日(木)～4月3日(日)(4日間) ②調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート ③アンケート回収数・結果 ※平成17年度に記載する。	
「東松照明の写真1972-2002」	1,000人以上	700人以上 1,000人未満	700人未満	785人	B
「彫刻家 堀内正和の世界展」	6,000人以上	4,200人以上 6,000人未満	4,200人未満	3,903人	C
「COLORSファッションと色彩-VIKTOR&ROLF&KCI」	34,000人以上	23,800人以上 34,000人未満	23,800人未満	42,290人	A
「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」	72,000人以上	50,400人以上 72,000人未満	50,400人未満	107,032人	A
「ブラジル：ポディ・ノスタルジア」	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	6,975人	C
「没後25年 八木一夫展」	12,000人以上	8,400人以上 12,000人未満	8,400人未満	16,417人	A
「ジャパニーズ・モダン-剣持勇とその世界-」	6,000人以上	4,200人以上 6,000人未満	4,200人未満	12,795人	A
「痕跡-戦後美術における身体と思考」	12,000人以上	8,400人以上 12,000人未満	8,400人未満	9,590人	B
「草間彌生展-永遠の現在」	12,000人以上	8,400人以上 12,000人未満	8,400人未満	30,313人	A
「京都国立近代美術館所蔵-川勝コレクシヨンの名品 河井寛次郎展」	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	14,400人	A
地方巡回展				独立行政法人国立美術館所蔵巡回展「近代日本洋画の名作」 1. 開会期間 平成16年7月24日(土)～平成16年8月29日(日)(37日間) 2. 会場 新津市美術館 3. 主催 京都国立近代美術館、新津市美術館、新潟県教育委員会、新津市文化振興財団 共催 新津市、新津市教育委員会 後援 ラジオチャット・エフエム新津 4. 出品点数 58件 5. 入場料金 一般600円／大学・高校生300円／中学生以下無料 6. 展覧会の内容 明治中期から大正・昭和の近代日本を代表する洋画家の作品から戦後の作品まで、54人の画家、58点の作品を、「京都の洋画」「大正から戦前の前衛絵画」「近代洋画の名作」「戦後の洋画」の4つのセクションに分けて、京都国立近代美術館と東京国立近代美術館の所蔵作品によって紹介した。 7. 講演会等 1回 54人 ① 7月25日 演題：「日本洋画の130年」 講師：京都国立近代美術館学芸課長 島田 康寛 8. アンケート調査 ①調査期間 平成16年7月24日～平成16年8月29日(37日間) ②調査方法 館内にアンケート箱を設置 ③アンケート回収数 200件 ④アンケート結果 ・大変良い 34%(68件)・良い 50%(100件)・普通 11.5%(23件) ・あまり良くない 1%(2件) ・良くない 0%(0件) ・無回答 3.5%(7件)	B
				独立行政法人国立美術館所蔵巡回展「近代日本洋画の名作」 1. 開会期間 平成16年9月4日(土)～平成16年10月11日(月・祝)(33日間)	

名品を巡回させたことは評価できる。巡回展実施は地方の公立美術館を支援するためにも必要であり、国民へのサービスにおけるナショナルセンター的役割として成果をあげた。

【より良い事業とするための意見等】
 広報専門の担当者を配置すべきである。また、年間に6会場で開催するのは、常設展示の一定水準の維持、展覧会にかかわる作業量、そして作品保全などの点から多すぎると思われる。

			<p>2. 会場 砺波市美術館 3. 主催 京都国立近代美術館、砺波市美術館、富山県教育委員会、北日本新聞社 共催 チューリップテレビ 後援 となみ芸術文化友の会、FMとなみ、となみ衛星通信テレビ 4. 出品点数 58件 5. 入場料金 一般600円/大学・高校生300円/中学生以下無料 6. 展覧会の内容 明治、大正期の京都洋画界の作品をはじめ、それ以降の前衛絵画を含めた日本洋画の名作を、戦前、戦後と分けながら昭和50年代まで紹介した。 7. 講演会等 1回 48人 ① 9月4日 演題：「日本洋画の130年 講師： 京都国立近代美術館学芸課長 島田 康寛 8. アンケート調査 ①調査期間 平成16年9月4日～平成16年10月11日（33日間） ②調査方法 館内にアンケート箱を設置 ③アンケート回収数 84件 ④アンケート結果 ・良い 80%（68件）・普通 15%（13件）・悪い 4%（3件） ・無記入 1%（1件）</p>		
(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>貸与・特別観覧の件数 貸与 81件（641点） 特別観覧 91件（464点）</p>	A	<p>貸与件数の増加や他館への協力を評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 頻繁な貸し出しは、相当な作業量となり、職員への負担が懸念される。保存管理の専門職員を増員すべきであり、今後は貸し出せる作品の情報を開示するなどの取組も必要である。また、貸し出すと作品が傷むことについて、わかりやすく一般に広報することが望まれる。保存・管理の専門職員を増員すべきである。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 ①収蔵品に関する調査研究 ②美術品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究 ④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 収蔵品の調査研究 ①新収日本画作品についての調査研究 ②所蔵洋画作品についての調査研究 ③所蔵工芸作品についての調査研究 2. 展覧会のための調査研究 ①堀内正和に関する調査研究（神奈川県立近代美術館との共同研究） ②ファッションと色彩についての総合的研究（KCIとの共同研究） ③横山大観についての調査研究 ④ブラジルの近現代美術についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究） ⑤八木一夫と現代陶芸についての調査研究（岐阜県現代陶芸美術館ほかとの共同研究） ⑥剣持勇とインテリアデザインについての総合的研究（松戸市教育委員会美術館準備室との共同研究） ⑦戦後美術の世界的動向についての調査研究 ⑧草間彌生に関する調査研究（東京国立近代美術館・広島市現代美術館・熊本市現代美術館・松本市美術館との共同研究） ⑨田中一光とグラフィックデザインについての総合的研究 ⑩村上華岳についての調査研究 ⑪小林古径についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究） ⑫他の美術館等における調査研究に対する協力 ・亀井茲明コレクションに関する総合研究（科学研究費補助金・東京大学大学院人文社会系研究文化資源学専攻） ・京都を中心とした、日本の伝統工芸の過去・現在・将来（国際日本文化研究センター） ・水木コレクションの形成過程とその史的意義（国立歴史民族博物館） ・近代工芸運動の総合的国際比較研究（大阪大学大学院文学研究科芸術学講座） 3. 科学研究費補助金による調査研究 琳派の系譜 その継承と交流 一神坂雪佳を中心に（日本学術振興会） 4. その他助成金</p>	A	<p>少ない要員のもと、特別展を実施するための基礎となるべき調査や科研費補助金の活用、館としての特色を生かした調査研究など積極的な姿勢を評価する。今後も、展覧会に即した研究など、より一層の努力を期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 地方公立美術館等の指定管理者制度移行に伴い共催館の調査・研究能力及び人員不足などが予想されることから、ナショナルセンターとして主導的パワーを発揮すべきである。 「国立美術館紀要」の発行などを働きかけ、研究成果の発表の場を拡大することが望まれる。</p>
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の美術品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告</p>	美術館に関する情報の収集及び公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 1,271件 2. 広報活動の状況 ①刊行物による広報活動 3種 ②ホームページによる広報活動 ③マスメディアの利用による広報活動 3. デジタル化の状況 平成16年度にデジタル化した美術作品の件数 500件（目標500件）</p>	A	<p>4館共通の所蔵作品総合目録検索システムのインターネットでの公開をはじめ、様々な取組を行っていることを評価する。今後ともより一層の取組を期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 デジタル化について、現行水準は必ずしも肯定できないので、本部と協議の上、打開策を検討することが望まれる。また、美術図書館閲覧室新設の努力は今後も続けるべきである。</p>

<p>書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>出版件数</p> <p>美術館ニュース「視る」</p> <p>京都国立近代美術館所蔵名品集「河井寛次郎」</p> <p>展覧会カレンダー</p> <p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>6回以上</p> <p>1回以上</p> <p>3回以上</p> <p>88,000人以上</p>	<p>4回以上6回未満</p> <p>—</p> <p>2回以上3回未満</p> <p>61,600人以上88,000人未満</p>	<p>4回未満</p> <p>0回</p> <p>2回未満</p> <p>61,600人未満</p>	<p>6回</p> <p>1回</p> <p>3回</p> <p>252,131件</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平均的な講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>子供のためのワークショップ</p> <p>企画展における講演会</p> <p>大学との協力によるシンポジウム</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>1回以上</p> <p>11回以上</p> <p>1回以上</p>	<p>—</p> <p>8回以上11回未満</p> <p>—</p>	<p>0回</p> <p>0回</p> <p>0回</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 ①ワークショップ 8回 子ども・保護者 371人 ②生き方探究・チャレンジ体験 3回(9日間) 13人</p> <p>2. 講演会等の事業 ①講演会 14回 1,147人 ②シンポジウム 1回 68人 ③パネル・ディスカッション 1回 107人 ④ファッションショー 1回 190人 ⑤コンサート 1回 100人 ⑥日本美術教育学会連続講演会 1回(4日間) 178人 ⑦京都迎賓館展 1回(4日間) 11,684人</p> <p>8回</p> <p>14回</p> <p>2回</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>現場の教職員の意見を尊重するなど、学校との連携協力を評価する。今後もより一層の取組を期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 メールマガジン、HPの活用など、IT機器利用によるプロジェクトの展開が望まれる。 教職員研修などを取り入れてほしいが、対応する館の要員が不足していると思われることから、本部としての要員の確保と各館への派遣など、打開策を提示することが望まれる。</p>
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>		<p>1. 研修の取組 ①美術館・歴史博物館専門研修会の開催 45人(5日間)</p> <p>2. 大学等との連携 ①博物館実習生の受け入れ 34人(5~10日間)</p> <p>3. ボランティアの活用状況 ①平成16年度は展覧会聞き取りアンケート及び図録等発送作業を実施 延べ327名</p>	<p>B</p>	<p>大学教育との協力的環境の形成など、基本的な活動を実現しており、今後もより一層の取組を期待する。特に、大学との連携によるインターンの受入は、将来へ向けた人材育成という視点で重要なので、予算の増強が望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 学芸担当職員の研修は再検討を要する。また、研究員の不足が顕著な状況であれば、有識者のボランティアのより積極的な参加を検討する必要がある。</p>	
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>			<p>1. (社)京都市観光協会との連携 (社)京都市観光協会が実施している「京都修学旅行バスポート」事業に協賛し、小中学生の入場料無料化とは別に「京都修学旅行バスポート」を持参の修学旅行の高校生を団体料金で入場できるようにした。また、受付にて絵はがきのプレゼントを、喫茶にて割引サービスを実施した。</p> <p>2. 京都織物卸商業組合との連携 京都織物卸商業組合が実施している「京都きものバスポート」事業に協賛し、きもの産業の活性化及び入館者増を図るため、きもの着用者に特別入場料金を団体料金で優待。</p> <p>3. 京都市交通局との連携 京都市交通局が「スルッと関西」交通網を利用して実施する「京都1dayチケット」事業へ協賛し、当該チケット利用者に対し特別展料金を前売料金で優待。</p> <p>4. 京都市と京都陸上競技協会との連携 京都市と京都陸上競技協会が実施する「京都シティーフットボール」に協賛し、当該マラソン参加者に対し、共催入場料金を団体料金扱いとした。</p> <p>5. 京都市産業観光局との連携 京都市が制定した「伝統産業の日」に因み実施する事業に協賛し、きもの着用者を常設展を無料とした。</p> <p>6. (財)大阪21世紀協会との連携 (財)大阪21世紀協会が発行する関西で唯一の英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」に関西地区の美術館、博物館が展覧会情報を掲載し、経済界と連携した広報活動を行い、日本を訪れる外国人の入場</p>	<p>B</p>	<p>様々な取組を行っているが、これからはもっと具体的な成果が求められるようになるため、今後とも一層の取組が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 現金による協賛は少なく、現物出資又は労務提供的な協力がより多くなると思われることから、各種の協力受入の対応策と積極的提案が必要である。企業からの高額の寄付や支援を受けることも大切だが、やはり基本は個人なので、個人のメンバーシップの重要さを訴えていく必要がある。専門の担当者を配置することも検討すべきである。</p>	

			<p>者増を図る。</p> <p>7. 単独開催展覧会の前売券の発売 民間企業とのタイアップし、利用者のチケット入手の利便性を高めるとともに、入場者増を図った。</p> <p>8. (財)京都市駐車場公社との連携 (財)京都市駐車場公社と連携し、岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し、駐車場料金の割引をした。</p> <p>9. 朝日友の会との連携 朝日友の会事業と連携し、会員(朝日メイト)に対し、企画展(一部除く)観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>10. (社)日本自動車連盟(JAF)との連携 (社)日本自動車連盟(JAF)と連携し、JAF会員に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>11. 京都学生祭典との連携 京都学生祭典「学生の日」に協賛し、期間中、「京都学生祭典クーポン券」を提示の利用者に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>12. 「関西元氣文化圏」への参加 文化庁が提唱した「関西元氣文化圏」へ参加し、展覧会ポスター、チラシ等にロゴマークを印刷するなど。</p> <p>13. 「関西文化の日」への協力 関西広域連携協議会及び関西元氣文化圏推進協議会が実施する「関西文化の日」事業に協力し、11月3日の常設展及び企画展観覧料金を、11月6、7日の常設展観覧料金を無料とした。</p> <p>14. 「国際博物館の日」事業への協力 (財)日本博物館協会が実施する「国際博物館の日」事業に協力し、5月18日の常設展料金を無料とした。</p> <p>15. トマト倶楽部との連携 京都新聞社のトマト倶楽部事業と連携し、会員に対し、企画展観覧料金を団体扱いとした。</p> <p>16. (株)京阪カード、(株)阪急カード、(株)リロクラブとの連携 (株)京阪カード、(株)阪急カード、(株)リロクラブと連携し、各会員に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>17. 京都市地下鉄東西線「東山駅」に案内用看板を掲出 最寄り駅にあたる京都市地下鉄東西線「東山駅」に案内用看板を設置した。また、案内には日本語による通常の案内他、英語、中国語、ハングル語を併記し、展覧会ポスターも掲出している。</p> <p>18. 京都市美術館との連携 京都市美術館と連携し、当館及び京都市美術館の両方で展覧会を観覧した利用者に対して、後で利用した展覧会の観覧料金を団体料金及び前売料金扱いとした。</p> <p>19. 「教育・文化週間」事業への協力 「教育・文化週間」事業に協力し、日本に滞在する留学生が学外活動や学習として利用できるよう、「痕跡展」招待券を京都、大阪、兵庫、滋賀、奈良の国際交流センター等に提供した。</p> <p>20. 「ミュージアムぐるっとバス・関西2005」事業への協力 関西の美術館・博物館等約60館で実施する共通入館券事業(常設展は無料)「ミュージアムぐるっとバス・関西2005」に参加し、平成17年3月より販売を開始した。</p>																																						
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1</p> <table border="0"> <tr> <td>①障害者トイレ</td> <td>1個所(1階 1個所)</td> </tr> <tr> <td>②障害者エレベータ</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>③段差解消(スロープ)</td> <td>3個所(正面玄関、喫茶室)</td> </tr> <tr> <td>④貸出用車椅子</td> <td>5台(座席昇降機能付き2台を含む)</td> </tr> </table> <p>2. 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4</p> <p>(1) 音声ガイド</p> <table border="0"> <tr> <td>①展覧会名</td> <td>近代日本画壇の巨匠 横山大観展</td> </tr> <tr> <td>貸出期間</td> <td>平成16年7月2日～8月8日</td> </tr> <tr> <td>貸出件数</td> <td>11、143件(利用率10.4%)</td> </tr> </table> <p>3. 夜間開館等の実施状況 (1)-3</p> <p>(1) 夜間開館実施状況</p> <table border="0"> <tr> <td>ア. 開催日数</td> <td>19日間(4月30日～9月17日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)</td> </tr> <tr> <td>イ. 入館者数</td> <td>2,259人(総入場者数40,331人、夜間開館入場率率 8.2%)</td> </tr> </table> <p>(2) 小中学生の入場料の低廉化 昨年に引き続き、平成16年度開催の全ての共催展で小中学生の無料化が実現した。</p> <p>(3) (2)以外の入場者料金の取り組み方 昨年に引き続き、常設展の学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施するとともに、特別展の高校生料金の低廉化を実施した。</p> <p>(4) その他の入館者サービス</p> <p>4. アンケート調査 (1)-3</p> <p>①調査期間</p> <table border="0"> <tr> <td>平成16年4月15日～4月18日(4日間)</td> <td>「堀内正和」</td> </tr> <tr> <td>平成16年7月17日～6月20日(4日間)</td> <td>「COLORSーファッションと色彩」</td> </tr> <tr> <td>平成16年8月5日～8月8日(4日間)</td> <td>「横山大観」</td> </tr> <tr> <td>平成16年9月16日～9月19日(4日間)</td> <td>「ブラジル:ポディ・ノスタルジア」</td> </tr> <tr> <td>平成16年10月28日～10月31日(4日間)</td> <td>「八木一夫」</td> </tr> <tr> <td>平成16年12月16日～12月19日(4日間)</td> <td>「痕跡」</td> </tr> <tr> <td>平成17年2月10日～2月13日(4日間)</td> <td>「草間彌生」</td> </tr> <tr> <td>平成17年3月31日～4月3日(4日間)</td> <td>「河井寛次郎」</td> </tr> </table> <p>②調査方法 各展覧会会期中の4日間にボランティアによる聞き取りアンケートを実施した。また、館内にアンケート箱を設置しており、入館者の意見を随時受け入れている。</p> <p>③アンケート回収数</p> <table border="0"> <tr> <td>3,164件</td> <td>とても良かった 39.9%(1261件)、良かった 40.0%(1264件)</td> </tr> <tr> <td>まあまあだった 12.9%(408件)、あまり良くなかった 1.3%(40件)</td> <td>良くなかった 0.6%(20件)、無記入 5.4%(171件)</td> </tr> </table> <p>④アンケート結果 立地、施設、展示内容については概ね70点以上の評価を得たが、観覧料金、接客で</p>	①障害者トイレ	1個所(1階 1個所)	②障害者エレベータ	1基	③段差解消(スロープ)	3個所(正面玄関、喫茶室)	④貸出用車椅子	5台(座席昇降機能付き2台を含む)	①展覧会名	近代日本画壇の巨匠 横山大観展	貸出期間	平成16年7月2日～8月8日	貸出件数	11、143件(利用率10.4%)	ア. 開催日数	19日間(4月30日～9月17日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)	イ. 入館者数	2,259人(総入場者数40,331人、夜間開館入場率率 8.2%)	平成16年4月15日～4月18日(4日間)	「堀内正和」	平成16年7月17日～6月20日(4日間)	「COLORSーファッションと色彩」	平成16年8月5日～8月8日(4日間)	「横山大観」	平成16年9月16日～9月19日(4日間)	「ブラジル:ポディ・ノスタルジア」	平成16年10月28日～10月31日(4日間)	「八木一夫」	平成16年12月16日～12月19日(4日間)	「痕跡」	平成17年2月10日～2月13日(4日間)	「草間彌生」	平成17年3月31日～4月3日(4日間)	「河井寛次郎」	3,164件	とても良かった 39.9%(1261件)、良かった 40.0%(1264件)	まあまあだった 12.9%(408件)、あまり良くなかった 1.3%(40件)	良くなかった 0.6%(20件)、無記入 5.4%(171件)	<p>B</p> <p>ミュージアムショップ、喫茶室の充実や周辺施設との連携による利用者サービスの向上など様々な場面できめ細かい対応がなされていることを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 多数の入館者がある特別展については、動線を検討する必要がある。 また、年々増加する高齢の入館者への対策として、レストランの充実だけでなく、ギャラリ内でのソファの設置、トイレの身障者対応、サイン表示の文字の大きさなどが一層重要となる。より細やかな「顧客満足度調査」を業務全般にわたって実施することが望まれる。特にシニア入館者に対し、シニア動向調査を兼ねたアンケートを実施すべきである。 4階ロビーの景観を活かして、空間に手直しを加え、活用を試みることは可能ではないか。 ミュージアム・ショップはいささか高価な品が少なくない。より親しめる雰囲気とならないか。</p>
①障害者トイレ	1個所(1階 1個所)																																								
②障害者エレベータ	1基																																								
③段差解消(スロープ)	3個所(正面玄関、喫茶室)																																								
④貸出用車椅子	5台(座席昇降機能付き2台を含む)																																								
①展覧会名	近代日本画壇の巨匠 横山大観展																																								
貸出期間	平成16年7月2日～8月8日																																								
貸出件数	11、143件(利用率10.4%)																																								
ア. 開催日数	19日間(4月30日～9月17日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)																																								
イ. 入館者数	2,259人(総入場者数40,331人、夜間開館入場率率 8.2%)																																								
平成16年4月15日～4月18日(4日間)	「堀内正和」																																								
平成16年7月17日～6月20日(4日間)	「COLORSーファッションと色彩」																																								
平成16年8月5日～8月8日(4日間)	「横山大観」																																								
平成16年9月16日～9月19日(4日間)	「ブラジル:ポディ・ノスタルジア」																																								
平成16年10月28日～10月31日(4日間)	「八木一夫」																																								
平成16年12月16日～12月19日(4日間)	「痕跡」																																								
平成17年2月10日～2月13日(4日間)	「草間彌生」																																								
平成17年3月31日～4月3日(4日間)	「河井寛次郎」																																								
3,164件	とても良かった 39.9%(1261件)、良かった 40.0%(1264件)																																								
まあまあだった 12.9%(408件)、あまり良くなかった 1.3%(40件)	良くなかった 0.6%(20件)、無記入 5.4%(171件)																																								

			60点程度の評価であった。	
			5. 一般入館者等の要望の反映 (2) 京都国立近代美術館では、常時アンケート調査を実施しており、苦情、要望等への迅速な対応のほか、入館者のニーズの把握に努め、例えば、作品内容を解説した説明パネルやキャプションの文字を見やすく大きくしたり、館内案内表示の増設等を行った。	
			6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3) 喫茶室では食器類のデザインを一新し、展覧会ごとのテーマメニューの提供を行った。また、喫茶室の禁煙化を実施した。ミュージアムショップでは、関西経済連合会の主宰による「ミュージアムグッズの共同開発」の一員となり、お客様の要望に応える商品開発に取り組んでいる。	

【国立西洋美術館】

I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段 階 的 評 定	評 定 定性的評定
		A	B	C			
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進 (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4)外部委託の推進 (5)事務のOA化の推進 (6)連絡システムの構築等による事務の効率化 (7)積極的な一般競争入札を導入 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 業務の一元化 ①情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働 ②人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各 館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。 2. 省エネルギー等 ア. 電気 使用量 5,393,778kwh (平成15年度比100.14%) 料金 74,448,936円 (平成15年度比97.19%) イ. 水道 使用量 26,237m ³ (平成15年度比108.66%) 料金 15,846,126円 (平成15年度比85.83%) ウ. ガス 使用量 667,025m ³ (平成15年度比 98.43%) 料金 31,182,382円 (平成15年度比95.00%) エ. 一般廃棄物 19,495Kg (平成15年度比 93.01%) 料金 361,433円 (平成15年度比93.01%) オ. 産業廃棄物 9,720Kg (平成15年度比114.89%) 料金 270,308円 (平成15年度比124.08%) 3. 施設の有効利用：講堂等の利用率 26.02% (95日/365日) 4. 外部委託：平成16年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。 (1) 会場管理業務 (2) 設備管理業務 (3) 清掃業務 (4) 保安警備業務 (5) 機械警備業務 (6) 情報案内業務 (7) 広報物等発送業務 (8) 美術館情報システム等運用支援業務 (9) 収入金等集配金業務 (10) レストラン業務 (11) ミュージアムショップ業務 (12) ホームページサーバ運用管理業務 (13) ホームページ改訂・更新業務 5. OA化：全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時に帳簿類へ自動記帳化を図るなど、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。 6. 一般競争入札：2件（総契約件数78件） 代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費削減に努めている。 7. 評議員会：開催回数 1回（平成16年6月14日（月）） 8. 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善 放送大学・同大学院受講、TOEIC・英検受験、英会話研修、パソコン講習、消防・防災訓練、普通教命講習、接遇研修の実施、文部科学省、人事院、日本博物館協会及びその他外部機関等研修への積極的な派遣を行い、研修等を通じて職員の資質の向上及び組織の活性化が図られた。	1.380% 効率化係数計算式 (A-B) ÷ A (992,861,672-979,158,801) ÷ 992,861,672=0.01380 A: (16年度予算額-16年度特殊要因額-一次年度債務繰越額+前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (949,098,000-0-4,940,180+38,775,235) ÷ 0.99=982,861,672 B: 16年度決算額-16年度特殊要因決算額 982,894,901-3,736,100=979,158,801	A	省エネルギー、施設有効利用、OA化などは進捗したが、目標に少し足りなかった。職員・監視等への研修による意識改革を含めて、効率化に向け努力を重ねていることは認められる。		
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	B		

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段 階 的 評 定	評 定
		A	B	C			

<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(国立西洋美術館)</p> <p>中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 購入 30件 2. 寄贈 23件 3. 寄託 9件 4. 特記事項 平成16年度の特記事項としては、通常の購入予算を超える金額でアルペール・グレーズの絵画《收穫物の脱穀》を購入したことがあげられる。平成15年度から繰越した購入予算を合わせて、通常予算では購入できないキュビズムの大作を購入できたことは、独立行政法人化による弾力的な会計制度を活用することによって初めて可能になったことであり、当館の展示作品の質を高めることに大きく貢献をすることとなった。</p> <p>この作品は1912年というキュビズム運動の最盛期に制作されたもので、グレーズの代表作として世界的に知られた作品である。国立西洋美術館は「中世末期から20世紀初頭までの西洋美術」を扱うこととしている。「20世紀初頭」という定義にはやや幅があるが、当館の設立の出発となった松方コレクションには1910年から20年にかけてのやや保守的なフランス絵画が非常に多い。その意味では、1912年のグレーズ作品は当館の所蔵品に一層の幅を与えるものであり、当館の所蔵品として相応しいものと考えられる。</p>	<p>A</p>	<p>研究員の継続的な調査と展示会活動などによって購入、寄贈、寄託が順調に進められている。アルペール・グレーズの大作《收穫物の脱穀》の購入については、独立行政法人になって可能になった購入費の弾力的運用を活用したことが評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 コレクションの中心をなすといわれている印象派の作品の水準の更なる向上を期待する。予算的制約があるとしても、さらなる努力が望まれる。</p>
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度（空調実施時間 24時間） ①展示会場 作品への影響を最低限とするため、下記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。 通期：温度20～22℃ 湿度50～55% 夏期のみ：温度22～24℃ 湿度50～55% ※夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。 ②収蔵庫 温度20～22℃ 湿度50～55%</p> <p>2. 照明 器具：蛍光灯（紫外線カット）、スポットライト（紫外線・赤外線カットフィルター） 照度：紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下 それ以外の作品 200ルクス以下</p> <p>3. 空気汚染 ①館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、各種工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。</p> <p>4. 防災 ①監視 火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。（中央監視室・総合受付）、消火設備、自動火災報知器を設置 ②防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行っている。 ③平成17年1月24日（月）及び2月15日（火）に、東京消防庁本所防災館にて、震災を想定した基本的な防災訓練（消火体験等）を実施した。</p> <p>5. 防犯 ①開館時間中は監視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備 絵画には美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用 ②保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル（作品接触、破壊、盗難）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。</p> <p>6. 特記事項 これまでの薬剤を使用した燻蒸に類した害虫対策から、施設の総合的な見直しなどによるIPM（Integrated Pest Management）に則った害虫対策への移行を一層進めていくための準備段階として、虫類の館内への進入経路、生息状況等の実態把握を目的とする長期的な調査を開始した。</p>	<p>A</p>	<p>データロガーの導入、空気環境の監視、防災、24時間空調など、国立美術館のなかでも先導的な役割を果たしていることを評価する。なお、今後の展開を長期的に考えるべきである。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保管業務における経験・知見を他館に伝え、4館の共通水準の向上に努めるべきである。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>②伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実へ寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 絵画 2件 彫刻 5件 タビスリー 1件 額縁 3件</p> <p>2. 特記事項 ①当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者等を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び計画的修復を行っている。 ②タビスリー《シャンボール城》について、今後の展示及び長期保存にも耐えうる状態にするための修復を行うこととし、一年計画で修復を実施した。</p>	<p>A</p>	<p>保存修復室、保存科学室を設置し、専門スタッフが配置されている国立西洋美術館では、保存修復について適切に対処している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存修復について他館に対する協力と指導を期待する。また修復事業については、大いに広報することが望まれる。</p>
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成</p>	<p>展示会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展 版画展示 3回 「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」、「オランダ・マニエリスム版画展」、「マックス・クリンガー版画展」 子どもから楽しめる美術展 1回 「Fun with Collection 2004 建築探険—ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」</p> <p>2. 企画展等 4回（中期計画記載回数：年3回程度） ①共催展「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」 ②自主企画展「聖杯—中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」 ③共催展「マティス展」</p>	<p>A</p>	<p>「ジョルジュ・ド・ラトゥール展」は国立西洋美術館の特別展の在り方を的確に示しており、高く評価できる。常設展はコレクションの魅力を紹介する努力が認められ、企画展は古代・中世・近世・近代にわたって幅広く西洋美術を取り上げた点が評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 宗教芸術を紹介する際には、日本との</p>

果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(東京国立近代美術館)
本館 年3～5回程度
工芸館 年2～3回程度
フィルムセンター 年5～6番組程度

(京都国立近代美術館)

年6～7回程度

(国立西洋美術館)

年3回程度

(国立国際美術館)

年5～6回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における

鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。

- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に

努める

常設展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			
入館者数	243,000人 以上	170,100人以上 243,000人未満	170,100人 未満	354,816人
企画展等	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			

④共催展「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールー 光と闇の世界」 3. 入場者数 999,917人(平成15年度 662,854人) 4. 特記事項 平成16年度は展示の充実以外の面における活動についても推進を図っており、より多くの人々に美術館に親しむ機会を持っていただくことを目標に、地域や観光事業と連携した様々な普及広報事業の実施に努めた。とりわけ、自主企画展「聖杯—中世の金工美術」で試みた関連イベントは好評であった。「聖杯」という馴染みのないものが主題であったが、この関連イベントは、人々の展覧会への興味を深め、展覧会自体の底上げにも大きく貢献した。今後も展覧会の内容に応じた広報活動に取り組みたい。				
1. 開催期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日(309日間) ※下記の展示を常設展に併設 平成16年3月2日(火)～5月30日(日)(79日間) (平成16年度は53日間) 版画作品展(春)「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」 平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(83日間) 版画作品展(秋)「オランダ・マニエリスム版画展」 平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間) (平成16年度は21日間) 版画作品展(春)「マックス・クリンガー版画展:《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」 平成16年6月29日(火)～9月5日(日)(61日間) 「Fun with Collection 2004 建築探険—ぐるぐるめぐる・コルビュジエの美術館」				
2. 会場 前庭 屋外1階、本館 1階～2階、新館 1階～2階				
3. 出品点数 185件(常設作品点数:前庭 6件、本館 79件、新館 100件)				
4. 入場料金 一般420円、大学生130円、高校生70円、一般(団体)210円、大学生(団体)70円、高校生(団体)40円、小中学生無料				
5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計)24,351,600円				
6. アンケート調査 アンケート回収数 300件(母集団 2,560人) アンケート結果 大変良い34.7%(104件)、良い51.0%(153件)、まあまあだった10.7%(32件)、あまり良くなかった0.3%(1件)、良くなかった0.3%(1件)、無回答3.0%(9件)				

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証—古代ローマ人と肖像」(共催展) 1. 開催期間 平成16年3月2日(火)～平成16年5月30日(日)(79日間) (うち平成16年度53日間)				
2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階				
3. 出品点数 85件				
4. 主催 国立西洋美術館、NHK/NHKプロモーション 後援 外務省、文化庁、ローマ法王庁大使館 協力 アリタリア航空、日本通運、西洋美術振興財団				
5. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料 割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円 前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円 2館共通入館券 一般2,000円、大学生1,400円、高校生1,200円 ※()内は20名以上の団体割引料金、引率等は20人に対し1人の割合以内で無料 ※東京国立博物館「空海と高野山」展と2館共通入館券を実施				
6. 入場料収入 26,595,700円(3月2日からの総入場料収入)35,852,660円				
7. 展覧会の内容 ヴァチカン美術館古代美術、考古学部門の全面的協力により実現された、共和政ローマから初期キリスト教時代まで、約600年の間に制作された古代ローマ人の肖像彫刻を中心とした展覧会である。第1章「肖像の誕生」、第2章「肖像とアイデンティティ」、第3章「特徴的髪型をした女性の肖像:古代の装い」、第4章「肖像と永遠性」、第5章「帝国の象徴」、第6章「古代肖像の終焉」と、紀元前3世紀以来脈々と展開してきた古代ローマ肖像の最後の様相までを見ることが出来る展覧会である。				
8. 講演会 1回 参加人数130人(会期中に4回開催、うち平成16年度は1回) スライドトーク 5回 参加人数270人(会期中に6回開催、うち平成16年度は5回)				
9. アンケート調査 アンケート回収数 955件(母集団 130,618人) アンケート結果 大変良い26.91%(257件)、良い43.14%(412件)、まあまあだった20.00%(191件)、あまり良くなかった0.63%(6件)、良くなかった3.87%(37件)、無回答5.45%(52件)				
(講演会) アンケート回収数 76件(母集団 130人) アンケート結果 大変わかりやすかった22.5%(17件)、わかりやすかった43.4%(33件)、まあまあだった19.7%(15件)、ややわかりにくかった2.6%(2件)、わかりにくかった2.6%(2件)、無回答9.2%(7件)				
(スライドトーク) アンケート回収数 46件(母集団 71人) アンケート結果 大変わかりやすかった24%(11件)、わかりやすかった30.5%(14件)、まあまあだった13.0%(6件)、ややわかりにくかった21.7%(10件)、わかりにくかった6.5%(3件)、無回答4.3%(2件)				
「聖杯—中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」(自主企画展)				

関連を教育的配慮のもとに提示するべきである。 また、展覧会活動そのものを研究活動と認識するならば、その面での評価が必要になる。少なくとも現段階で、専門に特化しすぎた研究成果を国民に示すような展覧会ではないようにする姿勢が望ましい。カタログには、わかりやすい解説とは別に、専門家の共感するような研究文献・書誌などを掲載する努力が不可欠である。				
常設展へ観客を誘導する努力によって常設展示を目的とした入館者が多いことを評価する。また、教育プログラムの導入やテーマを設けて版画や素描を展示替えすることによって、コレクションの魅力を高める努力をしている。				
【より良い事業とするための意見等】 常設展示作品を変化させないことは重要な手法ではあるが、個々の展示作品の品質にばらつきがありすぎると感じる。美術史的視点とともに鑑賞上の優作という視点を重視することが望まれる。なお、常設展の無料観覧日や夜間開館は、より積極的に広報すべきである。				
4本ともそれぞれ際立った特色を持ち、優れた展覧の実践によって動員率の高い展覧会であったことを評価する。一方で、研究関心が先行すると問題の発生が少なくないため、自由な発想に基づいて、展示方法や日本国内の作例の比較展示など、創意を求めたい。				
【より良い事業とするための意見等】 多数の来館者と国立西洋美術館の規模との兼ね合いが今後の課題である。				

1. 開催期間 平成16年6月29日(火)～8月15日(日)(43日間)
2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階
3. 出品点数 77件(典礼具63+版画14)
4. 主催 国立西洋美術館、ザクセン・プロテスタント教会、ザクセン・プロテスタント教会美術文化財団、(財)西洋美術振興財団
- 名誉後援 ドイツ連邦議会議長
- 後援 文化庁、ザクセン=アンハルト州政府、ドイツ連邦共和国外務省、ドイツ連邦共和国大使館、東京ドイツ文化センター、日本福音ルーテル教会、カトリック中央協議会
- 助成力 (財)東芝国際交流財団、(財)アサヒビール芸術文化財団
5. 入場料金 日本航空、日本通運
当日券 一般850(600)円、大学生450(250)円、高校生250(100)円、小中学生無料
割引券 一般800円、大学生400円、高校生200円
前売券 一般700円、大学生350円、高校生150円
※()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
6. 入場料収入 18,049,200円
7. 展覧会の内容
本展は、12世紀から16世紀初頭、すなわちロマネスク時代から後期ゴシック時代の金細工師が制作した典礼具63点を、聖杯(カリス)と聖皿(パテナ)を中心にご覧いただくとした企画である。本展の貴重な金工作品は美術館ではなく、ドイツ東部のザクセン=アンハルト州を中心とする、プロテスタントの諸教会から出品されたもので、現在でも重要な聖餐式の時に用いられている。このことは、日本では初めての試みとなる中世の金工美術をテーマとする展覧会に、さらに重要な美術史・文化史的意味を加えるものとなった。
8. 講演会 3回 参加人数310人
ギャラリートーク 4回 参加人数270人
展覧会に関連する音楽プログラム 1回 参加人数100人
9. アンケート調査
アンケート回収数 878件(母集団 37,329人)
アンケート結果 大変良い33.72%(296件)、良い42.82%(376件)、まあまあだった17.08%(150件)、あまり良くなかった0.68%(6件)、良くなかった3.08%(27件)、無回答2.62%(23件)
(講演会)
アンケート回収数 79件(母集団 108人)
アンケート結果 大変わかりやすかった48.1%(38件)、わかりやすかった29.1%(23件)、まあまあだった11.4%(9件)、ややわかりにくかった5.1%(4件)、わかりにくかった3.8%(3件)、無回答2.5%(2件)
(ギャラリートーク)
アンケート回収数 22件(母集団 28人)
アンケート結果 大変わかりやすかった59.2%(13件)、わかりやすかった31.8%(7件)、まあまあだった4.5%(1件)、無回答4.5%(1件)

- 「マティス展」(共催展)
1. 開催期間 平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(83日間)
 2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
 3. 出品点数 152件
 4. 主催 国立西洋美術館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
 - 企画協力 ポンビドゥーセンター・国立近代美術館
 - 後援 外務省、文化庁、フランス大使館
 - 特別協賛 清水建設
 - 協賛 J R東海、NTTドコモ、大正製薬、昭和シェル石油、大日本印刷
 - 協力 (社)全国服飾教育者連合会、日本航空、J R東日本、日本通運、西洋美術振興財団
 5. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料
割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円
前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円
※()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
 6. 入場料収入 121,425,460円
 7. 展覧会の内容
アンリ・マティスは、20世紀を代表する画家としてその名を広く知られている。1905年の秋にパリで開催された展覧会(サロン・ドートンヌ)に、色鮮やかで大胆な表現による作品を出品し、大きな衝撃をもたらして以来、絵画表現の新たな可能性を開いた革新者として、その名声を高めていった。今回の展覧会は、ふたつの側面、「ヴァリエーション」と「プロセス」という視点から、マティスの作品を解き明かすことを試みるものである。同じ主題を異なる様式や技法で描き分けた作品や、制作途上を記録した写真とその完成作が展示されるだけでなく、自らが制作する姿を主題とした作品、1943年に出版されたデッサン集『テーマとヴァリエーション』のオリジナル素描なども出品され、マティスが用いた様々な技法上の試みを示す作品によって、「ヴァリエーション」と「プロセス」の問題が多角的に捉えられるものとなった。
 8. 講演会 4回 参加人数491人
スライドトーク 6回 参加人数648人
 9. アンケート調査
アンケート回収数 2,552件(母集団 451,105人)
アンケート結果 大変良い50.32%(1284件)、良い33.5%(855件)、まあまあだった9.99%(255件)、

		<p>あまり良くなかった0.04% (1件), 良くなかった1.53% (39件), 無回答4.62% (118件)</p> <p>(講演会) アンケート回収数 81件 (母集団 104人) アンケート結果 大変わかりやすかった 22.3% (18件), わかりやすかった 28.4% (23件), まあまあだった 24.7% (20件), ややわかりにくかった 11.1% (9件), わかりにくかった 4.9% (4件), 無回答 8.6% (7件)</p> <p>(スライドトーク) アンケート回収数 90件 (母集団 138人) アンケート結果 大変わかりやすかった 20.0% (18件), わかりやすかった 50.0% (45件), まあまあだった 15.6% (14件), ややわかりにくかった5.6% (5件), わかりにくかった2.2% (2件), 無回答6.6% (6件)</p>	<p>「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(共催展) 1. 開催期間 平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間) (うち平成16年度21日間) 2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階 3. 出品点数 34件 4. 主催 国立西洋美術館, 読売新聞社 後援 文化庁, フランス大使館 協力 日本航空, 西洋美術振興財団 マルチメディア協力 コーデックスイメージズインターナショナル, クインランド, 京都市立芸術大学, 三菱電機</p> <p>5. 入場料金 当日券 一般1,100(800)円, 大学生750(410)円, 高校生650(350)円, 小中学生無料 割引券 一般1,000円, 大学生700円, 高校生600円 前売券 一般 900円, 大学生650円, 高校生550円 ※()内は20名以上の団体割引料金, 引率者は20人に対し1人の割合以内で無料</p> <p>6. 入場料収入 16,684,530円</p> <p>7. 展覧会の内容 ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの現在まで残る真作の数が40点余, その作品数の少なさと重要性から, 借り出せる作品はおのずと限定されてしまう。しかし, 国立西洋美術館が平成15年度に購入したばかりのラ・トゥールの作品《聖トマス》が呼び水となり, 世界各地の美術館の協力を得て, その全真筆のほぼ半数と, 若干の失われた原作の模作・関連作を含めた極めて貴重な作品群が東京に顔を揃えることとなり, 日本で初の, そしておそらくは相当な長い将来に渡って再び見ることはないであろうラ・トゥールの展覧会を実現することができた。</p> <p>8. 講演会 2回 参加人数320人(会期中に7回開催予定, うち平成16年度は2回) 9. アンケート調査 ※平成17年度に集計</p>		
(2) 収蔵品については, その保存状況を勘案しつつ, 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し, 貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ, 各委員の協議により, 評定を決定する。	<p>1. 貸与・特別観覧の件数 貸与 5件 6点 特別観覧 66件 179点</p> <p>2. その他 寄託作品の貸与件数 1件 1点</p>	B	貸与制度の改善に取り組んだことは評価するが, いまだ貸与件数は少なく, さらに積極的な取組が必要である。なお, 今後は, 貸し出せる作品の情報を開示するなどの取組も必要である。
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が, 収集・保管・修理・展示, 教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ, 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ, 次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>①収蔵品に関する調査研究 ②美術品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究</p>	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ, 各委員の協議により, 評定を決定する。	<p>1. 調査研究</p> <p>(1) 収蔵品の調査研究 ①旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究 ②中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究 ③美術館教育に関する調査研究 ④美術館情報資料に関する調査研究</p> <p>(2) 保存・修理に関する調査研究 ①西洋美術作品の保存修復に関する調査研究 ②近代絵画材料の非破壊的調査法に関する研究 ③イタリア及びドイツにおける文化財保存環境整備と維持管理に関わる調査, 絵画の非破壊調査法に関する</p>	A	調査研究は, 展覧会活動のほかに, 美術史学会との連携活動, 紀要などに発表された成果, また科研費補助金研究などによく反映されており, 優れた水準に達している。大学との連携, 客員研究員招へい等も評価する。また, 学会やセミナーにおける公開手法も高く評価できる。国立美術館4館の共通した課題だが, 学術的成果は, 積極的に学会誌等における論文発表として公表するべきである。

<p>④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>		<p>調査・研究 (3) 展覧会のための調査研究 ①18世紀における「古代の受容」に関する調査研究 ②中世金工美術及び、中世美術に関する調査研究 ③マティスと20世紀絵画に関する調査研究 ④ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス絵画に関する調査研究 ⑤ドラクワとロマン派石版画に関する調査研究 ⑥オランダ・マネリスム版画に関する調査研究 ⑦マックス・クリンガー版画に関する調査研究 (4) 科学研究費補助金による調査研究 ①「16-17世紀西欧における版画出版と古代の受容」の研究 ② 客員研究員等の招聘実績 3人(年度計画記載人数:3人) 3. 大学院との連携協力 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、2名の大学院生を受入 4. 特記事項 国立西洋美術館在在外研究員制度及び日本学術振興会特定国派遣研究者事業により、在外研究員1名を派遣</p>		<p>今後、より一層の努力を期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 地方公立美術館等の指定管理者制度移行に伴い、共催館の調査・研究能力及び人員不足などが予想されることから、ナショナルセンターとして主導的パワーを発揮すべきである。</p>
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。 (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開 ①収集件数 3,185件 ②公開場所 ・企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター (西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィルム等の資料約146,870点を所蔵し公開している。) ・本館1階 資料コーナー (一般の利用者向けに、本館1階のフリーゾーンに設置) ③利用者数 185人 ④貸出件数 280件、696点(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない) ※本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない 2. 広報活動の状況 ①刊行物による広報活動 8種 『国立西洋美術館ニュース ゼフェロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。 ②ホームページによる広報活動 ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内、オンライン蔵書目録(OPAC)などを掲載し、海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備している。また、平成16年度はボランティア募集等の事業案内広報を掲載したほか、郵送のみで受け付けていた教育プログラム等の参加申し込みについて、インターネットを利用してホームページ上で申し込みができる体制を整備するなど、ホームページを利用した情報発信とインターネットを活用した利便性の向上を図り、来館者のニーズに対して美術館側から積極的に配信を行うよう取り組んだ。 ③マスメディア等による広報活動 国立西洋美術館ニュース、プレスリリース、記者内覧会の案内を作成。新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト関連・ライター等マスメディア関係約650件に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応し、美術館事業の普及広報に取り組んだ。 3. デジタル化の状況 平成16年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 62件</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>4館共通の所蔵作品総合目録検索システムのインターネットでの公開が実施されたこと、美術図書館横断検索ALC参加への具体的検討を始めたこと、あるいはボランティア・プログラムを開始したことなどを評価する。しかし、近代美術系は著作権問題などがあるので西洋美術館における画像デジタル化に期待するところが大きく、拡充とその速度の一層の改善が望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 特殊な資料、アーカイブ資料の整備、ならびに継続的な活動を期待する。また、教育普及事業を展開するにふさわしい人員の配置が望まれる。</p>
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術情報資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業につ</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>1. 児童生徒・教員を対象とした事業 ①Fun with Collection 04「建築探検ーぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」 1回 ※Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設展の作品を活用したプログラムとして実施を行っているため、参加者数という計上は行っていない。 ②創作・体験プログラム 4回 59人 ③ワークショップ(レクチャー等) 8回 435人 ④スクール・ギャラリートーク 28回 650人</p>	<p>A</p>	<p>児童生徒を対象とした活動に色々工夫を凝らしていることが認められる。また「先生のための鑑賞教育プログラム」を始めとする教員研修は重要で、今後とも継続の努力が望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 メールマガジン、HPの活用など、IT機器利用によるプロジェクトの展開が</p>

<p>いて、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<table border="1"> <tr> <td>創作体験プログラム</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回以上 2回未満</td> <td>1回未満</td> </tr> <tr> <td>企画展における講演会</td> <td>回数</td> <td>7回以上</td> <td>5回以上 7回未満</td> <td>5回未満</td> </tr> <tr> <td>スライドトーク</td> <td>回数</td> <td>12回以上</td> <td>8回以上 12回未満</td> <td>8回未満</td> </tr> <tr> <td>音楽プログラム</td> <td>回数</td> <td>1回</td> <td>—</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>ギャラリートーク</td> <td>回数</td> <td>4回以上</td> <td>3回以上 4回未満</td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	創作体験プログラム	回数	2回以上	1回以上 2回未満	1回未満	企画展における講演会	回数	7回以上	5回以上 7回未満	5回未満	スライドトーク	回数	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満	音楽プログラム	回数	1回	—	0回	ギャラリートーク	回数	4回以上	3回以上 4回未満	3回未満	<p>⑤びじゅつ一る 6回 528人</p> <p>⑥どうようびじゅつ「おもいで風景」 8回 142人</p> <p>⑦先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム 4回 646人</p> <p>⑧夏期教員研修会 2回 132人</p> <p>⑨教員研修会 1回 9人</p> <p>⑩団体訪問者(学校・団体)への解説 59校 2,156人</p> <p>2.講演会等の事業</p> <p>①講演会 10回 1,251人</p> <p>②スライドトーク 11回 918人</p> <p>③展覧会に関連する音楽プログラム 1回 100人</p> <p>④ギャラリートーク 4回 139人</p> <p>⑤イヤホンガイド 3回 67,655件</p>	<table border="1"> <tr> <td>4回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>1回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>A</td> </tr> </table>	4回	A	10回	A	11回	B	1回	A	4回	A	<p>望まれる。また、教育プログラムについては、ナショナルセンターとしての役割を重視する方向に向けるべきである。</p>
創作体験プログラム	回数	2回以上	1回以上 2回未満	1回未満																																			
企画展における講演会	回数	7回以上	5回以上 7回未満	5回未満																																			
スライドトーク	回数	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満																																			
音楽プログラム	回数	1回	—	0回																																			
ギャラリートーク	回数	4回以上	3回以上 4回未満	3回未満																																			
4回	A																																						
10回	A																																						
11回	B																																						
1回	A																																						
4回	A																																						
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 研修の取組</p> <p>他の機関が実施する研修等事業への協力を実施 174名</p> <p>2. 大学等との連携</p> <p>①東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻の教育・研究における連携・協力 2名</p> <p>②国立西洋美術館インターンシップ 11名(教育普及11名)</p> <p>3. ボランティアの活用状況</p> <p>登録人数 19人(平成16年11月18日研修終了)</p> <p>平成16年度より、新たにボランティア・プログラムを開始した。12回のボランティア研修を実施し、11月13日より常設展の作品鑑賞を助けるツール(観覧用教材「びじゅつ一る」)の貸出及び運営担当を開始、平成17年2月12日より教育普及プログラム「どうようびじゅつ」を開始した。また、小・中・高校生の団体を対象にした常設展示でのスクール・ギャラリートークを、平成17年度より開始するべく準備を行った。</p>	<p>A</p> <p>ボランティアを導入するに当たって、目的(常設展示でのギャラリートークなど)を明確にし、選考と研修を適切に行うといった姿勢を評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <p>ボランティアについては館の独自性と国立各館との共通性を検討してほしい。また、大学生のインターンシップについては、将来へ向けた人材育成という視点で重要なので、予算の増強が望まれる。また、本部とよく協議し、そのプラス面、マイナス面、運営における課題などを他館の参考に供してほしい。</p>																																			
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。</p> <p>①「聖杯—中世の金工美術」展</p> <p>協力：日本航空株式会社</p> <p>助成：(財)東芝国際交流財団、(財)アサヒビール芸術文化財団</p> <p>②講演会等教育普及事業</p> <p>助成：(財)西洋美術振興財団</p> <p>③「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール 光と闇の世界」展</p> <p>協力：コーテックスイメージズインターナショナル、クインランド、京都市立芸術大学、三菱電機(マルチメディア機器・機材及びDVD・映像ソフト等)</p> <p>2. 企業等との連携を進め、美術館・展覧会情報等の掲載及び割引入場券発券等の幅広い広報活動を図った。</p> <p>①上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じた広報活動を実施</p> <p>②上野松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載</p> <p>③日本通運株式会社「日通ホームページ」、「日通だより(社内報)」及び「中央公論新SPRページ」に「聖杯—中世の金工美術」展覧会情報を掲載</p> <p>④「Weeklyびあ」(発行：びあ(株))に展覧会情報を掲載</p> <p>⑤メールマガジン「校外学習通信」へ美術館及び展覧会情報等の掲載</p> <p>⑥JR東日本「平成16年度上野周辺散策マップ」へ美術館情報を掲載</p> <p>⑦「マティス展」タイアップ企業特別観覧会を実施(マガジンハウス「BOAO」創刊記念)</p> <p>⑧東京・ミュージアムぐるっとバスへ参加し、常設展共通入場券及び企画展入場割引券を発行</p> <p>⑨東京都「ウェルカムカード」へ参加し、常設展割引入場券を掲載</p> <p>⑩週刊朝日百科「美術館を楽しむ」創刊号へ常設展割引券を掲載</p> <p>⑪東京地下鉄株式会社、小田急電鉄株式会社「1日乗車券」事業と連携し、入場料金の割引及びミュージアムショップでの商品割引販売、相互協力によるPR活動を実施</p> <p>3. 地域との連携を進め、他の機関・団体等と共同・連携し、幅広い広報活動を行った。</p> <p>①東京都「上野地区観光まちづくり推進会議」へ参加</p> <p>②台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野—谷中2004」へ参加</p> <p>③台東区教育委員会を通じ、台東区内の小中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施</p> <p>④近隣の高等学校14校を訪問し、広報活動及び学校側のニーズを調査するべく相互の意見交換を実施</p>	<p>B</p> <p>上野の山の地域性、交通利便性、観光拠点等の立地条件を念頭に、広報や渉外活動を行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <p>企業、財団などからの協賛、協力などの受入に努力がなされてきたが、今後は個人を含め、館側からの積極的な提案や対応を行うべきである。現金による協賛は少なく、現物出資又は労務提供的な協力がより多くなると思われることから、各種の協力受入の対応策と積極的提案が必要である。専門の担当者を配置することも検討すべきである。</p>																																			

			⑤イコム「国際博物館の日」に上野公園内の施設、台東区、上野のれん会、(株)NTTドコモが協力し、記念事業を実施		
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に行い、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 高齢者・身体障害者等のための施設整備等</p> <p>①障害者トイレ 5箇所(本館1階1箇所、企画展示館地下1階1箇所、企画展示館地下2階3箇所)</p> <p>②障害者エレベータ 4基(新館1基、企画展示館3基)</p> <p>③段差解消(スロープ) 2箇所(正門、本館19世紀ホール)</p> <p>④風除扉の自動扉化 7箇所(本館2箇所、新館4箇所、企画展示館1箇所)</p> <p>⑤貸出用車椅子 10台(1階インフォメーション)</p> <p>⑥貸出用杖 10本(1階インフォメーション)</p> <p>⑦盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能</p> <p>⑧国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備</p> <p>※④風除扉の自動扉化のうち、企画展示館の1箇所は平成16年度に新設</p> <p>2. 観覧環境の充実</p> <p>①「ヴァチカン展」、「マティス展」、「ラ・トゥール展」で音声ガイドの実施(総貸出件数 67,655件)</p> <p>②展示解説ビデオの上映、加えて「ラ・トゥール展」ではマルチメディアによる情報コーナーを設置</p> <p>③ジュニアパスポート、作品リスト等印刷物の無料配布を実施</p> <p>④平成16年度より「国立西洋美術館本館参考順路図」を会場で無料配布</p> <p>3. 夜間開館 50日間</p> <p>4. 入場料金の低廉化</p> <p>①昨年度に引き続き、常設展及び企画展における小中学生の入場料無料化を実施</p> <p>②自主企画展「聖杯-中世の金工美術」展においては、割引券及び前売券を発行</p> <p>③「東京・ミュージアムぐるっとパス」へ参加し、常設展共通入場券及び企画展入場割引券を発行</p> <p>④東京都、外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展割引入場引換券を掲載</p> <p>⑤常設展無料観覧日の実施(毎月第2・第4土曜日、11月3日「文化の日」、5月18日「国際博物館の日」)</p> <p>5. その他の入館者サービスへの取り組み</p> <p>①展覧会の混雑時は、臨時の券売窓口の増設、開館時間の延長、閉館時間を早めるなどして柔軟に対応</p> <p>②春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を、5時30分まで延長</p> <p>③5月の連休中及び、8月のお盆休期間中の休館日を臨時に開館</p> <p>④マティス展開催期間中の休館日である9月21日(火)及び11月22日(月)を臨時に開館</p> <p>⑤年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館</p> <p>6. 一般入館者等の要望の反映</p> <p>①バリアフリー化等施設の整備を推進(企画展示室入り口の自動扉化、新館トイレへウォッシュレットを設置)</p> <p>②展覧会の混雑緩和のため、開館時間の延長、臨時開館等を実施</p> <p>③コンサート等イベントの実施</p> <p>「聖杯展開催記念 ガーデンコンサート」(平成16年7月17日)</p> <p>「上野の森ミュージアムコンサート」(平成16年9月18日、9月19日)</p> <p>「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」(平成16年12月1日～26日)</p> <p>④美術館のすべてのスタッフが連携を保ち、来館者の方へ好感を与えることを目的とし、遭遇研修を実施</p> <p>7. レストラン・ミュージアムショップの充実</p> <p>①レストラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年4月1日からの消費税総額表示に併せ、全面的な料金の値下げを実施 ・企画展覧会に関連した料理を取り入れ、メニューを充実(マティス展でプロバンス地方のワイン等) <p>②ミュージアムショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立西洋美術館所蔵作品オリジナルグッズの新商品を開発・販売(平成16年度新商品: 睡蓮・ばらをモチーフにした「ハンドタオル」、睡蓮、ばらをイメージした「オーデコロン」、考える人「定規」「ボールペン」、ロゴ入り「革製、ブックカバー」名刺入れ「キャンパスバッグ」) ・お客様から要望の多かった作品の絵はがきを作成し、種類の入れ替えを実施 	A	<p>企画展開催日から秋の企画展閉会日までの閉館時間の延長をはじめ、サービスの向上が着実に実践されている。また、前庭に自由に入れる雰囲気はすっかり定着しており、国立美術館随一の環境となっている。</p> <p>【より良い事業とするための意見】</p> <p>年々増加する高齢の入館者への対策として、レストランの充実だけでなく、ギャラリー内でのソファの設置、トイレの身障者対応、サイン表示の文字の大きさなどが一層重要である。また、より細やかな「顧客満足度調査」を業務全般にわたり、実施されることが望まれる。特にシニア入館者に対しシニア動向調査を兼ねたアンケートを実施すべきである。</p>

【国立国際美術館】
I 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評価	評定	
		A	B	C			定性的評定	
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)省エネルギー、廃棄物減量化リサイクル	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 業務の一元化</p> <p>これまで行ってきた一元化事務に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等(リサイクル)</p> <p>(1) 光熱水量</p> <p>ア. 電気 使用量 2,746,759kwh (前年度比307.73%) 料金 40,477,150円 (前年度比173.76%)</p> <p>イ. 水道 使用量 5,055m³ (前年度比198.78%) 料金 2,310,758円 (前年度比239.31%)</p> <p>ウ. ガス 使用量 116m³ (前年度比 29.31%) 料金 13,409円 (前年度比 27.53%)</p> <p>(2) 廃棄物処理量</p> <p>館内LANを利用した通知文書の発信や両面コピーの推進により、ペーパーレス化に努めた。また、産業廃棄物については、移転に伴い什器類を廃棄処分としたためである。</p> <p>ア. 一般廃棄物 8,905Kg (前年度比 86.12%) 料金 185,460円 (前年度比81.34%)</p> <p>イ. 産業廃棄物 1,290Kg (前年度比 -%) 料金 984,000円 (前年度比 -%)</p> <p>3. 施設の有効利用 講堂の利用率 17% (26日/149日) ※平成15年度 3%</p>	A	<p>新館での業務開始時期にあたるため、効率化作業の模索段階と思われるが、努力が認められる。省エネルギー、施設有効利用、OA化、外部委託など業務運営の効率化は進んでいる。特に新館移転に伴う諸業務と職員の一休感が奏効したと思われる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>「紙の使用量」の増加は、事業の拡大に伴うもので、評価の在り方の検討が必要である。</p>			

<p>ルの推進、ペーパーレス化の推進 (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4)外部委託の推進 (5)事務のOA化の推進 (6)連絡システムの構築等による事務の効率化 (7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>4. 外部委託 平成16年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。 (1)常駐警備業務 (2)機械警備業務 (3)清掃業務 (4)看士業務 (5)電気機械設備運転業務 (6)昇降機設備保全業務 (7)情報システム保守業務 (8)空調設備保守業務 (9)受変電設備保守業務 (10)消防設備点検業務 (11)庶務課業務 (12)ミュージアムショップ運営業務</p> <p>5. OA化 館内LANを利用した情報の共有及びメールを利用した通知・連絡により、ペーパーレス化を図るとともに、事務の効率化を図った。</p> <p>6. 一般競争入札 平成16年度契約では、一般競争入札に付す案件はなかった。 ただし、土地借料、陳列品購入費、新館工事費を除く。</p> <p>7. 評議員会 開催回数 1回</p> <p>1.562% 効率化係数計算式 (A-B) ÷ A (205,155,051-201,949,615) ÷ 205,155,051 = 0.01562 A: (16年度予算額-16年度特殊要因額-次年度債務繰越額+前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (764,463,000-556,571,000-4,788,500+0) ÷ 0.99 = 205,155,051 B: 16年度決算額-16年度特殊要因決算額 760,820,615-558,871,000 = 201,949,615</p>	<p>A</p>
---	----------------	---------------	--------------------------	---------------	---	----------

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評 定	評 定 定性的評定
		A	B	C			
<p>1 収集・保管 (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 (国立国際美術館) 日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	<p>美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 購入 49件 2. 寄贈 126件 3. 寄託 74件 4. 特記事項 平成16年度においては、洋画では、日本の現代美術を代表する斎藤義重の絵画《作品N》(1958)とグラフィックデザイナーで画家の横尾忠則の1980年代初頭の秀作《ディナーパーティの話題》(1982)の2点を収蔵した。また、「もの派」周辺の動向を充実させる作品として、関根伸夫の水彩《Project》(1974)や吉田克朗の絵画《触“体”110》などを収蔵した。 彫刻では、アメリカを代表するオブジェ作家ジョゼフ・コーネルの《無題(北ホテル)》(1950s)をはじめ、トニー・クラッグ(イギリス)のブロンズ作品《ベトリ・カルチャー》(1987)、90年代以降の新たな動きを示す作品として、キキ・スミス(アメリカ)の隆皮紙による作品《間》(1997)などを収蔵した。 また、近年収集対象としての重要性がますます増している写真の分野では、ブラジル生まれのヴィック・ムニースの最近作《白いバラ》(2003)や今年度当館で個展を開催したオノテラユキの代表作《古着のポートレート》(1997)などを収蔵した。 版画の分野では、浜田知明の代表作《初年兵哀歌(歩哨)》(1954)をはじめ、泉茂、吉原英雄、池田満寿夫ら戦後を代表する版画家の作品を収蔵した。 なお、寄贈については、版画家の南桂子の水彩・素描をはじめ、具体美術のメンバーであった鷺見康夫の1950年代の絵画や彫刻家ヤノベケンジの素描などの寄贈を受けた。 寄託作品の受け入れについては、今年度パブロ・ピカソの代表的な版画作品47点など、生前から展覧会等を通じて密接な交流を続けてきた結果、作家やコレクターの没後、遺作や収蔵品を優先的に受けることができた。</p>	<p>A</p>	<p>研究員の継続的な調査と展覧会活動などによって購入、寄贈、寄託が順調に進められている。また、購入費の弾力的運用を活用したことが評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 寄贈・寄託の推進を今後も進めることが望まれる。また、収集予算に比して現代美術は高価な作品が多いのが現状である。</p>	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度 ①展覧会場(空調実施時間 9:30~17:00 ただし、夜間閉館日は19時まで) 夏季 : 温度 25℃ 湿度 50% 冬季 : 温度 21℃ 湿度 50% ②収蔵庫(空調実施時間 24時間) 夏季、冬季 : 温度 22℃ 湿度 55% 2. 照明 作品に最も適した照明環境を創出し、常に必要に応じた改善を行った。 3. 空気汚染 中央監視装置により二酸化炭素濃度を測定し、常に快適環境を維持した。 4. 防災 監視モニター及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行った。 5. 防犯 防犯システムの充実に加え、監視モニターと警備員による定期巡回のほか、退館後は機械警備とし防犯対策を行った。 6. 特記事項 展示場及び収蔵庫が地下にあるため、温湿度の制御がしやすくなったことに加え、ケミカルフィルターの組み込まれた空調機が、コンクリートから発生するアンモニアや空気中に含まれるアンモニアを除き、収蔵庫内にクリーンエアーを循環させることができるため、快適な保存、収蔵環境を維持した。</p>	<p>A</p>	<p>新館移転により、ケミカルフィルターを使用するなど最新・最適の保存、収蔵環境が整備された。館が新しくなったところなので、長期的計画を考えて取り組むことが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展示室が地下にあるため、当然温湿度変化は少ないと思われるが、実際にはどの程度なのか、通年のデータを追うべきであり、またその情報を公開することが望まれる。</p>	
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 ①緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 ②伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 修理件数 82件 ・洋画 3件 ・水彩 1件 ・素描 11件 ・版画 41件 ・写真 21件 ・彫刻 5件 2. 特記事項 移転・開館の準備を進める中で、所蔵品の全ての保存状態が確認できたことは、長期的な修理計画を立てるうえで大変有意義であった。</p>	<p>A</p>	<p>適切に対処していることを評価する。現代美術の保存・修復の在り方について先進的な研究をすることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 修理・保管についてこれまで指摘してきたことだが、保存または修復の専門職員の配置が望まれる。 また、本部とよく協議し、レジストレーションのための共通データベースが必要ではないか。</p>	

<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6～7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5～6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施。そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展（展示替 2回） 2. 特別展・企画展 3回 ①「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展 ②「中国国宝展」 ③「オノデラユキ写真展」 3. 入館者数 485,111人（平成16年度 44,685人） 4. 海外交流展 0回 5. 地方巡回展 1回 6. 国立美術館巡回展 0回</p> <p>1. 開会期間 126日間 2. 会場 地階2階展示場 3. 出品作品数 延124件 4. 入場料金 大人420円、大学生130円、高校生70円 5. 入場料収入（常設展のみの入場料収入 2,877,870円）（目標入場料収入 269,000円） 6. アンケート調査 第1回 アンケート回収数 537件（母集団 4,741人） アンケート結果 ・良い63%（338件）・普通34%（182件）・悪い 3%（17件） 第2回 アンケート回収数 420件（母集団 8,576人） アンケート結果 ・良い52%（217件）・普通36%（154件）・悪い12%（49件） 第3回 アンケート回収数 107件（母集団 825人） アンケート結果 ・良い58%（62件）・普通35%（37件）・悪い 7%（8件）</p> <p>入館者数 148,000人以上 103,600人以上 103,600人未満</p> <p>186,335人</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>開館記念展として行ったデュシャン展が当館の性格にふさわしく、充実したものであったことを評価する。都心部に移り、年間48万人余りの入館者があり、収入も旧館の8倍となった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 主に現代美術を展示する館としての責任は重く、ユニークな展覧会の企画も決して忘れないようにすべきである。</p> <p>コレクションの中から代表的作品を厳選し、同時開催の企画展と関連させるなどの努力を評価する。なお、常設展を定着させるにはより一層の努力が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 新しい館に移って、展示スペースもより弾力的に使えるようになったので、常設展についても企画性を重視して現代美術を面白く見せることが望ましい。巨大な展示空間をもつ館として常設展をどのように展開するのか、注目に値する。造作を含めて、小空間の模索、メディアアート用空間設定など、努力することが望まれる。</p> <p>全体としての確かな企画の実現となった。しかし、新館の大展示空間をいかに有効利用し、また観客の動線や鑑賞しやすさをいかに設定していくかの課題が残る。移転したことにより動員率がアップしているため、今後は企画そのものを適切に内部で評価して、動員だけが目当ての展覧会をやっていると望まれないようにすることが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 現代美術を対象とする館として、より今目的で、魅力的な企画が望まれる。多様性も必要であるが、現代美術や国際性に重点を置き、建築や漫画、デザインなどについて斬新な取組を行うことが望まれる。</p>
		<p>「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展 1. 開会期間 平成16年11月3日～平成16年12月19日（41日間） 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館、朝日新聞社、朝日放送 協賛 DNP大日本印刷、(財)ダイキン工業現代美術振興財団 協力 日本航空 4. 出品点数 155件 5. 入場料金 大人1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円 6. 入場料収入 12,361,640円（目標入場料収入 2,016,000円） 7. 展覧会の内容 「現代美術の父」とも呼ばれるマルセル・デュシャンの初期絵画から晩年の作品までを紹介する展覧会。同時に、デュシャンに触発された国内外の現代美術作家たちの作品もあわせて展示し、デュシャンを通して20世紀美術をとらえなおす展覧会とした。また、今後の館の活動の方向性を明確に示した。 8. 講演会等 6回 1,030人 9. アンケート回収数 551件（母集団 4,474人） アンケート結果 ・良い68%（376件）・普通31%（168件）・悪い 1%（7件）</p> <p>「中国国宝展」 1. 開会期間 平成17年 1月18日～平成17年 3月27日（60日間） 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館、東京国立博物館、朝日新聞社、朝日放送、中国国家文物局、中国国家博物館（中国文物交流中心） 後援 外務省、文化庁、中国大使館、(社)日中友好協会、人民日報社 協賛 トヨタ自動車株式会社、凸版印刷株式会社、松下電器産業株式会社、株式会社竹中工務店 協力 講談社、小学館、ニッセイ同和損害保険、全日空、(財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 146件 5. 入場料金 大人1,300円、高校・大学生900円、小・中学生500円 6. 入場料収入 28,789,100円（目標入場料収入 4,435,200円） 7. 展覧会の内容 長大な歴史と広大な国土とをあわせもつ中国には、数千年にわたる時代の貴重な文化財が多数残されており、その文化の真髄を、「仏教美術」と「考古学の新発見」に焦点を当てた展覧会とした。 8. 講演会等 2回 370人 9. アンケート回収数 537件（母集団 8,311人） アンケート結果 ・良い83%（444件）・普通15%（79件）・悪い 2%（14件）</p> <p>「オノデラユキ写真展」 1. 開会期間 平成17年 2月5日～平成17年 4月17日（62日間／うち平成16年度開催47日間） 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団、株式会社資生堂、キヤノン株式会社 4. 出品点数 52件 5. 入場料金 大人420円、大学生130円、高校生70円 6. 入場料収入 常設展と同時開催のため入場料収入は、常設展に計上。 7. 展覧会の内容 パリを拠点に国際的に活躍する写真家オノデラユキの個展。代表作《古着のポートレート》をはじめ、</p>		

			オノデラがこの10年取り組んだ連作を中心に、新作を加えた52点によって、オノデラの遊び心あふれる写真世界を紹介した。印刷物では分からないプリントの質感や作品の大きさを実感できる展示となった 8. 講演会等 2回 210人 9. アンケート回収数 107件(母集団 825人) アンケート結果 ・良い66%(70件)・普通23%(25件)・悪い11%(12件)				
	「マルセル・デュシャン」展	30,000人以上 21,000人以上 30,000人未満	21,000人以上 30,000人未満	21,000人以上 30,000人未満	56,453人	A	
	「中国国宝展」	66,000人以上	46,200人以上 66,000人未満	46,200人以上 66,000人未満	131,093人	A	
	「オノデラユキ写真展」	48,000人以上	33,600人以上 48,000人未満	33,600人以上 48,000人未満	111,230人	A	
	国立国際美術館巡回展				1. 開会期間 ①平成16年4月2日～平成16年5月16日(39日間) ②平成16年5月21日～平成16年7月4日(39日間) ③平成16年7月9日～平成16年8月15日(33日間) 2. 会場 ①八代市立博物館 ②大分市美術館 ③岡山県立美術館 3. 主催 ①八代市立博物館、国立国際美術館 ②大分市美術館、国立国際美術館 ③岡山県立美術館、国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 66件 5. 入場料金 大人830円、大学生450円、高校生250円、 大人(団体)560円、大学生(団体)250円、高校生(団体)130円 6. 展覧会の内容 当館のコレクションのうち、国内外を代表する作家50人余の作品を、「人物」「風景」「静物」「空間」という4つのテーマに分類して展覧した。多くの方に、20世紀に繰り広げられた様々な表現の冒険というべき世界を体験いただく機会を提供することを企図した。 7. 講演会等 13回 参加人数 482人	A	移転準備の休館中に開催されたこともあり、当館の代表作によって構成されたことは、受入先の3館にとっても有意義なことであった。 【より良い事業とするための意見等】 当館の代表作による巡回展は常設展の関係もあって、今後困難であることから、今後も巡回展を行うなら、新しい観点での構成が必要である。
	入館者数				18,136人(①～③合計)	-	
(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			貸与 40件、特別観覧 9件	A	移転の準備の多忙な中で、一定の成果をあげたことが認められる。なお、今後は、貸し出せる作品の情報を開示するなどの取組が必要である。
3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 ①収蔵品に関する調査研究 ②美術品に関する調査研究 ③収集・保管・展示に関する調査研究 ④美術史、美術動向、作者に関する調査研究 ⑤世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 現代美術の調査研究 (1) 日本の現代美術に関する調査研究 『O・JUN《あいうえお一泣く女の図》(『花・TV・コップ』より)』(島 敦彦) 『審美のアンクル』(島 敦彦) 『瀬口修造』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『芸術と日常 反芸術/汎芸術』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『今日のイギリス美術』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『安斎重男』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『絵画1977-1987』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『彫刻の遠心力』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『近作展』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『あとがき』『国立国際美術館所蔵作品選』(島 敦彦) 『幸福な絵画』あるいは『地中美術館』に見る『永遠の時間』(中井康之) 『抽象とリアリズム』『国立国際美術館所蔵作品選』(中井康之) 『戦後日本の版画』『国立国際美術館所蔵作品選』(中井康之) 『戦後イタリア美術と日本』『国立国際美術館所蔵作品選』(中井康之) 『1960-70年代 フランスの美術動向』『国立国際美術館所蔵作品選』(中井康之) 『もの派』について』『国立国際美術館所蔵作品選』(中井康之) 『今日における「版画」の位置』(中井康之) 『日本に於いて絵画を制作することMaking Painting in Japan』(中井康之) 『環九《泉》』(安來正博) 『元永定正《作品》』(安來正博) 『2003年美術をめぐる身辺雑記』(安來正博) 『デモクラートが残していったもの』(安來正博) 『1950年代の関西における前衛美術運動』『国立国際美術館所蔵作品選』(安來正博) 『絵画の嵐 アンフォルメルと1950年代の絵画』『国立国際美術館所蔵作品選』(安來正博) 『アメリカ美術の台頭 1940～1960年代の状況』『国立国際美術館所蔵作品選』(安來正博) 『[特集: 進化する美術館] 今後の活動を強く意識』(安來正博) 『子どものためのワークショップ 国立国際美術館の実践から』(安來正博) 『先端はスロー? 「スローネス会議」と美術展示について』(加須屋明子) 『性差の政治学「女性作家論」論?』『国立国際美術館所蔵作品選』(加須屋明子) 『芸術と環境 旧東欧諸国からの諸表現』『国立国際美術館所蔵作品選』(加須屋明子) 『ポートレート(K・クネフェル)』(中西博之) 『ピカソと国立国際美術館の名品』『国立国際美術館所蔵作品選』(中西博之) 『ゲルハルト・リヒターと同時代絵画の収集』『国立国際美術館所蔵作品選』(中西博之) 『写真コレクションの今後』『国立国際美術館所蔵作品選』(中西博之) 『国立国際美術館 所蔵品総目録 1977-2003』(中西博之)	A	移転準備に追われる中であっても企画展の立案と実施をはじめ作品の保存に関する調査など着実に成果をあげていることが認められる。なお、できる限りの取組をしていることは評価するが、より一層の努力が望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 地方公立美術館等の指定管理者制度移行に伴い共催館の調査・研究能力及び人員不足などが予想されることから、ナショナルセンターとして主導的パワーを発揮すべきである。 「国立美術館紀要」の発行などを働きかけ、研究成果の発表の場を拡大することが望まれる。		

				<p>「ファッション／アート／建築の間から」(平芳幸浩) 「オブジェの系譜」『国立国際美術館所蔵作品選』(平芳幸浩) 「ミニマル・アート、重力、コンセプチュアル・アート」『国立国際美術館所蔵作品選』(平芳幸浩)</p> <p>(2) 海外の現代美術に関する調査研究 「空(隙)間の再発見-共生を目指して W dazeniu do symbiozy, czyli ponowne odkrycie miedzy-przestrzeni」(加須屋明子) 「揺れるイメージとしてのガラス」(安來正博)</p> <p>2. 展覧会のための調査研究 (1) オノデラユキに関する調査研究 「オノデラユキ《古着のポートレート》」(島 敦彦) 「オノデラユキの写真」『オノデラユキ写真展』(島 敦彦) (2) マルセル・デュシャンに関する調査研究 「マルセル・デュシャン《階段を降りる裸体No.2》」(平芳幸浩) 「鏡の送り返し-デュシャン以降の芸術-」『マルセル・デュシャンと20世紀美術』展(平芳幸浩) 「1970年代アメリカにおけるマルセル・デュシャンの受容の形態について」(平芳幸浩) 「謎の男マルセル・デュシャン」(平芳幸浩)</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 「大阪における近代商業デザインの調査研究」(基盤研究 代表 宮島久雄) 「四大(地・水・火・風)の感性論」(加須屋明子) 研究分担(基盤研究 代表 岩城見一)</p> <p>4. その他(講演会、セミナー等での発表) 「マッキアイオーリ 19世紀イタリヤにおける自然主義絵画運動」(中井康之) 「日本現代版画の状況-テクノロジーの参入を軸に」(中井康之) 「Post-media arts」(加須屋明子) 「Understanding others: contemporary art from Korea and Japan」(加須屋明子) 「ポストメディアアート/仮想空間における美術の未来-京都ビエンナーレ2003を中心に-」(加須屋明子)</p> <p>5. 客員研究員等の招聘実績 客員研究員1名を招聘し、以下の調査研究を行った。 ア. 紙支持体作品の保存に関する調査研究 イ. 現代美術作品の保存に関する調査研究</p>	
--	--	--	--	---	--

<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	美術館に関する情報の収集及び公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 資料の収集及び公開 ①収集件数 239件 ②公開場所 情報コーナーにおいて、資料の一部公開を行っている。</p> <p>2. 広報活動の状況 ①刊行物による広報活動 9種 ②ホームページによる広報活動 展覧会情報を中心に、各種教育普及事業の開催計画を掲載し、館の活動について積極的な情報発信を行うとともに、新館に関する情報提供にも努めた。 ③マスメディアの利用による広報活動 展覧会情報や館の活動状況について、マスメディアに対する積極的な情報提供を行うとともに、取材や撮影依頼にも可能な限り対応した。</p> <p>3. デジタル化の状況 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 ・文字データ 175件 ・画像データ 0件 ・図書データ 1,423件</p>	A	<p>新館開館後、情報コーナーを利用して資料公開を始めたことは評価できる。また、新館移転関連の広報、宣伝、PR事業は幅広くあらゆるメディア媒体、組織などを活用し展開され、大きな成果をあげた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 デジタル化について、現行水準は必ずしも肯定できないので、本部と協議の上、打開策を検討することが望まれる。</p>		
	出版件数	ジュニアガイドブック	1回以上	-	0回	1回	A
		月報(美術館ニュース)	12回以上	8回以上 12回未満	8回未満	8回 (10月号から隔月報化し、「美術館ニュース」となった。)	B
		展覧会案内	1回以上	-	0回	1回	A
	ホームページのアクセス件数	155,993件以上	109,195件以上 155,993件未満	109,195件未満	332,107件	A	

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学	講座・講習会等の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 ①こどものためのワークショップ 4回 104人 ②ウィデオ上映 1回 18人</p> <p>2. 講演会等の事業 ①講演会 18回 1,445人 ②ギャラリートーク 5回 450人</p>	A	<p>現在活躍中の作家と児童生徒が交流できるワークショップがこの館の特色となってきたことを評価する。新館を広く知ってもらうことも含め、児童生徒を対象とした、ギャラリートーク、ワークショップ、シンポジウムなどの事業は今後と</p>
--	--------------	---	---	---	--

<p>習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保な講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容</p>	<table border="1"> <tr> <td>子供のためのワークショップ</td> <td>回数</td> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> <td>4回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ビデオ上映</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>1回</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>講演会</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回</td> <td>1回未満</td> <td>17回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ギャラリートーク</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回</td> <td>1回未満</td> <td>3回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ビデオ上映</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>7回</td> <td>A</td> </tr> </table>	子供のためのワークショップ	回数	4回以上	3回	3回未満	4回	A	ビデオ上映	回数	3回以上	2回	2回未満	1回	C	講演会	回数	2回以上	1回	1回未満	17回	A	ギャラリートーク	回数	2回以上	1回	1回未満	3回	A	ビデオ上映	回数	3回以上	2回	2回未満	7回	A	<p>③ビデオ上映 47回 314人</p>	<p>も積極的に推進することが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 早急に児童のためのワークショップを行える空間を確保することが望ましい。メールマガジン、HPの活用など、IT機器利用によるプロジェクトの展開が望まれる。また、回数・内容等が適切なモデルケースを、人員の配置を考慮した上で検討すべきである。</p>
子供のためのワークショップ	回数	4回以上	3回	3回未満	4回	A																																
ビデオ上映	回数	3回以上	2回	2回未満	1回	C																																
講演会	回数	2回以上	1回	1回未満	17回	A																																
ギャラリートーク	回数	2回以上	1回	1回未満	3回	A																																
ビデオ上映	回数	3回以上	2回	2回未満	7回	A																																
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 大学等との連携 大学生の学芸員資格取得のための博物館実習（13名受入）を行った。</p> <p>2. インターンの活用状況 6名（大学院生及び修了者を受け入れ、学芸業務全般にわたって従事させた。</p> <p>3. ボランティアの活用状況 60名（大学生）を受け入れ、美術館業務の補助業務に従事させた。</p>	<p>B</p> <p>独法化当初に比べると様々な努力をしてきていることは高く評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 特に大学との連携によるインターンの受入は、将来へ向けた人材育成という視点で重要なので、予算の増強が望まれる。また、博物館実習については、廃止を検討すべきである。ボランティアについては、本部と協議のうえ、充実化を図ることが望まれる。</p>																																		
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>館の業務充実を図るため、展覧会に対する助成団体への申請を行った結果、次のとおり成果をあげることができた。館の事業をより充実したものとするために有効な方策であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>①「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展 助成：財団法人花王芸術・科学財団、財団法人U F J信託文化財団</p> <p>②「オノデラユキ写真展」 助成：株式会社資生堂</p>	<p>B</p> <p>新しい立地条件を念頭においた今後の活動を期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 企業、財団などからの協賛、協力などの受入に努力がなされてきたが、今後は個人を含め、館側からの積極的な提案や対応をすべきである。専門の職員の配置を検討し、支援・企業団体への対応を促進すべきである。</p>																																		
<p>5 新たな美術館施設の円滑な運営について</p> <p>(2) 国立国際美術館新館については、平成16年の移転に向けて、体制整備、展示等の実施準備を進め、開館後は円滑な事業実施に努める。具体的な管理運営のあり方等については開館までに検討を進める。</p>	<p>開館への準備状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>館長の優れたリーダーシップのもと、学芸課、庶務課の職員が一丸となって、所蔵作品の移転を計画的かつ円滑に進めるとともに、開館に向けた設備、備品等の整備を着実に進め、開館準備に万全を期した。新館における管理運営のあり方等については、各部会が相互に連携を取りながら、周到かつ十分な検討を進めてきたことから、開館後の事業運営は、特段の支障もなく円滑に進めることが出来た。</p>	<p>A</p> <p>館長、職員の努力により、移転を無事に行ったこと、また順調な再スタートを切ったことは評価する。巨大空間のみが連続する美術館空間については、ワークショップ空間、メディアアート用小空間などを検討すべきである。また、より顧客の視点に立ったきめ細かいサービス、運営が望まれる。</p>																																		
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者等のための施設整備等 ①障害者トイレ 1個所（B1階 1個所） ②障害者エレベータ 2基 ③貸出用車椅子 6台（1階）</p> <p>2. 観覧環境の充実 展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するとともに、館内にビデオトークを設置し、情報提供を行った。</p> <p>3. 共催展開催中の毎週金曜日に夜間開館を実施した。</p> <p>4. ペビーカー2台の貸し出しを始めた。</p> <p>5. 高齢者に配慮して、拡大鏡（ルーペ）を受付に配置し、希望者に貸し出しを行った。</p> <p>6. 入場料金の低廉化 ①平成16年度についても、常設展及び企画展において、小・中学生の観覧料を無料とした。 ②学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施した。</p> <p>7. 一般入館者等の要望の反映 アンケート結果の分析を行い、可能なものから改善に努めるとともに、新館運営に向けて参考とした。</p> <p>8. レストラン・ミュージアムショップの充実 現代美術をより親しく感じてもらえるよう、販売グッズの内容を検討し、充実にも努めた。</p>	<p>A</p> <p>新しい環境下で、説明のための無料リーフレットの配布や、共催展開催中の毎週金曜日の夜間開館などのサービスを含めて、職員が認められる。夜間開館が定着するのは時間を要するだろう。また、年々増加する高齢の入館者への対策として、レストランの充実だけでなく、ギャラリ内でのソファの設置、トイレの身障者対応、サイン表示の文字の大きさなどが一層重要となるであろう。</p> <p>【より良い事業とするための意見】 年々増加する高齢の入館者への対策として、レストランの充実だけでなく、ギャラリ内でのソファの設置、トイレの身障者対応、サイン表示の文字の大きさなどが一層重要となるであろう。また、より細やかな「顧客満足度調査」を業務全般にわたって実施することが望まれる。特にシニア入館者に対し、シニア動向調</p>																																		

の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
 (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

査を兼ねたアンケートを実施してはどうか。
 高校生の別料金体制については、今後も継続することが望まれる。

【国立新美術館】(平成15年6月に新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)から国立新美術館に名称を決定。)

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的 評価	評 定
		A	B	C			定性的評価
<p>6 新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設に向けた準備について 文化庁が平成18年を目途に開設を予定している新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)について、文化庁と連携・協力し、その円滑な開設に向けた体制整備、展示事業等の準備を推進する。</p>	<p>開館への準備状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 国立新美術館運営協議会の開催 開設に向けた準備として、開設に関する重要事項を検討するため国立新美術館運営協議会を7回開催し、特に公募展事業の諸条件等について検討を行った。 2. 展覧会事業 (1) 公募展事業 平成16年8月から12月にかけて、展示室の使用方法について説明会を開催するとともに、現地視察の実施やホームページ等を活用して周知を図った結果、事業開始初年度からの使用について127団体の応募があり、展示室の利用計画の目的がたつた。 (2) 自主企画展・共催展事業 主として新しい美術の動向を紹介し、公募展団体と相まって現代の美術状況が概観されるような展覧会を目指し、幾度となく出品候補作品の調査・交渉を行った結果、開館記念展をはじめとする平成18年度から平成19年度にかけての自主企画展、共催展の開催の見通しが立ち、予定どおり具体的な諸準備に入った。 3. 情報収集・提供事業 当館のアートライブラリの特色ある蔵書の収集計画と活動計画の検討を行い、当館の特色として国内外の展覧会カタログ等他館で収集していない資料を収集することとし、関係団体等へ積極的に交渉した結果、(財)国際文化交流推進協会から約2万点、個人蔵書家から約1万5千点の寄贈資料を受けた。また、東京国立近代美術館、国立西洋美術館と同様、美術情報の連携を目指す美術図書館横断検索(ALIC)への参加を前提として、図書情報システムの基本設計を作成した。 4. 教育普及事業 展覧会に合わせた講演会、研修会等についての調査・検討を行うとともに、インターンシップ等の事業についても検討を行った。インターンシップ事業については、3月に募集を行い3名を受け入れた。 5. 広報活動 リーフレット、準備室ニュース(No. 1、2)を作成し、約4万4千部を配付した。また、ホームページを作成し、準備及び進捗状況等を公開したところ約5万6千件のアクセスがあった。</p>	<p>B</p>	<p>学芸部門の7人を含めて13人の組織体制が整備され、アートライブラリーも進捗しており、それなりの評価はできる。しかしながら、新美術館開設には次のような問題がある。まず、現在提示されている企画展は国立美術館としての個別性と共同性における展望が不足している感がある。また、他の4館では手薄な領域である現代日本が世界に誇る表現領域たる建築やアニメ・漫画、メディア・アートを企画展としてとりあげる等の検討が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 他館との連携性・新美術館の独自性について、あらゆる面において課題を洗い出すことが必要である。また公募展団体の動き、既存の美術館・ギャラリーなどへの影響を、アンケート調査などできちんと精査し、開館への準備を進めるべきである。また、全体像を含めた具体的な運営方針を可能な限り細部まで広報することが望まれる。</p>		